

令和 5 年

予算決算委員会記録

令和 5 年 9 月 15 日（金曜日）

玉 名 市 議 会

予 算 決 算 委 員 会 記 録

令和5年9月15日（金曜日）

午前10時00分開会

場所：第1委員会室

1. 本日の会議に付した案件

1. 令和5年第3回玉名市議会定例会付託案件

議第69号 専決処分事項の承認について

専決第9号 令和5年度玉名市
一般会計補正予算（第3号）

議第70号 令和4年度玉名市一般会計歳入
歳出決算

議第71号 令和4年度玉名市国民健康保険
事業特別会計歳入歳出決算

議第72号 令和4年度玉名市後期高齢者医
療特別会計歳入歳出決算

議第73号 令和4年度玉名市介護保険事業
特別会計歳入歳出決算

議第74号 令和4年度玉名市浄化槽整備事
業特別会計歳入歳出決算

議第75号 令和4年度玉名市水道事業会計
決算

議第76号 令和4年度玉名市公共下水道事
業会計決算

議第77号 令和4年度玉名市農業集落排水
事業会計決算

議第78号 令和5年度玉名市一般会計補正
予算（第4号）

議第79号 令和5年度玉名市国民健康保険
事業特別会計補正予算（第2号）

議第80号 令和5年度玉名市介護保険事業
特別会計補正予算（第2号）

2. 出席委員（20名）

委 員 長 多田隈 啓 二 君

副 委 員 長 一 瀬 重 隆 君

委 員 大 野 豊 重 君

委 員	中 村 慎 吾 君
委 員	浜 田 繁次郎 君
委 員	瀬 崎 剛 君
委 員	田 浦 敏 晴 君
委 員	山 下 桂 造 君
委 員	立 川 信 之 君
委 員	坂 本 公 司 君
委 員	吉 田 真樹子 さん
委 員	北 本 将 幸 君
委 員	徳 村 登志郎 君
委 員	西 川 裕 文 君
委 員	江 田 計 司 君
委 員	近 松 恵美子 さん
委 員	前 田 正 治 君
委 員	作 本 幸 男 君
委 員	森 川 和 博 君
委 員	中 尾 嘉 男 君

3. 欠席委員（1名）

委 員 松 本 憲 二 君

4. 欠 員（1名）

5. 事務局職員出席者

係 長	小 畠 栄 作 君
書 記	森 川 留美子 さん
書 記	古 閑 俊 彦 君
書 記	徳 永 優 貴 君

6. 説明のため出席した者

副 市 長	村 上 隆 之 君
監 査 委 員	元 田 充 洋 君
監 査 委 員	坂 本 直 子 さん
総 務 部 長	吉 田 勇 人 君
企画経営部長	宮 本 圭一郎 君
市民生活部長	松 田 智 文 君
健康福祉部長	瀬 崎 し の ぶ さん
産業経済部長	井 上 康 博 君

建設部長	田代史典君
建設部首席審議員	平田道生君
企業局長	荒木勇君
教育部長	藤森竜也君
議会事務局長	糸永安利君
総務課長	前田弘信君
秘書課長	外村靖国君
財政課長	木村隆宏君
人権啓発課長	濱治裕子さん
防災安全課長	二瀬哲也君
企画経営課長	石貫誠哉君
地域振興課長	平川伸治君
管財課長	渡邊一正君
契約検査課長	池本秀一君
情報政策課長	大石晋史君
市民課長	古賀祐一郎君
税務課長	富安崇君
環境整備課長	塚本昭広君
岱明市民生活課長	小山博君
横島市民生活課長	境順一君
天水市民生活課長	小山恭徳君
総合福祉課長	小山聡君
くらしサポート課長	平田光紀君
高齢介護課長	中川由美さん
保険年金課長	松下匡君
保健予防課長	村上洋治君
子育て支援課長	中野光昭君
農業政策課長	前田竜哉君
水産林務課長	小川昭彦君
農地整備課長	丸山隆一君
商工政策課長	神永和典君
観光物産課長	伊藤恵浩君
土木課長	田上幸二君
土木課審議員	宇野貴善君
都市整備課長	中尾賢治君
都市整備課審議員	中川英昭君
営繕課長	平川裕一君
上下水道総務課長	津川隆一君

上下水道工務課長	田上武靖君
教育総務課長	西原正信君
文化課長	瀬崎陽一郎君
コミュニティ推進課長	西川慶一郎君
スポーツ振興課長	小山晃生君
議会事務局次長	松野和博君
会計管理者	土村正成君
農業委員会事務局長	二階堂正一郎君
監査委員事務局長	園田寿寛君
その他関係職員	

午前10時00分 開会

-----○-----

○委員長（多田隈啓二君） 皆さん、おはようございます。

委員会を始める前に申し上げます。委員会はインターネット配信をしておりますので、各位並びに執行部におかれましては、個人情報等の発言には、十分御注意願います。

審査に当たって発言の際には、必ず挙手をされ、指名をしますので、委員においてはマイクスタンドのボタンを押して氏名を述べられてから発言し、終わりましたら再度ボタンを押してください。

執行部においては、ワイヤレスマイクのスイッチを入れ、所属と氏名を述べられてから発言し、終わりましたらスイッチをお切りください。

また、委員が質疑される際には、資料の名称及びページ番号等を必ずお伝えいただくようお願いします。

審査の順序、方法は、別紙の議案審査進行表に従って行ないます。各担当課からの説明は事前に配付しております主要な施策説明書及び補正予算資料を基に行なわれますが、必要最小限の事業に絞っての説明となります。

ただし、決算書及び予算書等の内容は、全て審査の対象であることを申し添えます。

なお、一般会計補正予算における各事業の財源となるべく歳入については、各事業の歳出の説明

と併せて、対応する歳入を各担当課が説明します。よって、財政課は財政課所管の歳入のみの説明となります。

最後にスムーズな議事進行のため、委員におかれましては、決算に関係ない質疑は慎むこと。執行部におかれましては、説明時間は審査案件ごと10分以内を目安をお願いします。

それでは、ただいまから予算決算委員会を開会します。

今期予算決算委員会に付託されております案件は、議案12件です。

それでは、議第70号令和4年度玉名市一般会計歳入歳出決算を議題といたします。

執行部から歳入について、10分以内での説明を求めます。

○会計管理者（土村正成君） おはようございます。会計管理者の土村です。

一般会計の歳入歳出につきましては、私から御説明させていただきます。

時間の都合もございますので、簡易的な説明になるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

それでは、まず最初に一般会計の収支の状況を御覧いただき、その後に歳入の説明をさせていただきますと思います。

一般会計歳入歳出決算書の340ページ、実質収支に関する調書を御覧ください。

実質収支に関する調書には、一般会計の歳入歳出の総額などを1,000円単位にて記載しております。

上から順に歳入総額367億2,697万1,000円。歳出総額352億5,671万8,000円。歳入歳出差引き額14億7,025万3,000円。翌年度へ繰り越すべき財源5,373万1,000円。実質収支額14億1,652万2,000円となっております。

それでは、次に歳入について説明いたします。決算書の2ページを御覧ください。

2ページから7ページまでが1款市税から22

款市債までの歳入の款項ごとの円単位での決算額となっています。

歳入の説明は、款項ごとの決算額の読み上げは省略し、合計額を読み上げ、不納欠損額と収入未済額が生じている項目のみ説明させていただきます。

歳入合計の記載がある6ページと7ページを御覧ください。

一番下の段の歳入合計欄です。左から予算現額371億4,411万6,437円。調定額372億357万7,877円。収入済額367億2,697万1,379円。不納欠損額2,134万8,041円。収入未済額4億5,525万8,457円。一番右の項目は、予算現額と収入済額との比較になっています。

次に、不納欠損額と収入未済額がある項目について、ページを戻りながら説明いたします。今御覧いただいています6ページから7ページにあります21款諸収入で不納欠損額が14万4,750円。収入未済額が1億7,085万333円となっています。

戻りまして4ページと5ページを御覧ください。

中段よりも少し上、13款分担金及び負担金で、収入未済額が150万3,378円、14款使用料及び手数料で収入未済額が1,913万2,190円。

戻りまして2ページと3ページを御覧ください。

一番上の段、1款市税で不納欠損額が2,120万3,291円。収入未済額が2億6,377万2,556円となっています。

以上で款項ごとの歳入の説明を終わりますが、目や節ごとの決算額の詳細は14ページから61ページまでの事項別明細書に記載していますので、御参照いただき、御審議いただきますようお願いいたします。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明を終わりました。

これより、質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（山下桂造君） 市民税、これの納めなくていい人の世帯の割合ってどのぐらいになりますか、玉名市内で。

○税務課長（富安 崇君） 税務課長の富安です。
納めなくていい人の割合。

○委員（山下桂造君） 収めなくていい人というか、結局収入が少なくて免除になる世帯数はどのぐらいあるのかとか。

○税務課長（富安 崇君） 概数ですけども、およそ概数で言いますと64%の方が納めなくていいという形にはなります。

○委員（山下桂造君） すいません、聞き間違えたので。64%が納めなくていい、納めている。

○税務課長（富安 崇君） 税務課長の富安です。
大体課税対象者が3万人ございます。課税となられる方がですね。全人口から換算して出しますと大体64%の方が非課税という、当然ゼロ歳からの人も入っておりますので。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（大野豊重君） 分かります。すいませんちょっと聞き方が悪かったので、要するに全人口のうちの3万人が払っているということで、オーケーです。大丈夫です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（大野豊重君） 大野です。

市民税の収入未済額については、これ昨年も質問したんですけども、ずっと5年、6年ちょっと追いかけてみたんですけども、これは減少ずっと減少傾向にあるということでよろしいんですが、ただその中の不納欠損なんですけれども、ここ4年、5年見てみると、特に前年度、令和3年度が大体880万円ぐらいの不納欠損で、令和4年度が1,300万円ということで、前年対比でいくと大体500万円ほど不納欠損が増えているんですけども、この主な何か要因というのがもし分かればお願いします。

○税務課長（富安 崇君） 税務課長の富安です。

不納欠損につきましては、所在が不明であったり財産がなかったりということで、その年々で執行停止から3年すると欠損しますので、その年々の収入によって変わってきたり、財産があったりなかったり、その調査次第で変動することにはなってきます。

以上です。

○委員（大野豊重君） はい、分かりました。ありがとうございます。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（大野豊重君） 引き続き。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（大野豊重君） 大野です。

引き続き、あと貸付金の元利収入のところなんですけれども、これも収入未済は毎年少しずつこうだんだん減ってきてて、前年の令和3年から1億切って、違うか、それは収入済みのほうか、収入未済のほうなんですけれども、不納欠損が上がってきたときに大体この収入未済が減ってきているんですけども、もうこれは仕方がないというものなんですかね、もしくはその大体どれぐらいでこの収入未済が完結するのか。その辺りの何か予測というのがもしあれば、教えていただければと。

○人権啓発課長（濱治裕子さん） 人権啓発課長の濱治です。

住宅新築資金の件でしょうか。

○委員（大野豊重君） はい、そうです。

○人権啓発課長（濱治裕子さん） この未済額で上がってきているのは、今、滞納分、もうほとんどの方は終わっているんですけども、令和5年の3月末現在で46件分、28人の滞納分がまだ、この1億2,900万円残っております。

不納欠損は令和3年度に行なっているんですけども、その分というのは、これ住宅新築資金って契約に基づく債権ですので、年数がただただでは、不納欠損できないこととなっております。

その令和3年度に行なった分については、相続

人を調査し、請求できる相手がいないということで不納欠損しております。

今現在この残っていらっしゃる28人については、お支払い、本当もう少しずつなんですけれども支払いをしていただいているので、不納欠損は行なっておりません。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

前年度から比べると大体2件、2減したということでしょうか。

○人権啓発課長（濱治裕子さん） 完納になっていらっしゃる方がそうですね、毎年2件ずつほど、もう終了された方がいらっしゃいます。

○委員（大野豊重君） はい、分かりました。ありがとうございます。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。ほかに。

○委員（前田正治君） 前田です。

一般会計決算書のですね、57ページなんですけど、ここに雑入がずっと書いてありますけど、ずっと見よって何番目かな、上から何番目かな、7番目ぐらいの子育て支援課の2,240万円ぐらいのがあるでしょう。

それ、一番下のほうの子育て支援課の副食費って書いてあつとは、これは分かるけんよかです。それと教育総務課の学校給食費というのも分かるけんよかですけど、上のほうの子育て支援課の2,200万円というのは中身は何でしょうか。

○子育て支援課長（中野光昭君） 子育て支援課中野です。

昨年、支出誤りによって学童クラブの返還をしていただいております。土曜日の開所関係です、その分が1,500万円ほどありますので、その内容になっております。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（前田正治君） 2,200万のうちの、学童保育の施設の改修費が1,500万ぐらいあるというわけですか。

○子育て支援課長（中野光昭君） 土曜日の開所をですね。

○委員（前田正治君） あ、開所、開くのほう。しょう。開くね、分かりました。

○子育て支援課長（中野光昭君） はい。本来補助として出さなくてよかった分を補助として出していたというのがあります。2学童クラブ一緒に開いたとき、本来は1学童クラブの補助でよかったのを2学童分補助していたというのがありますので、その分についての返還を各学童クラブからしていただいているのがあります。

○委員（前田正治君） 前田です。

じゃあ学童クラブとかですね、下の子育て支援課の副食費とか、教育総務課の学校給食費とか、これで未納分はどこを見れば分かつとですか。未納分。まず、副食。

○子育て支援課長（中野光昭君） 子育て支援課中野です。

雑入の副食費についてはですね、未納はございません。

○委員（前田正治君） 未納なし。はい。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（前田正治君） いやいや、なら学校給食。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

学校給食費の収入未済額におきましては、決算書のほうには現れておりませんが、収入未済額として110万4,809円が収入未済額となっているところでございます。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

じゃあ、子育て支援課の副食費というのはもう未納はなしというわけですね。なしと言いだしたけんですね。そうすると給食費の未納についてはですね、これはいわゆる回収はどぎゃんふうにしとらすとですかね。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

回収におきましては、催告のほうを四半期程度、未納の方に通知を行なっているところでございます。

以上です。

○委員（前田正治君） それでは110万円の未納があつとですけど、今に至るまで、今時点ですね。このうちのどんくらい回収してあつとですか。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

今手元に令和5年度の執行状況の資料が手持ちでございますので、後でお答え申し上げます。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

この学校給食費の未納については、市税は5年の時効というのがあつですけど、学校給食費の時効については、何年ば設定してあつとですか。あつとでしょう。

○教育総務課長（西原正信君） たしか5年で時効が来るというふうに考えております。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

5年。学校給食費の未納については、この決算書で出てくる未納というのは今年、令和4年度から初めて公会計にしたために、出てきとつとですけど、110万円の未納分の取立て、取立てというところとちょっと語弊があつですけど、回収状況がよう分からんですけど、未納されている家庭のそれぞれの個々の状況というのは、教育総務課のほうじゃ何かつかまれとつとですか。

続けて、前田です。

公会計が始まる時に未納対策として、私はいろいろそれぞれで、きつかつてという信号ば出しよつとなつとらけん、何か対応ばせんといかんとじゃないかというようなことを聞いたら、何か就学援助とか何とかそういうことも勧めて行きますよみたいな話があつたんですけど、この未納のお宅に対して実際にそういった何らかの手だてはされたところはあつとかなと思う。

○教育総務課長（西原正信君） 今、前田委員が

おっしゃられるとおり、就学援助費の勸奨等も広報たまた等に掲載し、厳しい御家庭におかれましては、そういった対象要件等は必ずお伝えするようにしているところでございます。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

いや、だけん未納に対する対策ということで、催告は今4か月に1回何かしよつとか何とか言われたんですけど、やっぱそういったところは、何らかのやっぱ対策をするというのが、公会計にした1つの私はメリットだと思うとですよ。

そこら辺までびしゃつとして、公会計にした意味があつとじゃないかなと思うとですけども、後で回収状況もちよつと調べて教えてください。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（前田正治君） はい。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（北本将幸君） 北本です。

全般的なところになるかもしれないんですけど、意見書のほうの8ページ、経常収支比率が出ていますんですけど、令和3年度が95.7%で今年度97.7%で、また2%上がってきているんですけど、これ要因的には入ってくる交付税とかの額が減りよつとですか、それとも出ていくほうも増えよつとですか。

○財政課長（木村隆宏君） 財政課長の木村でございます。

委員が今おっしゃっているとおりですね、今年度は2%ほど上昇しておりますけども、これにつきましては県内の自治体は全体的に同様でございます。分母となります収入分ですね、交付税と臨財債こちらのほうの減少がかなり大きく影響しております。分子の歳出の一般財源については、昨年に比べて減少しておりますので、分母のほうの影響ということでございます。

○委員（北本将幸君） 北本です。

結構ほかのと比べても高いじゃないですか。市

町村は、やっぱ玉名市は厳しかったですか。この傾向は来年度も行くって感じですかね、それともぎりぎり100%行かんぐらいでとどめとけるとですか。

○財政課長（木村隆宏君） 財政課長の木村でございます。

経常収支比率が高い状況でございますけれども、これが上がらないようには努力をいたしているところでございますけれども、何せ依存財源とかそういったところの影響もございますもので、内部では歳出等の支出についてはなるべくその単独での事業についてはよく考慮した上で予算化とかをいたしているところでございます。

以上でございます。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（北本将幸君） いいです。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑はありますか。

ちょっと1点だけ、多田隈です。

42ページなんですけど、6目土木費、県補助金が1,157万2,000円が、当初計画ではあったんですけども、補正で全額補正されております。この計画が何だったのか、そしてなぜこう全額補正されたのか、お伺いしたいと思います。

○建設部長（田代史典君） 建設部長の田代です。

この1,157万2,000円の減額、内容なんですけれども、まずですね、土砂災害危険住宅移転促進事業補助金3件分の900万円を当初予算化しておりました。次が、がけ地近接等危険住宅移転補助金、これが1件分で207万2,000円、それと民間建築物アスベスト対策支援事業補助金2件分で50万円を当初予算で計上しておりましたけれども、令和4年度の申請がですね、ゼロ件のために、全額補正で減額しております。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） 分かりました。ありがとうございます。

ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

○委員（前田正治君） 前田です。

決算書の25ページをお願いします。この民生費負担金の中で、児童福祉費負担金の中で、保険給付利用者負担金が計上されていますけど、これの未納分というのはあるのでしょうか。

○子育て支援課長（中野光昭君） 子育て支援課中野です。

これについては未納分がございます。未納額が一番上の段のやつですね、未収額が48万1,380円です。2段目の滞納分が40万4,240円が未収となっております。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

滞納も含めた未納分というのは、回収はどぎゃんふうにしよんなってですかね。

○子育て支援課長（中野光昭君） 子育て支援課中野です。

まず、督促状を発送しまして、その後に催告書等を送付しております。催告書等でも納めていただけない場合は、電話連絡等をやっております。

また特別徴収といいまして、児童手当から保険、現年度分については徴収することができますので、児童手当からのをいただいているところでございます。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

児童手当から引き落とすのは、本人がよかですって言わんと引き落とされんわけでしょうね。

○子育て支援課長（中野光昭君） 子育て支援課中野です。

現年度分についてはですね、許可なく引き落とすことができます。滞納分については許可をいただいて引き落としているという形になります。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

前年度は滞納分じゃなかったですか。

○子育て支援課長（中野光昭君） 子育て支援課中野です。

現年度、令和4年度という。

○委員（前田正治君） 現年度。ちいと耳の悪くなった。分かりました。

そうやって回収したっちゃ、やっぱどうしても回収しきらんという場合のこの保育料に対してのいわゆる時効というのは発生すつとですか。

○子育て支援課長（中野光昭君） 子育て支援課中野です。

どうしても取れない場合はやはり時効が発生しますので、やっぱり不納欠損という形になると。

○委員（前田正治君） はい、分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（前田正治君） はい。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありますか。

○委員（北本将幸君） 北本です。

市税のとこなんですけど、14、15ページの、市税の中で一番大きな割合も占めているのが固定資産税だと思うんですけど、家がいっぱい建ちよるけん、固定資産税も増えていっているのかなと思うんですけど、やっぱり収入未済も結構あると思うんですけど、この未済のやつとか不納欠損とかになるやつってやっぱ、空き家とかのやつも多いんですか。そういうわけじゃないです。あんまり関係ない。

○税務課長（富安 崇君） 税務課長の富安です。

この未済の中身につきまして、空き家かどうかというところまでのデータはございません。

以上です。

○委員（北本将幸君） 不納欠損をずっと、あんま変わらん、こんくらい毎年上がっていく感じ。収入未済の。

○税務課長（富安 崇君） 税務課長の富安です。

そうですね、先ほどもその年々で違うということとは申し上げたんですけども、滞納者の生活状況、資力に応じまして、執行停止等対象になりましたら、そこで執行停止をかけて、3年後に不納欠損という形になりますので、その年々で若干の差異はあると思います。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（北本将幸君） いいです。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

○税務課長（富安 崇君） 税務課長の富安ですけど、一番最初に山下委員から市民税の対象とならないパーセントを聞かれて64%と申しましたけども、実質的には51.6%ですので修正させていただきます。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） はい。よろしいですかね。大丈夫ですか。51.6。

ここで執行部の入替えのため暫時休憩いたします。

再開は11時45分から行ないます。

—————○—————

午前10時34分 休憩

午前11時45分 開議

—————○—————

○委員長（多田隈啓二君） それでは休憩前に引き続き委員会を開きます。

次に、一般会計歳出、1款議会費及び2款総務費の審査を行ないます。

執行部から10分以内の説明を求めます。

○教育総務課長（西原正信君） 先ほど歳入のほうで、前田委員のほうから御質問がありましたときに、後で回答しますとしたことを。

○委員長（多田隈啓二君） はい。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長西原です。

令和4年度の収入未済額が110万4,809円あると申し上げまして、その後幾ら回収が上がっておりますかという質問だったかと思いますが、現在9月15日現在で68万2,131円

回収を行なっているところでございます。61.7%が回収されている状況でございます。

今後はですね、就学援助費等も奨励しながら、限りなくゼロに近くなるように収納率アップに努めていきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（多田隈啓二君） はい、よろしいですか。

○委員（前田正治君） 分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） 大丈夫ですか。

それでは執行部から10分以内での説明を求めます。

○会計管理者（土村正成君） 会計管理者の土村です。

では、決算書の8ページを御覧ください。

8ページから11ページまでが歳出の1款議会費から14款予備費までの款項ごとの円単位での決算額となっています。

説明では款項ごとの決算額の読み上げは省略し、10ページと11ページの歳出合計を読み上げます。その後に主要な施策の成果に関する説明書を用いて1款、2款の中から数件を抜粋し、事業の成果を中心に主管課長から説明させていただきます。

歳出合計の記載がある10ページと11ページを御覧ください。

一番下の段の歳出合計です。左から予算現額371億4,411万6,437円。支出済額352億5,671万7,893円、翌年度繰越額2億4,380万7,347円。不用額16億4,359万1,197円。一番右の項目は、予算現額と支出済額との比較になっています。

これから御審議いただきます、1款議会費及び2款総務費の決算額については8ページと9ページ上段に記載しているとおりで、読み上げは省略させていただきます。

また、目や節ごとの決算額の詳細につきましては62ページから115ページ中段までの事項別

明細書に記載していますので、別途御参照ください。

なお、今回から歳出の事項別明細書は、予算書と同様に事業別での記載をしております。

続きまして、令和4年度主要な施策の成果に関する説明書の中から数件の事業を抜粋して主管課長から順次説明いたします。

説明の後、御審議いただきますようお願いいたします。

それでは、令和4年度主要な施策の成果に関する説明書を御準備ください。

○総務課長（前田弘信君） 総務課長の前田です。

説明書1ページをお願いします。事業名は人材育成事業、決算額は544万2,741円です。

事業の成果といたしましては、階層ごとの基礎研修を268人が受講、研修専門機関などへの派遣研修を96人が受講し、職員のスキルアップにつながりました。

以上です。

○企画経営課長（石貫誠哉君） 企画経営課長の石貫です。

説明書の6ページ、お願いいたします。

事業名、過疎地域対策事業で、決算額は332万3,594円でございます。

事業の概要は、令和2年国勢調査の結果を受け、令和4年4月1日に旧天水町の区域が一部過疎に指定されたことに伴いまして、過疎法に規定された市町村の振興計画である過疎地域持続的発展計画を作成するものになります。

この事業の成果といたしまして、過疎地域持続的発展計画を作成する過程においては、5月から6月にかけて天水中学校の3年生や地域の住民の方を対象としたアンケート調査を、それと並行して庁内の関係課ヒアリングを実施いたしまして、6月末に天水公民館における住民説明会などを経まして必要な意見を反映させた過疎地域持続的発展計画の素案を作成し、パブリックコメント、県との事前協議、最終的には昨年9月定例会での議

決を得て当初のスケジュールどおりに10月に公表することができました。

なお、本計画に基づきまして令和4年度には、過疎債を活用しまして尾田川の県営かんがい排水事業や草枕温泉ポンプ設備工事、天水体育館中規模改修工事など、ハード、ソフト合わせて16の事業を実施いたしました。

説明は以上でございます。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課二瀬です。

防災安全課から1つの事業について説明させていただきます。

主要な施策の成果に関する説明書8ページでお願いします。

交通防犯対策費の交通安全対策事業で、決算額は1,882万16,655円でございます。

事業の概要としましては、交通危険箇所へのカーブミラーなど交通安全施設の整備、また交通指導員による街頭指導や啓発活動及び玉名地区交通防犯協会をはじめとする関係団体との連携した交通安全の推進を図るものでございます。

事業の成果としましては、交通安全施設の新規設置や既存施設の適切な維持管理により安全安心な交通環境が保たれました。

説明は以上です。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

続きまして、説明書の10ページをお願いします。

地域振興課から地域公共交通対策事業について説明をいたします。決算額は1億6,264万3,062円です。

事業の概要は、乗合タクシーの運行に伴う事業と併せて路線バスによる地域公共交通を維持確保するため、バス事業者に対して補助金の交付を行なうものでございます。

事業の成果といたしまして、まず乗り合いタクシーにつきましては、新型コロナウイルスによる

外出自粛が緩和されたことによって利用者数は全体的には増加傾向となりました。

そのうち、玉陵いだてんタクシー運行事業は、令和4年4月より玉陵地域全体に運行エリアを拡大したことによりまして令和4年度の利用者数は前年より202%増加の1,235人となり、運行事業者に対して938万3,500円を支出しております。

また、滑石・岱明地域しおかぜタクシーは、前年より26%増加の7,030人となり、1,582万6,850円を支出し、大浜・豊水・横島地域いちごタクシーは2.7%減少の3,069人となり、1,493万3,950円を支出しております。

天水地域乗合タクシーは、令和5年3月末をもって、これまでのルート運行型のみかんタクシーを廃止をしております。4月から天水地域全体を運行する、区域運行型のおれんじタクシーの運行を開始をしております。令和5年4月の運行開始に向けて令和4年12月から令和5年3月までの4か月間、無償運行を行なっております。

従前のみかんタクシーにつきましては、11.2%減少の1,144名となり、100万9,746円を支出しております。

新たなおれんじタクシーの運行開始に向けた4か月間の無償運行期間中には、延べ1,106人の利用があり、その際の委託料316万円を支出しております。

乗合タクシーの運行事業者に対して、全体で12.4%増加の4,431万4,046円を支出しました。

次に、地方路線バス運行補助事業につきましては、令和3年10月から令和4年9月までの間、市内を運行しています路線バス19系統全てに欠損が生じておりまして、運行補助金は8%減少の9,072万7,700円を支出しております。

また、年間の輸送人員は、新型コロナウイルス感染症による外出自粛の緩和から、前年より約

4%増加しまして約48万人となりました。

補助金が減少した主な原因は、バス路線の廃止、減便による運行経費の減少によるものです。

地域振興課から以上です。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀でございます。

説明書の12ページをお願いいたします。

市民課からは、社会保障・税番号制度事業について説明させていただきます。

決算額は2,625万8,128円でございます。

事業の概要ですけれども、国が付番した個人番号の通知及びマイナンバーカードの作成事務を地方公共団体システム機構に委託をいたしまして、作成されたマイナンバーカードを市が交付をするというものでございます。

市の窓口におきましては、マイナンバーカードを1人でも多くの市民の方々に取得していただくための受入体制を十分整備をいたしまして、カードの申請サポート、それから交付をはじめ定期的な更新、切替え等の手続において迅速かつ正確に処理を行なうというものでございます。

事業の成果ですけれども、マイナンバーカードの出張申請におきまして企業や事業所、または地域やイベント等を訪問いたしまして申請機会の拡充を図っております。

また、マイナポイントの付与、健康保険証とのひもづけ、交付金受取口座の登録についてもサポートを行なっております。

それから、マイナンバーカードの受け取りに際しまして、ふだんお仕事等で忙しく平日の受け取りが困難な方々に対し、休日の交付窓口及び平日の延長窓口を開設いたしまして、取得機会の拡充を図っております。

最後にマイナンバーカードの交付状況ですけれども、令和4年度末時点におきまして人口6万3,749人のうち申請者数5万1,339人、交付者数4万633人、本市人口の63%が取得をしているという状況でございます。

以上で一般会計、1款及び2款についての説明を終わらせていただきます。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明は終わりました。

これより質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議ありませんか。

○委員（山下桂造君） 山下です。

今の読み上げられた資料1ページです。

派遣研修事業とか、ちゃんと行なわれているんですけど、ちょっとお尋ねなんです、派遣研修事業で長期にわたって2年間というので、J I AMのほうでありますけれども、全国市町村研修財団とかに職員として派遣するというのは玉名市は行なっているのでしょうか。

○総務課長（前田弘信君） 総務課長の前田です。

2年間というような研修には玉名市として派遣はいたしておりません。

○委員（山下桂造君） 山下です。

いろんな人と研修ができたりすると市の職員の方が2年間行くことによっていろんな研修ができると、研修を実際主催するというのに回るようなのがあっているみたいですので、そういうのも行かれたらどうかなと思ってちょっと伺いました。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（大野豊重君） 大野です。

資料ではないんですが、決算書の83ページの高度人材ジョブケーション実証業務委託についてなんですが、300万円かけられていますけども、これ当初予算ではたしか200万だったんですけど、補正で上がったんですって。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

補正で100万円ほど追加させていただいております。補正100万円の理由としましては、ジョブケーションの可能性調査をいたしまして、可能性調査の結果、当初見込んでおりました事業者よりもより多くの事業者の応募が見込ままし

たので、その分を100万円補正させていただいております。

以上です。

○委員（大野豊重君） これ多分令和3年度のときは5社で延べ36人、これが令和3年度だったんで令和4年度はそれで予算組んで、それが増えたということで実際実績はどんなものだったんでしょうか。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

可能性調査で9件ほど申請がっておりますけれども、結果的に6社、7名の調査のほうをさせていただいております。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

続いてよろしいですか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（大野豊重君） その下の同じ決算書の83ページの遊休不動産等の利活用促進事業というのが499万円ありますけど、すいません、これについてちょっと全然認識がないんで教えていただければ。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

遊休不動産関係の事業につきましては、空き家の利活用に関する事業でございます、1つは空き家に関する専門的な、例えば不動産事業者とかをはじめとする専門の皆さんと空き家の利活用について話し合いをしていくような事業、それと空き家の状況を市内を含めて視察であったりワークショップであったり、そういったことをしたりというようなことをしたような事業でございます。

○委員（大野豊重君） 大野ですけど。

今のお話ですと専門家に来ていただいているいろいろ利活用についての話をしていく。そういう話を回数こなされたやつだとか視察だとかワークショップをやっていた。どれぐらいやられてこの499万円かかるのか。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平

川でございます。

空き家のセミナーは、玉名圏域、定住自立圏の構成町と一緒にいった空き家セミナー、あとは空き家コンシェルジュの育成事業、あとは空き家の利活用に関する無料相談会辺りを開催したんですけども、構成市1町合わせて、全5回の開催をしております。

○委員（大野豊重君） はい、分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（大野豊重君） 続いてよろしいですか。

○委員長（多田隈啓二君） はい、どうぞ。

○委員（大野豊重君） 続いて大野ですけども。

決算書の91ページの防犯対策費、下のほうの今のこれも空き家に関する話なんですけど、空家等推進対策事業で、システム点検保守66万円、啓発チラシが28万円で、この事業というのはそもそも令和3年度に空家実態調査の基本計画が2,300万円ほどかけられて、令和4年の3月に空家対策計画書が策定された中での話だと思うんですが、実際このシステム保守点検とかこの啓発チラシというのはこれ多分もう毎年かかっていくものなのかなというふうには予測するんですけども、この計画を策定されてからこの事業の進捗状況とか効果とか、あと空き家の登録者だとか入居者だとか、そういったところまでしっかり効果が出ているのかどうかというのを伺いたいと思います。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二瀬です。

ただいま御質問ありました空家等管理システム保守点検、あと空家等対策推進事業啓発チラシ印刷・封入事業についてですが、こちらについては、システムの保守点検については大体これぐらいの同額で毎年計上させていただいております。

それと下のチラシ封入につきましては、実はこれは令和4年度から行なわれたことで、成果としては、これは固定資産税の納入通知書ですから、あちらのほうに同封するような形で行ないま

した。そしたら結果的には結構反響等もございまして、これは今後毎年継続していく予定ではしております。

○委員（大野豊重君） 空き家の登録状況とか。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 進捗状況につきましては、それについてはちょっと把握のほうはできておりません。

○委員（大野豊重君） ウェブシステムありますよね、あれの登録とか、登録した分の入居に至った割合だとか、そういったところちょっと知ればなど。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二瀬です。

そこまでの後追いの調査等については、ちょっと今実際ずっとできていないような状況でございしますので、今後その辺りは検討してまいりたいと思っております。

○委員（大野豊重君） 大野です。

それは後ほどで構わないんですが、結局この計画を策定して固定資産税の納入通知と併せてチラシを入れてその効果がより高まったということだったので、当然その登録数というのが、以前たしか北本議員が一般質問でされたときも、物すごい少ないなというイメージを受けたんですけども、それが飛躍的じゃなくても伸びるのかなという印象を持ってはいるんですけども、その辺りはまた後日でも構いませんので教えていただければと思います。

本件は以上です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（大野豊重君） 以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

○委員（前田正治君） 前田です。

今の同じ83ページの遊休不動産等の利活用促進業務委託、これは空き家だけですよ。業務委託の中身、この遊休不動産等の利活用促進業務委託というのは空き家だけを対象にしているんです

か。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川です。

空き家です。

○委員（前田正治君） 前田です。

そのほかにいろいろ土地があるじゃないですか。そぎゃんとの活用については、別に何も手つかずというところですか。売りには出してある。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

この遊休不動産利活用促進業務委託なんですけど、中身につきましては先ほど若干説明をしましたが、玉名圏域定住自立圏の構成町と連携した空き家に関するセミナーだったりを開催したり、空き家アドバイザーの育成のための養成講座を開催したり、あるいは空き家の先進地を見学するツアーであったり、ワークショップを開催するような事業の内容になっております。対象は空き家に関してでございます。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

同じく83ページの、空き家に対する登録して、それを紹介して見に行きなはって、うまく利活用に結びついたというなら分かつとですけど、何とかなのかな、利活用に結びついた成功率というかな。この辺は令和4年度はどぎゃんだったですか。利活用の状況です、空き家の。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

令和4年度の実績なんですけども、空き家バンク制度のことだと思いますけれども、実績としましては、今現在登録件数が6件、今現在では6件ありまして、これまでの成約実績としましては、12件の実績がございまして。

令和4年だけの成約実績としましては3件になっております。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

あの登録も、やっぱり空き家の実態からすると

少なかったなと思うんですけど、登録するじゃないですか空き家バンクに。実際にホームページか何かでそぎゃんとも検索して利用したいなという人は見に来て思うんですけど、あるいは相談に来たりですね。その中に不動産業者の人たちもいろいろお世話ばしなっとでしょ、たしかボランティアで、そうですね。そんな場合に結局成立するまでにはいろんな手続が必要と思うんですけど、そのための手続は不動産の人がたけとるけん、はやつかなと思うんですけど、成立した場合に不動産業者の人たちの、何というか、取り分というとまたおかしかばってん、全くのボランティアなのか、それとも謝礼か何かそういったのを払いよんなはっとかどうか、そこら辺はどぎゃんですか。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

空き家バンク制度につきましては、窓口のほうで受付をしております、登録をしてもらって利用したいって申出がある方は窓口のほうに来ていただいて、そのまま買ったり借りたり希望の空き家のほうに内覧という形で御案内をいたします。

登録できる空き家の要件につきましては、売買でも賃借でもその両方でも構いません。

それと建築年数、建築面積とかも問いませんし、ただ個人が所有する空き家で、登録申請時点で宅建事業者で媒介依頼しているものは除くというような条件があります。

実際、内覧をしてもらって成約する、購入したい借りたいということが決まりましたら、そのまま不動産事業者のほうに引渡しをしますので、それから先の手続は不動産事業者のほうで行なってまいりますので、特別市のほうから手当を出しているとかということはございません。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

では、その成立した場合のいろんな手続上の手数料というのは当然不動産業者の人が本人さんからもらいよんなはっとかですかね。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平

川でございます。

お見込みのとおりです。

○委員（前田正治君） 分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（前田正治君） はい。

○委員（大野豊重君） すいません、今の続きなんですけども、これも前出たかと思うんですけど、その空き家バンクの登録は今の答弁でもそうだったんですけど、結局不動産にお願いしている分は除くという話だったでしょう。そこはそれもオーケーにしたほうがもっと、増えるんじゃないかな。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

基本的には不動産事業者のほうで中古住宅等は行なっていただいておりますので、空き家バンク制度としましては不動産事業者等々、宅建事業者等が行なっていないものに限って今のところは行なっているところでございます。

○委員（大野豊重君） 先ほどの私の質問で、答弁いただけなかったのは、ちょっと僕も言葉を忘れて、空き家バンクだったので、この話だったんで、そこはちょっと考えて、もう少し考えていただきたいと思いますが、6件と少ないと思うんですね。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（山下桂造君） 山下です。

今の83ページの委託料のところなんですけれども、関係人口構築事業業務委託とか、たまな未来創造塾共同研究業務委託というふうな形で、調査依頼という形のものはいっぱいあるわけですよね。これについての報告書というのがどうなっているのかなと思ひまして、ホームページで見たら、募集はあるけども報告書は載ってない。報告書があれば、どういう内容をしているか分かるしですね、我々としても中身が分かったら非常にありがたいと思うんですが、今の現状を教えてください。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

すみません、どの分についての報告でしょうか。

○委員（山下桂造君） すいません。あの質問があれなんで、それぞれいろいろあるんですが、ここに業務委託をした。じゃあ業務委託したことに対して報告書というのはもうこれ昨年度のものですから上がってきていると思うんです。

だから、それぞれいろいろあるんですけども、基本的にあるのかないのか。もうどなたが言われても構わないんですけどもですね。あるないで。

そしてもしよかったら、こういうの出ているんだったらもう予算化しているならば、やはりこういう結果でしたというかな、その報告書自体が読めるようになればすごくありがたいと思ひまして、それで伺っております。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

関係人口構築事業業務委託につきましては募集をしまして、実際事業を行っておりますけれども、事業結果についてはホームページ等では公開をしております、今の時点では。

その辺、貴重な御意見いただきましたので、今後改めたいと思います。ありがとうございます。

○委員（山下桂造君） 山下です。

そういうのがほかにもいろいろありますので、その報告書が、ホームページ上げる上げないでまた問題もあるかもしれませんけども、例えば閲覧を希望したら見せていただくとか、すぐできるならば、それぞれ全ていろんな事業についてです。よろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

主な成果に関する説明書の13ページなんですけど、これ2款だけ、よかですね。

ここにコンビニエンス証明書交付事業が出ていますけど、事業の成果で令和4年度の利用件数が

8,463件ということになっています。これは市役所窓口で、支所も含めていろいろ発行するじゃないですか。この全体のうちの何割ぐらいになつてですか。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀でございます。

少々お待ちください。

全体で証明書の発行部数というのが約8万件ぐらいございます。それからすると。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

ちょっとよく覚えませんが、コンビニでそういった証明書を安くしたじゃん。あのときの実績は。

○市民課長（古賀祐一郎君） コンビニ交付です、ね、令和4年度12月から3月までの4か月間、10円にしておりますけれども、そのときの実績が6,835部発行しております。

その前までの実績がですね、4月から11月までの実績が3,290部ということです。

月に平均しますと大体4倍ぐらいの発行が増えているという状況になっております。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

月に何ておっしゃったですかね。

○市民課長（古賀祐一郎君） 月にですね、月大体300件から400件ぐらい平均すると、コンビニでは10円ではないときにはあっていたんですけども、それからすると10円にした期間については、月に1,200件から1,300件ぐらい、4倍ぐらい。

○委員（前田正治君） 月に4倍に増えた、10円にしたら。

○市民課長（古賀祐一郎君） はい。

○委員（前田正治君） なるほど。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（前田正治君） 前田です。

この10円にした分も含めて8,463件でしょう。

○市民課長（古賀祐一郎君） 件数としては8,

463件、部数としては1万136部になります。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

安かったけん、それだけコンビニで取るのかなと思って、行きなはったと思うんですけど、また元に戻るとるけん。それだけ月に400件あつかなと思ってですね。

よかです。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに。

○委員（北本将幸君） 北本です。

今のでちょっと関連なんですけど、これ結局1,000万円ぐらいかかるとるじゃないですか、経費が。この今1割ぐらいが取りよるって言われたんですけど、これが2割3割とか4割程度が上がっていけば、この収支的だけ見るとちょっとはカバーできていくとか、何か分岐点みたいのあつとですか。それとも、やっぱ委託料とかがかかるけん、やっぱ単純にそこの収支だけ見るとマイナスということになるんですか。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀でございます。

そうですね、お金の話になるとですね、なかなか答えにくいんですけども、費用対効果としては、なかなかこのコンビニ交付で賄うというのは難しい状況かなと。1つの利便性の向上ということに重きを置いて今後もやっていく事業であるというふうには思っています。

とはいえですね、今この委託料がたくさんかかっているんですけども、今後はですね、国が運営するクラウド等とかですね、そういった安価なシステムに乗り換えること等も考えながら運営をしていく必要もあるのかなというふうに考えています。

以上です。

○委員（北本将幸君） 北本です。

あともう1個別なんですけど、73ページのところで、LINEカスタマイズ業務委託が上がって、もうLINEのやつが結構使いやすくだんだ

ん進化していきよと思うんですけど、実際のところ、このLINEば登録している人の数って増えていきよとですか。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

LINEのカスタマイズの、市の公式LINEのカスタマイズ後の登録者数の伸びというところでお答えしたいと思いますけれども、令和4年の10月末で4,890件の登録がありました。これはカスタマイズする直前の登録者数でございます。その後、LINEのカスタマイズのための予算計上を11月にさせていただいておりますけれども、カスタマイズの作業に入りまして、市の公式LINEを6月にリニューアルをしております。その時点で登録者数が5,324件、それから機能の拡充を都度都度行なっております。例えば電子申請・決済の運用開始であったり、あとは上下水道料金の口座振替日の通知機能の追加であったり、一番最初にはごみ出しの分別のチャットボット機能とかも始めているんですけども、最終的に10月末時点で4,890件の登録者数であったのが、今日現在で6,980件の登録になっております。2,090件の今のところ登録者数の増加というところです。

以上です。

○委員（北本将幸君） 北本です。

徐々に増えていきよと思うんですけど、この増やす取組的には、例えば今言われたいろいろできるようになるじゃないですか、その関係の窓口とかでござんとかができますよって、登録したほうがいいですよみたいな声かけみたいなのをされよとですか。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

公式LINEのカスタマイズについては、その内容内容で所管課と協議をしながら機能を拡充しているところでございます。

その所管課の窓口でLINEの件でお見えにな

るときには、登録を働きかけてもらうようにお願いもしていますし、市民講座あたりでもLINEの使い方であったり、高齢者向けの市民講座だったというところで活用をお願いしているところがございます。

それと庁舎の1階、2階、特に1階の窓口のほうにはポスターといいますか、LINEを導入していただけるようお願いの貼り紙をさせていただいておりますし、三角柱のポップアップというんですかね、2次元コードを表示しまして、市の公式LINEに登録していただけるような働きかけというのは今行なっておりますので、市民課の窓口とか、あと申請書を書くような場所にも立てさせていただいておりますので、その辺で働きかけをしているところでございます。

○委員（北本将幸君） 北本です。

LINEのやつは登録してもらうと言え、こっちから多分行政からの情報を直でばんってやれると思うんで、かなり情報発信にはなると思うんで今、6,980件ということは単純に人口だけで見るのは10%ちょっとぐらいなんで、これが20%、30%とかまで増やしていけるとかなりの情報発信になると思うんで、やっぱそのカスタマイズもやっぱ必要なんですけど、カスタマイズしながらその利用者を増やしていけるというほうにも力を入れていっていただけるといいかなと思います。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（近松恵美子さん） 近松です。

乗合タクシーですね、目的が通院、買物、それからいろいろあると思うんですけど、大体どんな割合か分かっていたら教えてください。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

乗合タクシーの利用者数でよろしいでしょうか。

○委員（近松恵美子さん） 目的別の利用者数まで分からなくていいんですけど、大体どのくらい

かな、みんな何で使っているのかなと思って。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川です。

まず乗合タクシー運行事業の目的なんですけれども、1つはバス路線廃止の代替交通として導入。

すいません。乗合タクシーを利用する目的なんですけれども、一番多いのはかかりつけの病院とかが一番だと思いますし、あとは福祉センターあたりの温泉利用とか、あとは買物であったりが一番多いのかなと思っております。

以上です。

○委員（近松恵美子さん） 思いますしとか、そうなのかなという回答だったんですけど、それは根拠があつてのことですか。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川です。

目的地あたりはその都度その都度オペレーターの方で電話対応しておりますので分かるんですけども、集計まではしておりませんので、はっきりした数字、どこの目的が一番多いということは分かりませんけども。

はい、すいません、以上です。

○委員（近松恵美子さん） 近松です。

アンケートを取ったりする、調査するのがとても大変だったら、そのタクシー会社に聞いたらざっと分かるかと思うんですけども、病院なのか買物なのか、それから遊びなのかですね、その辺のどこを分かる範囲ではっきりさせていただいたらと思います。

それと、社協のほうに委託して、何ですかね、バスが回っていますよね。あれ辺りを今後どうするかということを考えていかれたほうがいいかなと。これが全域に乗合タクシーを運行していきますと、どのくらい必要性があるのか、また社協が走らせているのがどのくらい乗客が減っているのかとか、そういうことも考えて今後の事業の進め方を考えていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（大野豊重君） 先ほどの北本委員のLINEカスタマイズ業務委託のほうでちょっと追加で1つだけ聞きたいんですけど、個人情報の取得って、登録者の個人情報の取得ってやられているんですって。

ちょっと私も登録はしているんですけども、登録の仕方、どうだったかなと覚えてないんですけど、登録するときに要は個人情報の取得というのはやっているのか。その理由としては利用者分析を目的の中の1つとしてあるのかどうか、この事業で。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川でございます。

市の公式LINEに登録するときに性別であったり、お住まいのエリア、玉名町校区だったり、築山校区だったりというある程度の設定という、画面がありますので、設定による分類というのはしておりますけれども、個人情報の取得までは行なっておりません。

○委員（大野豊重君） 大野です。

個人情報というよりは利用者分析、先ほど言われた地域、年齢、性別とか、何やっているかとかですね、そういう利用分析もこの事業の中に入れて次のカスタマイズに反映するようにしていると、そういうところまでやられているという認識でよろしいですか。それともそこまでやってないのか。

○地域振興課長（平川伸治君） 地域振興課の平川です。

先ほど申し上げましたように、市の公式LINEはカスタマイズして以降は、それまでの一方的な情報提供というよりも、双方向での情報のやり取りができますし、例えばごみの分別にしても登録をいただいたエリアの方には、次の日のごみの分別が何であるとか、あとは学校の給食の献立の配信辺りを今するように取組を進めているんですけども、学校ごとに給食の献立を配信したりということが出来ますので、分類というのは当然、

設定のときにしてもらって、その分類ごとにこちらのほうから情報提供を知ることが出来ますので、これからの中身については当然分析をしつつ事業を進めていきたいと思っております。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

○地域振興課長補佐（高本康夫君） 補足ですけど、地域振興課の高本と申します。

市民の方の声、利用者の方の声を聞くためにですね、今も行なっているんですけど、LINEでアンケート機能がついておりますので、その辺りを十分皆さんの御意見をいただきながら反映していきたいと考えております。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（大野豊重君） はい。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（前田正治君） 前田です。

メタボにならんごと好きなアンケートに送りました。好きな食べ物に。

主な施策の12ページなんですけど、マイナンバーカードの申請者が5万1,339人で、交付が4万何がしなんですけど、これに差があるというのは、申請と交付までに時間があるという問題と、取りに来ない人がやっぱ中におんなはるわけでしょう。

取りに来ない人は、ちなみに令和4年度は何人ぐらいおらしたんですか。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀でございます。

令和4年度においては、これはいつも動いている数字ですので、令和4年度というか大体3,000人ぐらいが、3,000部ぐらいが前後している状況でございます。取りに来られない方。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

取りに来ない人が大体3,000人前後でおんなはっということですね。

そうすると取りに来ない人への来てくださいという連絡というのは、どぎゃんふうにしとらすつとですか。郵便か何かで送る。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀で
ございます。

再通知、再々通知ということで御連絡をやって
いるということで、郵便で行なっております。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

郵便で。そしてこれはたしかそこで、あんたげ、
あんたげって言ったらいかん、総務課では預かつ
たときはあった、どのくらいなんですか期間は。

○市民課長（古賀祐一郎君） 基本的にはですね、
3か月ということになっているんですけれども、
コロナ禍ということもあってですね、今、その期
間が過ぎたからといってそれを廃棄するというこ
とではなくて、それは今のところずっと保留とい
うことになっております。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

取りに来ない人は、よう分からんばってん、大
体どんな理由が考えられるつとですかね。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀で
ございます。

なかなかですね、ちょっとこの理由までを調べ
たことはありませんけれども、恐らくは取りあえ
ずは、申請はしたけれどもというような人、ある
いは何らかの理由で高齢者の方で取りあえず周り
の誘いで、例えば一緒につくったけれどももう取
りに行くのがおっくうだというようなこと辺りが
ちょっと推測できます。

以上です。

○委員（前田正治君） 了解です。分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（前田正治君） はい。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（吉田真樹子さん） 吉田です。

今のマイナンバーカードの件で、作られたけど
それを返されたというケースはあったんでしょう
か。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀で
ございます。

あっております。玉名市においてはですね、1
4件あっております、一応返される時にはです
ね、これは今のデジタル社会の中では今後も必要
になってきますのでということの説明は、事務を
行ないはするんですけれども、それでも返された
という件数が14件ございます。

以上です。

○委員（吉田真樹子さん） 吉田です。

返されたその理由としてはどういう理由で返し
に来られたというのは聞かれているのでしょうか。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀で
ございます。

直接そこまでをお聞きしたわけではありません
けれども、やっぱりこうメディアの影響とかが多
いのかなというふうに思っております。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（吉田真樹子さん） 引き続きすいません
別の質問で。吉田です。

8ページの、このATワンペダルに関してです
けど、これ今まででトータルで何人の方がこれを
されているのでしょうか。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二
瀬です。

この事業がですね、実は23年度から行なわれ
ておりまして、途中抜けている時期もございま
すが、平成23年度から令和5年度までで107件
の申請がっております。

○委員（吉田真樹子さん） 吉田です。

これ毎年、何人大丈夫だったですか、5人でし
たっけ。4人。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二
瀬です。

10台。

○委員（吉田真樹子さん） 吉田です。

じゃあこの交付されたのが4人だったというこ
とはまだいけたわけですね。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二

瀬です。

そのとおりです。

申請があつてないということになりますね。

○委員（吉田真樹子さん） 吉田です。

ニュースでも、今でも踏み間違えでこの前もあつて、やっぱり亡くなられている方がいらっしやったりするので、これ積極的に本当、ちょっと半分の負担はあるにしても、やっぱり玉名のこの田舎でちょっと免許を返すというのもなかなか難しい部分もあるだろうし、若くても踏み間違えありますので、積極的に進めていただきたいと思います。私も本当に20代のときに踏み間違えてぶつかったことがありますので、よろしくお願いします。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

質疑及び委員間討議ありませんか。

じゃあ1点私のほうから。多田隈です。

説明書ですね、9ページと予算書の91ページなんですけど、189万8,000円、予算を組まれて執行されております、防犯カメラについてちょっとお伺いしたいと思います。

10万円を上限とした設置支援補助を交付するとなっておりますけど、この補助金の補助内容とまた補助外の内容はどういうものがあるのか、まずはお伺いしたいと思います。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二瀬です。

補助につきましては、設置関係について上限10万円までの補助を行なうというような形になっております。

○委員長（多田隈啓二君） 多田隈です。

内容、設置補助のどれが補助金に該当するのか、例えば電気代は除外ですよとか、そういう取決めはどういうものがあるのかお伺いしたいと思います。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二瀬です。

防犯カメラ設置支援補助金につきましては、設置に係る工事費等については補助になります。

ただ、その後の維持管理については地元の負担でお願いしております。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） 多田隈です。分かりました。

その中でですね、私たちの地元のこれはですね、犯罪防止とかにもなりますので積極的に申込みされておりますけど、実際今7団体ここには書いてありますけど、設置19基と書いてありますけど、実際申込みはもっと多かったという話も地元ではお聞きするんですけど、実際申込み数というのはどれくらいあったのかお伺いしたいと思います。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二瀬です。

令和4年度につきましては、要望団体は20か所ほどございました。そのうえ設置されているような状況でございます。

○委員長（多田隈啓二君） 多田隈です。

要望団体で、今、7団体ですけど、実際は20団体要望があつて、何基か要望があつたということですかね。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 申し訳ございません。

団体数としては7団体です。申し訳ございません。で、設置基数が19基という形になっております。

○委員長（多田隈啓二君） 多田隈です。

1基はちょっと待ってもらっているということではよろしいですかね。

その中で、地元なんですけど、団体次第じゃあ3基ぐらいですね、要望された自治体結構あるんですよ、地元ですね。やっぱりこれ要望が今回19基、1基だけなんですけど、10万円が足りなかったということであればですね、来年の予算に反映させていただきたいと思います。

それと、そういう補助金の考えが、増額の考え

があるのか、またそしてどのように、これすばらしくいい取組だと思うんですけど、どのように周知、広げていくのかお伺いしたいと思います。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二瀬です。

この防犯カメラの設置の要望につきましては、毎年当初予算案が11月ぐらいからになりますので、その前の9月末ぐらいから、各地区の区長さん等に防犯カメラの設置要望というような形で取っておるような状況でございます。

その中で要望件数等が上がってくるような状況になっているんですが、それにつきまして毎年大体20基ほどの防犯カメラの予算要求をしているような状況で、中には、要望を上げたばってんやっぱりいろいろ考えるとちょっと今回は見送るという地域もございますので、その辺りも踏まえてのところで予算要求という形で考えていただければなと思っております。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） 多田隈です。

もちろん今、答弁ありましたとおり、中身がですね、取り下げられる要因というのが、やっぱり補助内容外の地域で払わなければいけないお金が発生する、もちろんSDカードだったり、もちろん電気代だったり、いろんな管理費ですよ、年間じゃあ誰がそれをチェックするのかとかですね、いろいろそういう中身をですね、玉名市もセットでですね、多分申請者にお知らせの紙を配られていると思うんですよ。

その内容がですね、やっぱり普通あの内容を見れば大体8万円ぐらいかかるんですよ。8万円かかる内容が実際二の足を踏まれるのは、やっぱり例えば地域ของですね、限られた財源の中で年間8万円というのは維持管理費のコストは大きいなと、8万円以上で、最低でですね、書いてあるのがですね、その辺をもう少しですね、自治体用には一般的に今もう実施されている自治体はありますので、そんなにかからないやり方もあるんですよ、

実際は。その辺をですね、もう少し研究されて、そして周知をされたならやっぱ二の足を踏む、取下げをする方がですね、少なくなると思います。ぜひその辺はですね、調査研究をしていただきたいと思います。

以上です。

ほかに。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

委員長、決算書の69ページも今、質問してよかですか。2款の範疇に入っとかな。よかですか。

○委員長（多田隈啓二君） はい。

○委員（前田正治君） 69ページの総務課の中の番号14なんですけど、職員の任免及び定員管理事務というのがあるでしょう。これ私予算のときはちょっと気づかんだったんですけど、この中身を教えてもらいたいのと、これにこぎゃんお金は要っとかなと思って。その辺ちょっと説明をお願いします。

○総務課長（前田弘信君） 総務課長の前田です。

職員の任免及び定員管理事務ということで、内容といたしましては、職員採用試験の委託料とかですね。あと職員採用試験業務委託、前期、後期ありますのでそちらと、あと追加試験とかですね、あと定年延長の例規整備とか、人事給与システムの改修とか、そういったところが入っております。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（前田正治君） 分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

ここで執行部の入れ替えのため暫時休憩いたします。

また、ここです、昼食のため午後1時まで休憩したいと思いますので、よろしく願いいたします。

-----○-----

午前 11 時 50 分 休憩

午後 1 時 00 分 開議

-----○-----

○委員長（多田隈啓二君） 休憩前に引き続き委員会を開きます。

一般会計歳出 3 款及び 4 款衛生費の審査を行います。

執行部から 10 分以内での説明を求めます。

○会計管理者（土村正成君） 会計管理者の土村です。

一般会計歳出の 3 款民生費、4 款衛生費は、決算書の 8 ページと 9 ページ、事項別明細書では、114 ページ下段から 185 ページ下段までが該当箇所となりますが、1、2 款と同様に決算額の読み上げは省略させていただき、令和 4 年度主要な施策の成果に関する説明書の中から事業を抜粋して主管課長から順次説明いたします。

○子育て支援課長（中野光昭君） 子育て支援課長の中野です。

説明書の 22 ページをお願いいたします。

3 款民生費、2 項児童福祉費、1 目児童福祉総務費、事業名は放課後児童健全育成事業（学童保育）で、決算額は 3 億 2 91 万 9 9 円でございます。

この事業は、昼間保護者が家庭にいない児童に対し、適切な生活や遊びの場を提供することによって、児童の健全育成の向上を図るとともに、保護者の育児と就労の両立支援を図るものです。

事業の成果としまして、1、放課後児童健全育成事業として昨年度は市内全小学校区 19 クラブで学童保育を実施し、月平均 805 人の利用がございました。2、放課後児童支援員等資質向上研修事業として玉名圏域 1 市 3 町、玉名市、玉東町、南関町、和水町の放課後児童支援員等を対象に資質向上研修を 3 回実施しております。3、高道小及び大野小学児童施設建設工事として高道小学校内に 2 施設、大野小学校区内に 1 施設の学童施設を建設しています。

子育て支援課からは以上でございます。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

次に、説明書 24 ページ、決算書は 162 ページになります。

予算費目、3 款 3 項 2 目生活保護扶助事業、決算額は 8 億 7,206 万 6,166 円でございます。

事業の成果といたしましては、まず、1、生活保護費支給の扶助費内訳の主なものとして、（1）医療扶助 5 億 3,654 万 238 円。（3）生活扶助費 2 億 7,547 万 3,241 円となります。

次に、2、面接相談業務については、面接相談延べ件数 107 件、3 の生活保護申請受付・決定業務においては、申請件数 80 件、うち開始件数 70 件、廃止件数 78 件で、昨年度末での生活総合世帯数 410 世帯、被保護者数 467 人、被保護者数を人口で割った保護率は 7.42 パーミル、パーセントでいうと 0.74%になります。

以上です。

○保健予防課長（村上洋治君） 保健予防課村上でございます。

続きまして、説明書は次の 26 ページをお願いいたします。26 ページです。決算書が 171 ページをお願いいたします。171 ページです。

4 款 1 項 2 目新型コロナウイルスワクチン接種事業で、決算額が 6 億 4,558 万 1,868 円でございます。

本事業につきましては、予防接種法に基づき生後 6 か月以上の市民を対象に新型コロナウイルス感染症の発症を予防し、死亡や重傷者の発生をできる限り減らし、感染症の蔓延防止を図るため、ワクチン接種を行なうものでございます。

事業の成果としまして国からのワクチン供給量に応じたスケジュールを基本として玉名郡市医師会、熊本県北病院等々の関係機関と連携の下、接種を希望する市民に対して市内各医療機関での個別接種、また市総合体育館、横島町公民館等での集団接種を実施したものでございます。

結果としての接種率につきましては、令和4年度末、令和5年3月27日現在の数字でございますが、まず1回目、2回目、これはいわゆる初回接種ということでございますが、それぞれ82.11%、81.85%、3回目が70.11%、4回目50.02%、5回目が30.01%という数字でございます。

当課からは以上でございます。

○上下水道総務課長（津川隆一君） 上下水道総務課津川でございます。

説明書の29ページをお願いいたします。

4款1項9目浄化槽設置整備事業でございます。決算額は3,530万80円で、成果でございますが、下段の事業の成果、浄化槽設置整備事業で2つの補助金を支出いたしました。

1つ目は浄化槽設置整備事業補助金で、こちらは合併浄化槽の設置費用の一部を補助するものでございます。成果としまして58基の合併処理浄化槽が設置されました。

2つ目は浄化槽設置附帯工事補助金でございます。こちらは単独槽をくみ取り槽から合併処理浄化槽へ転換する際に費用の一部を補助するものでございます。

令和4年度の成果としましては17か所で活用がされたところでございます。

この事業により、し尿及び家庭排水を併せて処理するため、良好な排水状態を保ち水路及び河川の水質汚染防止を図ったところでございます。

以上で説明を終わります。

○環境整備課長（塚本昭広君） 環境整備課の塚本でございます。

説明書の30ページをお願いいたします。

4款2項2目、事業名は一般廃棄物適正処理事業で、決算額は1億6,622万8,377円でございます。

この事業の成果としましては、家庭などから排出された1万6,978トンの一般廃棄物を適正に処理し、不法投棄された3.2トンの廃棄

物につきましても回収し、適正処理をすることで周辺の環境整備を図っております。

環境整備課からの説明は以上でございます。

以上で議第70号令和4年度玉名市一般会計歳入歳出決算中、歳出3款、4款の説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明は終わりました。

これより質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議ありませんか。

○委員（大野豊重君） 大野です。

民生費のところで、資料にはないですけど、決算書の121ページの生活困窮者自立支援金の208万円なんですが、これも私、去年12月の一般質問で伺ったところだったと思うんですけども、この内訳を知りたいなと思って。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

決算書121ページの上から4行目の208万円ということですかね。

○委員（大野豊重君） そうです。

○くらしサポート課長（平田光紀君） こちら扶助費になりますけれども、前のページ119ページにタイトル書いてございますけれども、新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金の扶助費になります。

この内容といたしましては、令和4年度におきましては、延べ13名の支援金支出がございます。新規の方で9名の支出になります。これが支援金の額になりますけれども、単身者は月に6万円、2人世帯は8万円、3人以上は10万円ということで、3か月、また延長されるとそれ以上の月数で支出をするものです。

この令和4年度の総額が208万円というふうになります。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

ありがとうございます。

そもそもがこれが就労目的の支援金だったと思うんですけども、その後この対象となった方々の後追い、就労ができたかどうか、今、令和4年度が13名、多分これ全体的に22件ぐらいの適用があったと思うんですけども、その方々のその後の後追いというのはどうされたのか伺います。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

今、大野委員おっしゃられた、この制度が始まって受給者としては22名いらっしゃいます。そのうちに、これが就労目的の就労する間の準備の支援金という意味合いがございますけれども、実際この支給を行なって就労された、もしくは就労を今も継続されているというところの把握まではできておりません。

○委員（大野豊重君） じゃあお金だけ出して、その目的自体が達成できているかどうかというのが分からないということですよね。できればそこはしっかり。これが令和5年度、今始まって4月、5月の話だったらいいんですけど、大体もう半年以上この事業終了してからたっているんで、できればそういう効果検証というのはやったほうがいいのかなと思いますので、またそういう機会がありましたら。また分かれば後ほど、何か月後かでもいいので教えていただければと思います。

引き続きよろしいでしょうか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（大野豊重君） 引き続き、大野です。

資料の24ページの生活保護の3のところの申請受付・決定業務なんですけれども、廃止件数が78件というふうにあるんですけれども、この内訳、そもそもどうやって廃止というふうにしているのか。自己申告なのか、何かほかの方法があるのか、その辺りを教えていただければ。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

まず生活保護の廃止になるパターンと申しますか、もちろん御本人様が亡くなられたであるとか、

転出された、あとは仕事で増収をして収入を得るようになった、もしくは増収して生活保護の最低生活費を上回るようになった。あと他方他施策といいまして、例えば年金を受給するようになったとか、そういったものがございます。

この78件の内訳の多いものを申しますと、御本人さんの死亡が27件、その後に多いのが収入の増加等によるものが12件、あと他方他施策と申しました社会保障給付金、年金等の増加が7件というふうなものが多いものになってきます。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。ありがとうございます。

続きまして資料の28ページの公害防止対策事業の中の公害苦情処理業務で、悪臭が5件、雑草の繁茂に対して28件というふうにあるんですけども、まずこの悪臭の5件なんですけど、これどういうふうな起因によって苦情が来たのか、公的なものなのか、下水道だとかそうだと思うんですけど、あと個人的なものなのか。法人的なものなのか、自然的なものなのか。あとこの雑草の繁茂の28件に関しては、これは土木部とかにも結構その雑草の繁茂とかあると思うんですよね、要求、要望が。そういうものもカウントされているのか、それともこれは単なる環境整備課だけの話なのかといったところをお願いできますか。

○環境整備課長（塚本昭広君） 環境整備課の塚本でございます。

今の御質問、まず悪臭でございますけれども、昨年度は5件の苦情がっております。主に農業用の堆肥であるとか、畜産業の周辺の方の臭いがほとんどでございます。

それと2点目の雑草の繁茂につきましては、これについては、宅地同士、隣接した宅地同士の苦情もございますし、農地から適正に管理をしてない農地からの雑草の繁茂もございます。とか一部道路からの部分の繁茂もございます。これにつきましては、各関係課と連携を取りながら当然対応

しております。なので、この分については全ての案件が含まれております。環境整備課のみの対応ではございませんし、関係各課との連携の部分も全部含まれておって、この分が28件となっております。

○委員（大野豊重君） 大野です。

ということは玉名市全部で28件しかないということになるんですけど、なわけないと思うんですよね。すいませんもう一度答弁いいですか。

○環境整備課長（塚本昭広君） 環境整備課の塚本でございます。

これにつきましてはですね、窓口が例えば管理課で道路管理だとか、農地の管理だとかの部分も当然、直接、管理、苦情言われるところもあるかと思っておりますので、あくまでこれ環境整備課のほうのうちで、環境整備課で把握している部分の数字でございます。

それと、先ほどの補足をちょっといたします。

悪臭とか雑草の繁茂については、全て個人の方からの苦情でございます。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

ということは雑草繁茂の苦情のカウントについては、あくまでも環境整備課が把握している部分ということですよ。はい。何で聞いたかという、そのほか関係部署とか先ほどおっしゃられた農地関係とか、そういったところでやっぱりその市内全体でやっぱり情報共有をしていく必要性があって、それに対しての予算とかを立てていく、対策を立てていく必要性があるというふうに思ったんで、聞いたところだったんですね。

悪臭の対策なんですけども、これって結局、環境整備課に苦情が来て、それを当然その現況のほうに対処だとか指導だとかされに行かれると思うんですが、それで対策できるものはいいと思うんですけども、それが長期的に対策できないものとか、そういうものがあつたとして、じゃあそれあつたとしたらどういうふうな対策を取られてい

るのか、指導されているのか、その辺りを聞かせてください。

○環境整備課長（塚本昭広君） 環境整備課の塚本でございます。

今、委員質問の件でございますけれども、この悪臭、これは原因についてですね、いろいろございまして、長期化、問題解決が長期にわたる部分につきましては、当然環境整備課のみの問題ではなくて、例えば畜産等々になりますと当然農政サイドだったり、熊本県の指導の部分も当然含まれてまいりますので、関係各課連携をしながら事業主さん等に指導していくと、お願いをしていくというような形になるかと思います。

○委員（大野豊重君） 指導だけで終わるのか、それをしっかり是正をしていただくのか、その何といひかな、命令でさせることができるのか、ただお願いレベルとするのか、その辺りで何かありますか。

○環境整備課長（塚本昭広君） 環境整備課の塚本でございます。

今の御質問につきましては、当然法律上とかの部分がございますので、そこに完全に抵触するような形の部分については、命令でも指導でも当然強権的な部分でもいいかと思いますが、基本的にはお願いといいますか、どういう手段、どういう対策を講じますかというような指導というか、後追いの今どうされていますかというような監視の状態のほうが多いかなということです。

以上です。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに。

○委員（前田正治君） 前田です。

主要な施策の成果に関する説明書16ページお願いします。自立相談支援事業の中で、最近では夏暑かけん自宅にクーラーをつけたいけど、やっぱりそのためのお金がないということで、社会福祉協

議会からの貸付金はクーラー設置については利用でくつとですか。

○くらしサポート課長（平田光紀君）　くらしサポート課平田です。

社会福祉協議会からの貸付けといいますと、当座の福祉資金等が一番多くなると思いますが、福祉資金についてはもう現に緊急的に困っている目的での貸付けになろうかと思えます。

あと緊急小口資金等はですね、これはコロナ以前からあるものですが、その点については要件が合えば支給されるものと思えますので、エアコン等の購入等は可能かなと思うところです。

○委員（前田正治君）　前田です。

かなじゃなくて確認しとってください。買えるかどうかですね。

それと、その中の家計改善支援事業なんですけど、これは新規利用者は5人ということでしたけど、これは何世帯なんでしょう。

○くらしサポート課長（平田光紀君）　くらしサポート課平田です。

新規件数5という数字を上げておりますけども、これは世帯数です。5世帯ということになります。

○委員（前田正治君）　5世帯、なるほど。世帯ですね、なら納得しました。

なぜかっていうと、やっぱ世帯で応援していかんとなかなか改善せんと思うとですね。ほんならその5世帯が利用した中で、改善につながったというような、そういうふうに判断されたのは何世帯でしょう。

○くらしサポート課長（平田光紀君）　くらしサポート課平田です。

家計改善支援ということで、いろんな収支を各家庭から出していただいて、その使い道等を支援、助言する制度なんですけれども、どうしてもそれが日常生活向上しないということで、債務整理に進まれる方、もしくは家計改善、御自分でのそういった生計の計算であるとかに及ばずですね、日常生活支援、その前のいろんな生活からの支援と

いうふうなところに、一歩下のレベルという申し訳ないですけども、そういったところに進まれる方がほとんどでございます。

○委員（前田正治君）　前田ですけど。

いや、家計改善支援ということで関わってされたんですけど、関わりが1回だけじゃなかと思うわけですね。やっぱ例えば1か月、あるいは3か月、半年にわたって関わったと思われるんですけど、実際にこの家庭は何というかな、一人立ちできるなど、もう行政が関わらなくてよかなというふうに判断されると思うんですけど、そこまでやっぱ関わってしよつとじゃなかですか。

○くらしサポート課長（平田光紀君）　くらしサポート課平田です。

今、委員おっしゃられるように数か月、もしくはもっと長い方もいらっしゃいますけれども、その収支をですね、一緒に考え寄り添って支援しておりますけれども、なかなかその家庭が、この家計改善支援だけで自立されるというパターンは実際少ないです。

もしくは就労支援とかをですね、交えてですね、自立のほうに向かったとか、増収に向かったというパターンはありますけれども、この単独での事業で自立に向かったというのは、正直なところ少ないです。

○委員（前田正治君）　前田ですけど。

きっかけは家計改善支援事業ということでつながったとしても、やっぱその家庭が自立できるように場合によっちゃ、その就労年齢だったらですよ、やっぱそういった仕事のことの、直接ハローワークじゃなかけん仕事ば紹介するわけにはいかんばってんですよ、そういったことも含めてその家庭に関わって自立してもらわねえでしょう。

だけん、やっぱ広い意味でやっぱ支援していかんといかんじゃないかなと思うんですけど、そぎゃんふうになつとつとですよ。

○くらしサポート課長（平田光紀君）　くらしサポート課平田です。

このくらしサポート課でやっている自立相談支援の中に家計改善支援や就労の支援、また子どもさんの学習支援等々ございますけれども、入り口はどこであろうとも、利用できる、効果があると見込めるところについては、制度を重ね合わせてやっております。

もちろんほかの課にまたがるですね、社会保障の利用ができるとかですね、就学援助であるとか、そういったものを重ね合わせて支援を行なっているところですよ。

以上です。

○委員（前田正治君） 分かりました。お願いします。

○委員長（多田隈啓二君） はい、ほかに。

○委員（吉田真樹子さん） 吉田です。

今の前田委員と同じところで、学習支援事業はどのような形で学習支援をされているのかお尋ねいたします。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

学習支援事業におきましては、学校法人松本学園に委託を行なって、そこに生活困窮、経済的に厳しいお子さんが通われて勉強であるとか、いろんな遊びであるとか、レクリエーションとかですね、そういった形で支援を行なっております。

場合によっては、なかなかその家庭内に課題がある、なかなかお子さんを外に出すことができないという家庭もありますけれども、そこはもう家庭訪問をしていただいたりとかですね、先ほどの話じゃないですけども、生活困窮相談のほうと重ね合わせて見守りを行なっているところですよ。

○委員（吉田真樹子さん） 吉田です。

1か月ちょっと前だったと思うんですけど、玉東の福祉協議会のほうでされている同じこの学習支援に参加させていただいたときに、熊本のNPO法人お金の学校くまもとさんがされているのがとても面白くてですね、子どもたち、そこ夏休みだったんですね、子どもたちも参加してて、とて

もいい感じであってたので、ぜひそれもお金の学校くまもとさんのもいいなと思いました。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに。

○委員（立川信之君） 立川でございます。

30ページの不法投棄のことでございます。

以前、うちのですねミカン畑に不法投棄がありまして、そのときはもう自分のところで片づけたんですけど、そういうときの不法投棄の委託業務が該当するんですかね。それを聞きたいです。

○環境整備課長（塚本昭広君） 環境整備課の塚本でございます。

この不法投棄の委託業務といいますのは、まず防止のためのパトロールを月2回以上委託業者さんにやっていただいております。それと公共の用地、道路とかですね、そこのポイ捨ての部分については回収をしていただいております。

今、委員がおっしゃられている個人の農地とかに例えば物が捨ててあったという場合につきましてはですね、基本的には個人さんの管理責任もございまして、個人さんで処理をしていただいております。

以上でございます。

○委員（立川信之君） 分かりました。ありがとうございました。

○委員（中村慎吾君） すいません、中村です。

私もちょっと不法投棄のことでちょっとお尋ねしたんですけども、いろいろニュース等でもあってますけれども、不法投棄同じ場所とかで複数年いろいろ不法投棄がたまっているとかもありますけれども、本市においてやはり不法投棄等が行なわれている場所というのは、やっぱりある程度決まった場所とかにはなるとですか。それとも結構まばらに広い地域とかになってて、それを先ほど委託業者さんがちょっと見回られるというような形になるのでしょうか。

○環境整備課長（塚本昭広君） 環境整備課の塚

本でございます。

今、委員の御質問につきましてですが、今、集中してここが多いという箇所は、現在把握はしておりません。まばらかなという感じをいたしております。基本的にもう以前から見るとかなり不法投棄の数とか数量とかは減ってるかなと思います。皆さんのモラルの向上等もありましてですね、これについてはもうここが徹底してここをピックアップしましょうという部分についてはですね、今のところ環境整備課の部分ではございません。ただ、一部道路とかのちょっと残地とかにポイ捨てがちょっと多くあるかなというところはございますけれども、それぐらいかなと思います。集中してここが悪質というところは把握をしておりません。

以上です。

○委員（中村慎吾君） 分かりました。

悪質な場所がないということは、少しはよかったかなと思いますけれども、全体量も減っているということですね、ただニュース等では悪質化している、見えないところに、先月だったですかね小岱山とかも何かこうボランティア団体でタイヤの廃棄とかもされたみたいなのところもありますので、やっぱり不法投棄はよくないことですので、してもらわないほうが一番はいいんですけど、やっぱりさせないようにする工夫とかもちょっといろいろやっぱり考えていかなんとかかなと思いますのでよろしくお願いします。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに。

○委員（近松恵美子さん） 近松です。

前もお話したかもしれないんですけど、生ごみ処理機ですね、私、前ですね、生ごみ処理機を持っている人がほとんどごみになっているというか、その記憶がすごくあるものですから、本当にこの電動の生ごみ処理機って何かいいようで、買うんだけど、やっぱりこうコンセントつながら

いといけないと電気代が要するという思いからやめちゃうのか、使われてないことが多いなというのがちょっと頭にこびりついているんですけど、実際その辺のフォローされているのか。されてなかったら、この30件のうち10件でもいいからどういうふうに使われているか見ていただきたいなということと、もしあんまり効果的に使っていないなら、この部分やめたほうがいいんじゃないかと思うんですけど、今後、どんなでしょうか。

○環境整備課長（塚本昭広君） 環境整備課の塚本でございます。

今、近松委員の御質問につきましてですが、これ令和4年度にですね、令和2年度、令和3年度の補助金交付者の方に合計90名ですがアンケート調査を行なっております。

回答者数が74名、回答率が82%でございます。購入された生ごみ処理機の種類なんですけど、電気生ごみ処理機が31件、コンポストが45件でございます。不明が1件とありますけど、これについては回答されなかったのかなと思います。全体で74名でございます。

その中でですね、先ほどちょっと御質問があられたところなんです。生ごみ処理機の使用頻度について質問をいたしましたけど、使用をやめたという方が1名でございました。この理由について複数回答を求めたんですけど、まず手間がかかる、処理時間が長い、虫が湧きますということなので、ほとんどの方が利用されております。

処理後の部分としては堆肥として利用されている方がほとんどということと、今後また生ごみ処理機が壊れたり、使えなくなった場合に補助金を利用してまた再度購入したいですかとお尋ねをしたときに、また購入したいが63名、分からないが6名、購入しないが4名という結果でございました。

この結果に基づいて、まだ生ごみ減量化とか、ごみ減量化について、かなりの効果があると思いますので、この事業については継続をしていきたい

いなど考えております。

以上です。

○委員（近松恵美子さん） 私も以前に課長に申し上げたと思うんですけど、きちっとこういうふうに調査して結果を出してくださって、ありがとうございました。安心しました。

もう1点続けていいですか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（近松恵美子さん） 福祉バスの運行のところで先ほど乗合タクシーが非常に全市的に増えたからということで話したんですけど、今計算してみたら大体1日平均4.6人というふうな感じなんですけども、大きなバスで4.6人はちょっともったいないなという感じなんですけど、今後どのように考えておられるでしょうか。運行回数を減らすとか何かそういうことを考えておられますか。

○高齢介護課長（中川由美さん） 高齢介護課の中川です。

委員御質問の福祉バスにつきましては、確かに1日当たりの平均乗車人数が令和4年度で5人程度となっております。

ただ、実際のところですね、このバスを利用して温泉センターとかに行かれています方もいらっしゃるし、高齢介護課としましてはできるだけ健康な高齢者を、健康であってほしいということもありますので、この福祉バスを運行することによってですね、介護予防だったりとかですね、健康増進につながることを考えております。

それで今後はですね、もう少しこの福祉バスを利用した形でですね、介護予防活動につなげればいいかなと思っているんですけども、確かにおっしゃるように地域公共交通との兼ね合いもございますので、今年度ですね、アンケート調査をされるようになっておりますので、その辺りのほうにですね、福祉バスの運行に関してもアンケート項目を入れていただいてですね、どのような形で高齢者の皆さんの活動の幅が広がるようにする

かというふうに考えていきたいと思っております。

以上です。

○委員（近松恵美子さん） 憩いじゃなくて通いの場ですか、介護予防体操教室なんかも各地でされているようですので、ああいうところで乗合タクシーも含めてもう1回PRしていただいて、利用者を増やすなり、いろいろ考えていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（山下桂造君） 山下です。

131ページです。ここの岱明ふれあい健康センター管理運営事業と、もう1つ天水でしたっけ、こちらのほうですね、エネルギーマネジメントシステムサービス利用料というのが入っています。

これ、エネルギーマネジメントシステムって書いてある、多分こういうことであると思うんですけども、まずどういうものか、そしてこれを入れたことによって大分経費が浮いたのかどうかということを教えてください。

○保健予防課長（村上洋治君） 保健予防課長村上です。

少々お待ちいただけますでしょうか。

○委員（山下桂造君） 後で、終わってからいいです。

○委員長（多田隈啓二君） ほかにありませんかね。

○委員（前田正治君） 前田です。

主な施策の19ページなんですけど、家族介護慰労事業、令和4年度は4人に慰労金10万円を支給したということがあります。これはよかったなと思ったんですけど、申請は何人あったんでしょう。

○高齢介護課長（中川由美さん） 高齢介護課長の中川です。

申請は4件でした。

○委員（前田正治君） 4件で100%。ほんならもうちょっとやっぱ宣伝が足らんとじゃないか

など、まだまだ該当するようないかなと思いませんか。

じゃあ続けてよかですか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（前田正治君） 24ページの生活保護扶助事業の中で、事業の成果で生活保護申請受付・決定業務なんですけど、申請が80件で開始が70件、そこに10件の差がありますけど、これはいろいろ理由があって、10件少ないかと思えますけど、ちょっと主な理由を紹介してほしいんですけど。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

10件開始に至っていないというところがございますけれども、申請をされて御本人さんが取下げをされた、今必要ありませんということで取下げされたというのが6件、あと申請、調査をして、決定会議にかけたところ却下となったというのが3件ございます。合計9件ですけど、これが開始件数、申請件数等を開始件数の差が埋まるようになります。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

取下げはともかくとしてですね、却下になるというのは、これいろいろ相談を受けて、相談の結果申請しますということになったと思うんですよ。それでその却下になるというのはやっぱりよっぽどそのときの相談の中身とちごととですかね。どきやんですかね。

本人さんはそれで納得されたですか。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

却下の主な内容といいますか、御本人さんに例えば定期預金がかなりの額あったというときもございまして。あと介護保険の介護サービスを利用する際の境界層というのがあるんですけども、居住費や食費を下げれば生活保護を受けなくていいというそういう制度があるんですが、その際は生活保護を申請されても却下という形をとって、境

界層に該当しますという通知をもって介護サービスを低く抑えると、それで生活してもらうと。そういったとき却下という結論を出しますので、そういったことはよくあります。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

このコロナ禍の中で、全国的には生活保護受給世帯が増えとるというような、そういったニュースもあったんですけども、相談あるいは申請については玉名市の場合はどきやんですかね。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

全国的に生活保護受給者数が微増しているというのは前から目にしているところでございますけれども、玉名市におきましては相談件数、申請件数も例えば令和元年度から比べてもほぼ横ばい状態です。

○委員（前田正治君） 分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（前田正治君） はい。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（北本将幸君） 北本です。

この決算書の153ページなんですけど、22節の償還金のところなんですけど、大体償還金のところで、予算どおりに執行されているところが多いんですけど、ここほとんど5,000万ぐらい組まれとって、ほとんど不用額になっちゃったんですけど、何か理由があったんですか。

○子育て支援課長（中野光昭君） 子育て支援課中野です。

153ページの。

○委員（北本将幸君） 22節償還利子及び割引料。

○子育て支援課長（中野光昭君） 220万円。不用額ですか。

○委員（北本将幸君） 大体償還金のところで予算組んで、それぐらいが執行されとるんですが、これだけほとんど不用額。

○子育て支援課長（中野光昭君） 子育て支援課

中野です。

これについてはですね、幼稚園の建て替えによってですね、以前補助していた分を償還しなきゃいけないというのがありましたので、令和4年に本来返す予定でいたんですけど、令和5年度に変更になったので令和5年度で償還します。

○委員（北本将幸君） 分かりました。大丈夫です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（北本将幸君） はい。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

先ほどの山下委員の質疑、分かりますか、大丈夫ですか。

○保健予防課長（村上洋治君） お待たせしました。保健予防課村上でございます。

先ほどのエネルギーマネジメントシステムにつきましては、これは太陽光発電を使った管内の集中管理システムということでございます。

令和元年度に導入しておりまして、当時社会福祉協議会のほうに御案内のとおり昨年度までずっと指定管理として委託しておりましたので、年度間の詳しい実績の推移とかはちょっと把握しておりませんが、申し訳ございませんでした。

○委員（山下桂造君） はい、了解です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

これは公害防止だったかな、先ほど臭いという話があったでしょう。臭気ね、私たちもいろいろやっぱ臭いのするけん、もうどぎゃんかしてはいよとか、いろいろあるばってん、なかなか手が出らんというところは正直なところなんですよ。

実際臭いというのは、音は何デシベル以上は駄目とかあるじゃないですか。臭いというのは何かそういう基準というのは何かあつとですか。

前も聞いたような気がする。

○環境整備課長（塚本昭広君） 悪臭については、なかなか風向きだったりとかの部分なので、基準

という基準は基本的にはないと考えております。

この地区につきましては、ほとんどが農業用の堆肥かなという感じですので、原因を追求してその管理されている方につきまして、早めに打ち込んでいただくとかというところですね、対策を講じておるところです。

なかなか数字とかなかなか見えにくい、うちもちょっと何というか、機械持っていないというところなので、なかなか個人さんへの、原因者さんへのもう相対の部分でちょっと対応しているところなんです。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

やっぱ堆肥んごたつとは野積みしてあったりとかですね、そぎゃんとならすぐ行って、どぎゃんかしてはいよって言われるっつとですけど、やっぱ臭いについてはなかなか言えんなど。風向きによっても違うし、本人の感覚によっても違うわけですよ。どぎゃんしょうもなかなと思って、今度から、ほんならもう環境課に相談しなっせって言いますって。ありがとうございました。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに質疑及び委員間討議。

○委員（吉田真樹子さん） 吉田です。

私も前に質問したのかちょっと忘れたんですけど、31ページの説明書の中で、ごみ袋と平袋、そのタイプが袋のタイプというのは、これ作る量、出る量に差があるんでしょうか。

○環境整備課長（塚本昭広君） 今の御質問につきましては、大の平袋とレジ袋のシェアの部分。

○委員（吉田真樹子さん） 作られる量が、同じ量作られる。出具合とかの違いってあるんですか。

○環境整備課長（塚本昭広君） これにつきましては、以前はですね、平袋のほうが売れよつたんですけども、今、若干逆転をいたしまして、レジ袋のほうが若干売れております。47%、53%ぐらいの比率だったかなと記憶しております。なので、製造についてはもうほとんど数量に変わりはございません。ただ、シェア的にはレジ袋が

ちょっと売れてきているかなというところです。

○委員（吉田真樹子さん） 吉田です。

平袋タイプがなくなってレジ袋だけになったときに、私が質問させていただいたときに、とてもなんかもうそれは、これ平袋のほうが出るから何か困るみたいな感じでとても渋られたから、今、現状どうなのかなと思ったところでした。

大丈夫です。ありがとうございます。以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

先ほど大野委員から御質問の自立支援金を支給された方の現状という御質問ございました。

現状は分かっておりますけれども、自立支援金の支給が終了した、もしくは中止になった理由はこちらで把握しておりますけれども、これ述べてさせていただいてよろしいですか。

○委員長（多田隈啓二君） お願いします。

○くらしサポート課長（平田光紀君） 自立支援金が支給終了になった、もしくは中止になった理由と申しますのが、収入増になった方が7名ですね、あと生活保護に移行したといいますか申請されたという方が5名、あと求職活動不十分、求職活動が条件になってくるんですけれども、それを全く履行されなかったと。それで支給が中止になったという方が7名、あとこの自立支援金の継続を辞退された方が3名、合計22名になります。

○委員（大野豊重君） 大野です。

収入増だとか辞退というのはいいいんですけれども、求職活動をしないというのも収入増と同じレベルですよ、一番多いわけなんですけど、この人たちってその後どうするのかって、そこまで何かその後のフォロー体制とかってそういうのをされるんですか。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

求職活動、いろんなハローワークに相談すると

か、こちらのくらしサポート課のほうに相談する、あるいは企業さん、事業者さんの面接を受けるというそういったかなりハードな条件がついておりますけれども、それを履行されないということで、この自立支援金の目的が、収入を上げてください、それができない場合は生活保護を申請してくださいということですので、当然生活保護を勧めはしております。しかしながらそれもないということで、その後その方の生活といいますか、生計というもののまではちょっと分からない状況です。

○委員（大野豊重君） 求職活動がハードとは一切思わないんですけれども、ああそうですか。すいません、これ以上何かコメントが出てこないんです。はい、ありがとうございました。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに。

○委員（前田正治君） 前田です。

これはどこに該当するか分かんたんですけど、環境問題ですね、年に1回希望者の井戸水の検査をされとるじゃないですか、井戸水。その中には検査項目に入っとらんですけど、今、全国的に注目されているいわゆるフッ素有機化合物だったかな、PFOSとかPFOAとか、いろいろ何か3,000種類から5,000種類あるごたっですけど、そういったことも井戸水の検査の希望者に対しては、何かされるようなことはなかったか。

○環境整備課長（塚本昭広君） 環境整備課の塚本でございます。

今の御質問につきましてはですね、玉名市で水道未整備地区の方の井戸水検査につきましてはですね、13項目をやっております。これについては、個人さんの何をしたいですかというような希望は今のところ取っておりません。飲用水検査が基本的に10項目ございまして、プラス3項目を玉名市のほうで選定をしてプラスアルファを取っているところでございます。

この委員おっしゃられている物質等々についま

しては、また今後、必要であれば検討していきたいなと思います。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

ぜひ検討していただきたい。今んとこ水道水に出とつというの全国的には出てきとらんですけど、当面は井戸水の検査の中ですね、うちなんか井戸水ですので、もしかしたらもう知らん間に大分摂取しとるかなと思うとですけど。

はい、分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

ここで執行部の入替えのため暫時休憩いたします。

再開は午後２時１０分から再開いたします。

-----○-----

午後 ２時００分 休憩

午後 ２時０９分 開議

-----○-----

○委員長（多田隈啓二君） それでは休憩前に引き続き委員会を開きます。

次に一般会計歳出、６款農林水産業費、７款商工費、８款土木費の審査を行ないます。

執行部から１０分以内での説明を求めます。

○会計管理者（土村正成君） 会計管理者の土村です。

一般会計歳出の６款農林水産業費から８款土木費は、決算書の８ページから１１ページ、事項別明細書で１８５ページ下段から２５９ページ上段までが該当箇所となりますが、１、２款、３、４款と同様に決算額の読み上げは省略し、令和４年度主要な施策の成果に関する説明書の中から事業を抜粋して主管課長から順次説明いたします。

なお、６款から８款までは、事業数も多いことから８つの事業を説明いたします。

○農業政策課長（前田竜哉君） 農業政策課の前田です。

農業政策課からは、３件の事業のうち１件を御説明申し上げます。

それでは、説明書の３５ページ、決算書は１９４ページから１９５ページをお願いいたします。

事業名、新型コロナ対策農林水産支援事業、予算費目６款１項３目農業振興費、決算額１億８，１１８万１，８４９円でございます。

まず事業の概要について申し上げます。中でも主なものを２点申し上げます。

１点目に、２、畜産飼料・農業用被覆資材購入緊急支援事業は、新型コロナの感染拡大に伴う農産物の価格や出荷量の低迷及び各種生産資材の価格高騰などの影響を受けました畜産及び施設園芸の各農家に対しまして昨年１年間分の飼料購入費を補助率５％以内で、昨年４月から１２月までの９か月間の被覆資材購入費を補助率１０％以内で市が独自に補助をするものでございます。

２点目に、３、米価下落金臨時支援事業は、これも同じく新型コロナ感染拡大に伴います米の需要低下などから、米価下落に対処するために令和３年産主食用米の生産、販売農家を対象に米１キロにつき１０円を市が独自に補助するものでございます。

続きまして事業の成果について申し上げます。

まず、２、畜産飼料農業用被覆資材購入緊急支援事業の実績としましては、畜産飼料２４件、被覆資材６０２件の各生産農家に対しまして、９，４５１万２，０００円の補助金を価格高騰への補填として交付をしておりまして、農業経営の安定化が図られたところでございます。

次に、３、米価下落臨時支援事業の実績としましては、７４５件の米生産農家に対しまして７，８７３万１，５４０円の補助金を米価下落の補填として交付をしておりまして、農業経営の安定化が図られたところでございます。

以上です。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

説明書は38ページをお願いします。決算書は206ページから207ページの下段になります。38ページを御覧ください。

農地整備課からは、事業名、団体営農業農村整備事業（農業水路等長寿命化・防災減災型）について説明します。決算額は2億774万7,000円でございます。

まず事業の概要につきまして説明します。

この農業水路等長寿命化防災減災事業は、農業の持続的な発展を後押しするため、農業生産活動の基盤となる農業水利施設の長寿命化対策や防災減災対策のため、老朽化した排水機場の補修及び機能低下した排水路の整備を行ない、機能回復を図るものです。

この事業の成果につきましては、機能の低下により災害のおそれのある排水路、上小田排水路ほか7件の工事を行ない、施設の機能改善を図ることができました。

また、施設の長寿命化対策として、大開第二排水機場のエンジンと大正開排水機場の非常用自家発電機のオーバーホールをしたことにより、排水機場の老朽化に対して機能を回復することができました。

農地整備課からは以上です。

○水産林務課長（小川昭彦君） 水産林務課長の小川です。

当課からは2件の事業内容のうち1件について説明をさせていただきます。

説明書の40ページ、決算書は212ページから213ページをお願いいたします。予算費目が、6款2項2目林業振興費で、事業名、鳥獣被害対策事業で、決算額が1,147万7,736円でございます。

まず事業の概要について主なものを2点申し上げます。

1点目に1番の有害獣被害防護施設整備事業は、

イノシシ等による農作物等への被害防止対策として農家が農地に電気柵などを整備するための資材購入費の3分の1を独自に補助するものです。

2点目に3番の有害鳥獣捕獲業務は、市有害鳥獣捕獲隊により年間を通して捕獲されました有害鳥獣の種類とその個体数に応じて委託料を支払うものであります。

続いて事業の成果について申し上げます。

まず1点目、有害獣被害防護施設整備事業の成果としましては、電気柵は37件で延長1万3,420メートル、ワイヤーメッシュ柵は3件で延長が650メートルでございます。総額144万8,000円を補助しており、農作物等の被害防止や農業経営の安定化を図ることができました。

次に、3番、有害鳥獣捕獲業務の成果といたしましては、市有害鳥獣捕獲隊によりイノシシ成獣724頭、幼獣63頭、鹿2頭、カモ類250羽、カラス2羽を捕獲し、委託料として559万2,000円を支出し、農作物や市民に対する被害の軽減や個体数調整を図ることができたところでございます。

当課からは以上です。

○商工政策課長（神永和典君） 商工政策課長の神永でございます。

商工政策課からは、新型コロナ中小企業等経済対策事業を御説明いたします。説明書の43ページをお願いいたします。決算書は222ページから225ページでございます。

予算費目、7款1項2目商工業振興費、決算額は3億8,711万820円でございます。

事業は3つの事業で構成しており、まず1つ目がプレミアム付商品券事業、2つ目が新型コロナ金融円滑化特別資金利子補給金事業、3つ目が中小事業者エネルギー価格高騰対策支援金でございます。

事業の主な成果といたしまして、まずプレミアム付商品券事業につきましては、紙商品券とデジタル商品券の発行を行ないましたが、短期間で約

3億5,000万円の流通があっており、地域の消費喚起に一定の成果がございました。また、デジタル商品券を発行することでのキャッシュレス推進に関しても一定の効果があったものと考えております。

次に、中小事業者エネルギー価格高騰対策支援金につきましては、エネルギー価格の高騰により、市内事業者の事業継続を支援するため342事業者に対して1億1,597万4,000円の補助金交付を行ない、事業継続のための支援として一定の効果があったものと考えます。

商工政策課からの説明は以上でございます。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 観光物産課の伊藤でございます。

観光物産課からは主要な施策の成果として新型コロナウイルス観光支援事業を御説明いたします。説明書の45ページをお願いいたします。決算書のページは230ページから231ページを御覧ください。

7款商工費、1項商工費、4目観光費、事業名は新型コロナウイルス観光支援事業でございます。決算額1,763万7,728円でございます。

事業の概要でございますが、3つの業務で構成しておりまして、1つ目が、コロナに負けない！玉名の魅力発信観光と物産展事業、2つ目が、コロナに負けない！玉名観光素材説明会及び商談会事業、3つ目が、玉名温泉を利用した「eースポーツ合宿」実証事業でございます。

事業の成果といたしましては、誘客ターゲット地域の福岡市において一般向け物産展を2回と現地メディア、旅行業者向け観光素材説明会及び商談会を開催しました。

また、コロナ禍で大きな打撃を受けた市内観光関連事業者の支援のため、「eースポーツ合宿」実証事業やスタンプラリー女子旅モニターツアーなどを行ないました。

観光物産課からの説明は以上でございます。

○土木課長（田上幸二君） 土木課長の田上です。

土木課からは1つの事業について説明させていただきます。

それでは説明書は48ページをお願いします。決算書は238ページから241ページになります。

事業名、道路新設改良事業で、予算費目は8款2項3目道路新設改良費、決算額は1億9,976万457円でございます。

初めに事業の概要を申し上げます。本事業の生活道路網の整備においては、地元からの要望などを考慮して市道の改良等を行ない、道路利用者に対して快適な道路環境や安全性を確保するものです。

この事業の成果としましては、主なものとして拡幅工事に伴う測量などの業務委託11か所と工事を11か所実施しました。

この中には完成した路線や継続中の路線もあり、整備については、可能な限り地元の声も取り入れて要望箇所の安全性や快適な道路環境の確保を図ることができました。

土木課からは以上でございます。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課長の中尾です。

都市整備課からは3件のうち、1つの事業について説明させていただきます。説明書の51ページ、決算書は246ページから247ページを御覧ください。

都市計画法等に基づく事務事業で、予算費目は8款5項1目都市計画総務費、決算額は4,276万1,909円でございます。

この事業の成果といたしましては、1番、都市計画審議会事業につきまして、玉名市都市計画マスタープランの見直し、玉名都市計画道路の見直しに係る審議を行なうため、玉名市都市計画審議会を3回開催しました。うち2回は玉名市景観審議会と合同開催とし、総合的なまちづくりを考えるために連携を図りました。

2番、玉名都市計画道路の見直し業務につつま

しては、国、県のガイドラインに、住民説明会、県協議、パブリックコメント、玉名市都市計画審議会での議決を経て、4路線の廃止を決定しました。

3番、都市計画マスタープラン及び景観計画見直しにつきましては、令和3年度の検討を踏まえ、改定案の取りまとめを行ない、住民説明会、パブリックコメント、審議会での審議を経て改定を実施しました。

都市整備課からは以上です。

○営繕課長（平川裕一君） 営繕課課長の平川です。

営繕課からは1つの事業について御説明いたします。説明書54ページ、決算書は254ページから255ページをお願いします。

市営住宅施設管理業務で、決算額は7,787万5,439円でございます。

事業の概要は、市営住宅維持管理業務委託事業です。本市が保有する市営住宅、建物本体の日常修繕及び入退去に係る空室補修、受水槽、浄化槽、電気工作物など、附帯設備にかかるメンテナンス作業等を一括して外部に委託しまして市営住宅施設の維持管理を行なうものです。

次に事業の成果ですが、雨漏り修理、樹木伐採など、日常的な修繕が一番要望件数が多く605件、給排水や換気設備等、附帯設備の維持管理が36件、入退去に伴う空室修繕が31件ございました。その他、污水处理施設の維持管理、高架水槽、受水槽維持管理、電気工作物維持管理等で、市営住宅の耐久性の維持及び入居者の安全性の確保に努めております。

以上で、6款から8款までの説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明は終わりました。

これより質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（大野豊重君） 大野です。

資料の43ページ、決算書は225ページで、

プレミアム付商品券事業なんですけど、これも私、昨年の6月の一般質問でやったところなんですけれども、そもそもこの令和4年の10月、11月かにやられたと思うんですけど、これがたしか当初の計画では、発行総額は5億3,000万円で、プレミアム額が1億3,000万円、事務費が5,300万円ということで、ただこの実績を見る限りでは、発行総額は5億3,000万円の予定に対して3億5,000万円、プレミアム額が1億3,000万円の予定に対して8,900万円ということで、当然事務費も若干下がっていますけれども、実際、同じような事業で令和3年度末にたしかPay払い事業というのをやられてたかと思うんですね。そのときも実際の総額からすると6、7割程度で終わっていて、それを一般質問して、それから10月、11月にかけて今回のこのプレミアム付商品券事業をやるということで、実際発行総額の予定よりも大分下回っているんですけども、これが前回と同じような結果になっているんですけども、その辺りのこの事業をやるに当たっての周知活動だとか、前回の対策をどういうふうに生かされたのか、その辺りをお聞かせください。

○商工政策課長（神永和典君） 商工政策課長の神長でございます。

今回のプレミアム付商品券事業につきましては、紙媒体とデジタル商品券とそれぞれで行なったところでございますけれども、紙商品券につきましては、予定冊数としましては一応6万冊を予定しておりました。それに対しまして申込みがございましたのが3万4,645冊でございます。

それから、デジタル商品券につきましては2万口を予定しておまして、申込みにつきましては上限に達しておるところでございます。

前回の経験を踏まえてということでございますけれども、まず加盟店への募集、周知活動につきましては、広報たまなへの折り込みチラシですとか、あと商工会議所の会員様へのダイレクトメー

ル、これ約1,000件ほど行なっております。
あと市内商店街を訪問しまして御案内をする。あと地元ケーブルテレビなどでのCMなどを活用し、募集を行なって周知活動を行なったところです。

当然市民の皆様方にも併せて周知活動を行ってきたところですが、実績に対してこの数字というのが妥当なものかどうかというのはやはり非常に今回ですね、この紙商品券とデジタル商品券を合わせた形で行なったというところですね、やはり紙を買いだすけれどもデジタルに移行しようかなというようにところで考えられた部分もあり、こういった最終的にはこういった形ですね、実績にはなったというふうに考えておりますけれども、今回の反省も踏まえて今後生かしていければというふうに思っておりますけれども、実績としてはそういった形で考えております。

○委員（大野豊重君） 大野です。

デジタルのほうが、私も今初めて答弁で聞いたんですけど、2万口に対して上限に行ってたということで、そもそも今回このプレミアム付商品券事業は、コロナの消費喚起と、あとたしかデジタル関係の普及ということだったので、そこに対しては目標は100%クリアできているのかなと思います。

ただ、ほぼほぼこれ委託事業だったと思うんですね。先ほどの答弁の中では地元商店街へ一緒に訪問されたというふうにあるんですが、職員として担当課としてどれほどされたのかなって。いわゆるそのもう丸投げだったんじゃないのかなと、委託事業者につて。その周知活動について。

というのが、当然私もこの参加事業者の1人にはなったんですけども、説明会はたしか1回しかなかったんですね、しかも前日に案内が届いて、はがきを見てみたら、あしたの12時から説明会しますよと。当然、24時間もままならないのに、説明会があるって来て、当然行けるわけもないし、それについて問い合わせたら、いやもう説明会しませんということだったので、どうなっているん

じゃ、ほぼほぼ丸投げなんじゃないのかなという、結局熱意がちょっと薄かったんじゃないのかなというのをちょっと感じております。

参加目標数が当初450件というふうに言われていまして、令和4年3月のPay払い事業では650件が参加店舗数ですね、実績があったんですけども、今回のこのプレミアム付商品券事業の参加店舗数というのは何ぼだったんですか。

○商工政策課長（神永和典君） 商工政策課長の神永でございます。

今回の参加加盟店につきましては491店舗でございます。

○委員（大野豊重君） 大野です。

取りあえずやっぱりかなりそういった周知活動ができてなかったんじゃないのかなというふうに私は思いますので、当然今回このシステム、新規開発の開発費もかかっていますので、またこういう次の事業をやるときには、そういったところをしっかりと次に反映できるように行なっていただきたいというふうにも思います。

次、よろしいでしょうか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（大野豊重君） 続きまして、大野です。

資料の44ページ、決算書は225ページになりますけれども、企業誘致促進事業ということで、新規企業誘致の事業なんですけれども、この中に事業の成果のところ、誘致戦略を立てて成長分野に行ったというふうにあるんですが、まずこの誘致戦略はどういうふうな戦略があつて、この成長分野というのはどういう分野に行かれたのか、そのところをお聞かせいただければと思います。

○商工政策課長（神永和典君） 商工政策課長の神永でございます。

この企業誘致マーケティング戦略事業と申しますが、令和3年度にですね、策定しました、玉名市の企業立地推進計画の中の事業の推進方策の1つとしてですね、要は企業誘致を戦略的に行なっていこうというような事業でございます。

具体的に申し上げますと、企業進出潜在層への認知度強化ですとか、進出の見込みがある層への本市の魅力発信といった、そういったところをですね、かゆいところにちょっと手が届くみたいところでですね、企業立地戦略を考えていこうということでですね、具体的にはですね、いろいろと今、TSMCの進出等がございまして、やはり半導体関連の半導体本体ではなくて、それに携わる部品ですとか、そういったものの企業ですとか、そういったものをリストアップしながら、潜在的に可能性がある調査を行ないながらですね、この戦略的に事業を進めてきたというような経緯でございます。

以上でございます。

○委員（大野豊重君） 大野です。ありがとうございます。

今、その誘致戦略の中で、半導体関連だとかそういったところのリストアップをされてきたということなんですが、このリストアップの数は何百社ぐらいあったのかというのと、その下に続いて新規訪問で開拓5件、これは当然その戦略の中で導き出されたものだと思うんですけども、あと継続訪問延べ10件って、これがちょっとよく分からないんですけど、あと新規企業誘致の3社というのは、これ改めて教えていただければと思います。

○商工政策課長（神永和典君） 企業誘致マーケティング戦略事業におきます企業のリストアップの件数でございますが、これまで訪問した企業様も含めてにはなるんですけども、約200社ほどリストアップをして、それと併せてですね、アンケート調査といいますか、今回この事業の中でランディングページをつくっております。具体的にはSNS、インスタグラムを使っての玉名の魅力を企業誘致に特化したところの玉名の魅力を発信するためのものがございますので、そういったものを提供するためにですね、アンケートとそういった周知を行なっているところでございます。

それから、継続訪問10社につきましては、これは以前から関西方面ですとか東京方面、継続してお付き合いのある企業様のほうに御訪問いたしておりますので、その実績が10件でしたということでございます。

それと、新規誘致の3件でございますけれども、昨年4年度に立地協定を結ばせていただきまして、企業名といたしましては、梅林のカンケンテクノロジーが1社、それと運送業で桂通商様が1社、それとあと製造業で今回産業団地のほうに立地をされました九州プラスチック工業様の3社でございます。

以上でございます。

○委員（大野豊重君） 九州プラスチック工業が新規企業の誘致になるのかどうかはちょっと置いておきまして、次の質問でしょうかなと思っていただんですけど、今、答弁の中にSNSを使ってというのがあったんですが、この44ページの3番の企業誘致マーケティング戦略事業の中で、企業誘致に特化したウェブページを作成したとあるんですが、このことを言われていますか。

○商工政策課長（神永和典君） 商工政策課長の神永でございます。

はい、PRの媒体のためのSNSということで、こちらのことでございます。

○委員（大野豊重君） SNSで事業費が599万円ってどんなものなんですか。

○商工政策課長（神永和典君） 商工政策課長の神永でございます。

このマーケティング戦略事業の中には、実はランニングページを策定いたしまして、実は企業のワーケーションですとかジョブケーションの体験をしていただくということでですね、周知を図って本市の進出意欲を具現化するためのものとしてですね、周知を行なっているところでございます。

この委託料につきましては、それらもろもろを入れたところの委託料となっております。結構SNSとかそういったウェブランニングページを

つくる際もですね、かなり時間をかけて打合せを行ないながら、玉名を知っていただくための、興味を引いていただくための、構成としてですね、かなりつくり込んでおりましたものですから、その辺の費用がそれだけかかったということでございます。

○委員（大野豊重君） 大野です。

そのランディングページというのがちょっと私よく分からないんですけど、その言葉がですね。いわゆるウェブで情報発信をして、体験を導く、それが目的になるかと思うんですが、それはそのアクセス解析というのは出てますでしょうか。アクセス解析。

○商工政策課長（神永和典君） 商工政策課長の神永でございます。

すいません、今の御質問ですけれども、アクセスのほうについては承知をしております。

○委員（大野豊重君） もうちょっとこれ以上、長くなるんでもう言いませんけど、できればその結局そのウェブページで予算つくった、かけたので、それに対しての効果というのがどんだけあったのかなというのが気になっていきますので、またアクセス解析等ですね、また後ほど数日後で構いませんので、ヒアリング行きますのでよろしくお願いいたします。

一旦終わります。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（山下桂造君） 山下です。

決算書の191ページです。191ページ。

この農家の市農業用廃プラスチック類処理対策協議会負担金ってあるんですけども、この廃プラスチック処理というのが、処理対策って書いてあるどういうことを対策しているのかというのをちょっと教えていただだけませんか。

○農業政策課長（前田竜哉君） 農業政策課の前田です。

こちらはまず玉名市において、JAたまなですけど、そこが事務局となりまして各支部を置き

まして、農業から出てくるような廃プラスチックとか空きのペットボトルと申しますか、そういったものをですね、定期的に回収をして処分業者に引き渡すというような廃プラ対策が行なわれている。そこに対して玉名市として負担金、活動負担金を支出しているというような決算内容になります。

○委員（山下桂造君） 分かりました、ありがとうございます。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（中村慎吾君） 中村です。

主要な政策の中の45ページの観光支援事業についてお尋ねします。

昨年度この福岡の大丸のほうとかで物産展、また商談会等行なわれていますね。あと玉名温泉でeスポーツ合宿、このような結果が出ていますけども、この事業が例えばこの令和5年度にどのように継続というか、つながっていつているのかというのをちょっとお伺いしたいと思います。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 観光物産課長の伊藤でございます。

本観光支援事業、新型コロナ観光支援事業につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により大きな打撃を受けている市内観光事業関連事業者に対して支援を行なっているものでございます。

今回、具体的な事業といたしまして、3つとそれから補正予算2つの事業を進めてきたところでございますけども、今後の支援方法といたしましては、ウィズコロナ、アフターコロナに対応できるような、そういった体制づくりを目指すといったことで、観光関係団体の支援につながる事業をですね、有利な財源等を用いながら、継続的に効果的な観光戦略について引き続き検討を進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員（中村慎吾君） 中村です。ありがとうございます。物産展等を開催するのは、もうPR上

ですね、とても大切なことだと思います。

あと、この成果としてですね、印象もよかったということですので、やはりあとはできるだけこの玉名に次はですね、来ていただいて地元で買っていただけるような、そういう施策等も継続してつなげていくような施策が必要だと思いますので、その辺もですね、きっちり分析をしながらですね、今後、今年、来年とですね、つなげていけるような事業展開をお願いしたいと思います。

以上です。

○委員（大野豊重君） 今の中村委員の質問の関連で、この福岡とかのほうでやられたときのチラシとかも配布っていうふうにありましたっけ。ないのかな。ああ、ないですね。

チラシとか配布されたんですかね、その来られた来場者に対して、その際にECサイトだとか、そういうふうな販売につなげる戦略というのを併せてこの事業の中でやられたのか。その辺りどうでしょうか。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 今回、コロナに負けない！観光素材説明会及び商談会事業を福岡のほう都市圏で開催させていただいたところでございますけれども、現地メディア、旅行関連事業者等をですね、招き入れたところでですね、説明会のほうでは31社、47名の出席と、それから商談会のほうでは10社、14人ということで玉名に対して興味のある事業者さんが集まられていただいたというところで、今後もぜひともそういった事業者のつてをたどりながらですね、観光振興、物産振興のほうを執り行なっていきたいというふうに考えております。

○委員（大野豊重君） 大野です。

すいません、その上の1のほうですね、福岡でやられて、参加が7事業者、6事業者があって、その場だけで売ったところでそんなに利益上がらないと思うので、それを後にどうやって売っていくのかが一番効果に結びつくものだと思うんで、そのこのところの次の戦略、チラシにECサイト載

せたりだとか専門サイト載せたりとか、そういう戦略を持っていかれたのかどうかというのを伺っています。

○観光物産課長補佐（和田耕一君） 観光物産課の和田でございます。

今の物産展に係るお話なんですけども、物産展で販売していました商品につきましては、たまララのインサイトのほうで購入ができるように販売をしております、現場でもそのような誘導をいたしております。

以上です。

○委員（大野豊重君） はい、ありがとうございます。完璧だと思います。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（西川裕文君） 西川ですけども。

決算書の193ページ、下のほうから16番の産地生産基盤パワーアップ事業1億5,200万円の事業ですけども、これについてはどういう内容だったですかね。

○農業政策課長（前田竜哉君） 農業政策課の前田です。

こちらはまず国庫の事業でございまして、目的としましては、いわゆる水田とか野菜とか果樹なんかそういう産地が地域一丸となって収益力の強化、こういったために取り組むものとしてですね、産地パワーアップ計画というものをつくりまして、それを基にですね、導入される機械のリースであつたりとか、施設整備、こういったものを対象経費としてですね、2分の1以内で国が補助するものでございます。

大体よくあるのが耐候性ハウスであつたりとか、割と規模の大きい施設整備、そういったものにですね、取り組まれておりまして、これ大体受益農家が3戸以上で構成するような、管理組合等をつくっていただいてですね、実施しております。

ちなみに令和4年度の決算の内容としましては、玉名のイチゴ高設栽培、こういうものに対する施設整備費をですね、補助をしたりしております。

よろしいでしょうか。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（前田正治君） 前田です。

主な施策の44ページをお願いします。

企業誘致促進事業で、この中の事業の成果で、誘致企業アフターフォロー事業というのがあって、延べ41件のアフターフォローがあったということなんですけど、誘致企業と情報交換を定期的に行なうというようなことも書いてある。これは誘致企業に対する何か条例か何かにも、その中の1項目に、定期的に訪問して情報交換するみたいな項目が入ったかなと思うんですけど、具体的にはどういった情報交換というか、どういう話をされとつですか。

定期的というのは、年に1回なのか3回なのか5回なのか、その辺をちょっと教えてください。

○商工政策課長（神永和典君） 商工政策課長の神永でございます。

今、アフターフォローということで御質問がございました。市内の誘致企業様に関しましては、今23社ございまして、市との情報交換並びに企業間での交流を図るため、この企業誘致等連絡会議をこれは年に1回開催をさせていただいております。

これがどれに基づくものかといいますと、特に条例等は定めておりませんで、内規的なもので、玉名市のほうに立地していただいている企業様と情報交換を行なう目的で行なっているところでございます。

その情報交換会では、どのようなことを行なっているかと申しますと、会議等を通して講演会を開いたりですとか、あと雇用関係の関係団体のほうから来ていただきまして、雇用関係の情報提供ですとか、会員の皆様との交流会を実施して、ひいては企業の今後の事業拡大につながればということで開催をさせていただいております。

それから、フォローが一応41件ということでございますけども、これ延べ件数でございますが、

定期的に我々誘致企業様のお困り事ないでしょうかということで、訪問を定期的にさせていただいております。

数からしますと23社に対して41件というような延べ件数でございますので、年に一、二回訪問をさせていただいているぐらいが平均かなというふうに考えております。

以上でございます。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

撤退したシェフコです、シェフコ、具体名を言いますけど、誘致の際もいろいろ物議があつて、問題があつて、誘致をしたんですけど僅か、何年でしょうか、5年ぐらいでしょうか、もう撤退しておらなくなったわけですけど、その撤退の理由を差し障りのない範囲でちょっと教えてほしいんですけど。

それと、ここで働いてた市内の従業員さんたちの今後というかな、その辺はきちんとシェフコ側が対策を取ったんでしょうか。

誘致企業だからやっぱそこまでしっかり玉名市も目配せせんといかんと思うんですけど、ちょっと教えてください。

○商工政策課長（神永和典君） 商工政策課長の神永でございます。

今委員が申された企業様に関しましては、撤退の理由ということでございますが、こちらにつきましては、企業様の御都合といいますか、そういったことでございます。

あと雇用、そこで働かれた雇用につきましては、御相談があればですね、我々としても積極的に支援をさせていただくということでのスタンスで、今、考えているところでございます。

○委員（前田正治君） 前田です。

具体的な相談というか、今のところはなかわけですね。

○商工政策課長（神永和典君） 商工政策課長の神永でございます。

はい、今のところ特に御相談はございません。

○委員（前田正治君） はい、分かりました。

じゃ続けてよかですか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（前田正治君） 46ページですね、消費生活センター事業なんですけど、事業の成果で、消費生活相談が385件、多重債務相談が49件というふうな成果になっていますけど、去年か一昨年、去年からだったかな、3町またがって、広域的な相談業務というのを開始されと思うんですけど、この中にはその広域的な相談業務というの、件数として含まれとつとでしょうか。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

3町の分も入った数字になっております。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

入っとる。じゃあその広域的な相談業務の中で、今のところその課題となっているようなやつは何かなかですか。例えば、大体出かけていって相談に応じるということだったですよ。玉名市に来てもらうならよかったですけど、出かけていって。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

3町の相談におきましては、こちらのほうに電話でかけていただける方には電話で対応しております。

また、町の役場のほうに出向いて行かれる方につきましては、町の役場のほうにこちらの相談員も出向いております。どうしても外出できないとか、緊急性があるものとか、現場でないと確認できないことにつきましては、アウトリーチをしておりますけれども、今のところ活動に支障は生じておりません。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

相談に応じる人は専門の資格を持っていると思うんですけど、今、玉名市の消費生活センターは資格持っている人は何人おんなつとですか。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサ

ポート課平田です。

1人の相談員が資格を持っております。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

じゃあ1人の資格、持っとる人は1人で、そのほかの人は相談にはいろいろ応じよんなはるかもしれないんばってん、それで任すとつですかね。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

1名が有資格者で、2名は資格を今持ちませんけれども、長年の経験ございますので、いろんな案件に応じて相談しながら対応しているところでございます。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

新たに資格を取得してもらうというような、そういうサポート的な支援的なことは何か計画があるんでしょうか。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

国民生活センターまたはそういった団体さんの研修がありますので、そちらのほうに積極的に参加いただいている、また実際相談員の方もそういった資格の試験にチャレンジするという、そういった活動はされております。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

その資格の試験にチャレンジする際の何というか、支援の制度というか、例えば受験料半分の支援しますよとか、あるいは東京であつとに交通費の半分の支援しますよとかそういった何かはあつとですかね。

○くらしサポート課長（平田光紀君） くらしサポート課平田です。

研修でもって見識を高めてもらうという、そういった応援はしておりますけれども、そういった旅費であるとか受験料の援助とかそういったものはございません。

○委員（前田正治君） やっぱりそこまで応援し

てやって有資格者をちょっと。会計年度任用職員ですからなかなか難しいところがあると思いますけど、将来的にはやっぱそういったことで広げていかんと、市民のいろんな消費生活に相談できる体制が整っていかんとじゃないかなという気がします。

続けてよかですか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（前田正治君） 決算書の247ページなんですけど、JR玉名駅の南側の駐車場のことについてお尋ねします。

車がずっと放置してあるというような話が入ってきました、実際見に行ったらやっぱありました。どういった対応をされて、放置車が早くて1年以内になくなっとかどうか。

あわせて、市営住宅の駐車場について、そういった放置されているような車がないかどうか。その辺お尋ねします。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課長の中尾です。

玉名駅の南側の駐車場に、たしか3台ぐらいずっと止まっている車があったかと思いますが、それに関しては、番号を調べて所有者に対して撤去するようにお願いをして、撤去が実際されたりとかということをアクションしているところでございます。

以上です。

○営繕課長（平川裕一君） 営繕課課長の平川です。

市営住宅の敷地においても放置自動車というのが数台今年度確認されております。

その場合はその放置自動車に貼紙といいますか、置き紙等をして、また住民の方等の聞き込みあたりで所有者を見つけ、移動をお願いするという流れで対処しております。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

本人さんが特定できれば、その人と話してです

よ、その人が撤去してもらうのが一番だと思いますけど、なかなかやっぱ言うたっちゃ、言うたっちゃ、もうらち明かんというような場合には、いわゆる玉名市からの代執行といいますか、もう強制的に撤去して、その費用はその本人さんに請求するというような、そういった仕組みはあつとですかね、南側も市営住宅も。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課長の中尾です。

行政代執行のお話だと思いますけど、その仕組みまでは今のところは考えてない、将来的にそういったことがあれば、考えていかなければならないのかなとは考えております。

以上です。

○営繕課長（平川裕一君） 営繕課課長の平川です。

市営住宅の分も同じでございます。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

やっぱ本人さんと話おうて、本人さんがもう自主的にどかしてもらうのが一番だと思いますけど、やっぱりいつまでんあつとですね、どぎやんなつとつとなというて、私たちに言うてきなはるわけですよ。そこら辺がですね、おたくたちもなかなか言うて言うことを聞いてもらわんと困るかもしれませんけど、そこら辺は何らかの対策はやっぱ考えていかんと、いかんとじゃないかなという気がします。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） はい、ほかに。

○委員（大野豊重君） 大野です。

商工費の件なんですけど、資料の45ページのeスポーツ合宿の実証実験なんですけれども、非常に新聞にも載って、にぎわった事業だと思っております。

参加者、前も何回か質問したんですけど、その聞けてなかったんですけど、参加者はどの辺りからがと来られたのかなと思って、そこをちょっと聞きたいと思います。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 観光物産課の伊藤でございます。

主に県内が中心でございましたけども、遠いところは九州内というところで把握をしております。

○委員（大野豊重君） 大野です。

ということは、宿泊とかやっぱり観光的なもので何か売上げが立ったというか、お金が落ちるようなことは、あんまりなかったのかなと思いますけど、その辺りはどうでしょうか。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 観光物産課の伊藤でございます。

合宿をやりましたので、合宿で宿泊費、それから当日は35名の宿泊でございました。当日はキッチンカー等も宿泊施設の前に設営しておりますので、そういったところでお金のほうは落ちているのかなというふうに把握しております。

以上です。

○委員（大野豊重君） 宿泊費、これ100%個人負担でしたっけ、市からの補助とかって何か出していたような気がしたんですけど、勘違いでしたか。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 観光物産課の伊藤でございます。

個人負担でございます。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

続けてよろしいでしょうか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（大野豊重君） 同じく商工費の資料の47ページの、金栗四三PR事業の中の大河ドラマ「いだてん」協議会業務に895万円、決算書でいくと235ページなんですけれども、目的としては書いてあるとおりで分かるんですけれども、その費用対効果をどういうふうに見積もられてて、その大河ドラマが来てから、いろいろそのドラマ館とかいろいろつくったりとか、いろんな市として投資をされてきたかと思うんですが、もうそういったところの回収というか、それをどういうふうに見積もられているのかというのをお聞かせい

ただければと思います。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 観光物産課の伊藤でございます。

この金栗四三PR事業につきましては、金栗氏の認知度向上のため県内外の観光及びマラソンイベント等をPRを行なうとともに、金栗四三住家とか資料館の管理運営を行なう業務でございます。

また、大河ドラマ「いだてん」協議会業務においては、官民連携して金栗氏のPRを通した地域活性化に取り組むことということで行なっております。

現在、住家、資料館の管理運営のほか、金栗氏とゆかりのあるマラソン大会、8大会への金栗トロフィー等の贈呈であったりですね、金栗レガシーを掘り起こしたスポーツ、ウェルネス、教育のツーリズムを展開しているところでございまして、効果といたしますかそういったところにつきましては、なかなかその数字としては出て見えにくいといったところでございますけども、そういったところで、レガシーそういった部分の取組を進めているところでございます。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

当然ながらその住家の管理だとか運営というのは必要経費だと思うんですけども、結局これまでかけてきた投資額というのは、やっぱり回収しないことには、あんまり意味がないのかなというふうに思いますし、これは数字的にはなかなかあらかわすことはできないと思うんですが、やっぱりそこはプラスアルファに玉名市の観光としてやっていくことが使命だと思いますし、それができなければどんどんどんどんお金も流出していくんであれば、大河ドラマ来なきゃよかったねという結果にもなりかねませんので、そういったところも含めてしっかりPRにつなげて結果に出していただきたいというふうに思っております。

続けてよろしいですか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（大野豊重君） 土木費なんですけども、資料の４８ページの道路新設改良事業費で、今ここに実績令和４年度のやつ書かれてあるんですけども、要望がたくさん来ているかと思うんですね。その要望件数に対しての実施率、残数がどんだけあって、その辺りってどうなんでしょうか。

○土木課長（田上幸二君） 土木課長の田上です。土木課における道路改良事業の令和４年度の要望件数としましては、４件来ております。その中で過去からの道路改良に伴う要望を順次今行なっておりますので、まだこの令和４年度の４件については手がついていないような状況です。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

令和４年度というか、今要望として５年、１０年、１５年、２０年前から上がってきて、その残件がどれぐらいなのかなという、そこをお伺いしたいと思います。

○土木課長（田上幸二君） 土木課長の田上です。平成２８年度より令和４年度までで、道路改良につきまして６７件の要望が上がっております。

その中で６７件中、対応中が１３件、未対応が５４件となっております。対応済みのパーセントとしましては、約２０％となっております。

以上です。

○委員（大野豊重君） はい、ありがとうございます。ここは予算ありきだと思いますので、引き続き頑張っていただきたいと思います。

続けてお願いしますけども、引き続き大野ですけども。

資料の５１ページ、都市計画道路の４、２００万円、決算資料でいくと２４７ページで、都市計画道路、この２番と３番のところですね、都市計画道路の見直し業務ということと、併せてマスタープラン及び景観計画の見直しということで、ここで事業予算上がっているんですけども、グランドデザインのプロジェクトをやられていますけども、ここの関係性というのは今後どういうふう

うになっていくのかというのをお聞かせいただければと思います。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

グランドデザインとの関係性ということになりますけど、グランドデザインを考えている場所に関して言うと、玉名駅から旧庁舎、あと温泉のところが主になってきますけど、都市計画道路が入っている場所になると、おおむね２か所ぐらい、１か所、２か所ぐらいですね、２か所入っていますので、今年度は優先順位を考えてしまいますけど、その優先順位の中にもグランドデザインで優先的にするべきところという兼ね合いになるかというふうに思います。

以上です。

○委員（大野豊重君） ちょっとよく分からなかったんですけども、グランドデザインの対象となっているエリア、そこのところを通っている都市計画道路のところが２か所ということで、結局そのグランドデザインというのはトータル的に道路も含めて、建物だとか、いろんなところを考えてやられるのがこのグランドデザインのプロジェクトチームということになりますので、例えばそのグランドデザインのプロジェクトチームでやって考えて、今年素案を出して来年からまた、それを新しい計画を出して、デビジョンアップをされていくというふうに聞いているんですけども、それで決めてやっていくことと、都市計画でいやいやここはこうだから駄目なんだよというような、そういったところの連携というのが僕は必要だと思うんですね。

プロジェクトチームでいいものが発案が上がってきて、いやそこは実は都市計画道路でこういうふうな計画になっているからやっぱりできませんというのが無駄にならないようにしてほしいと思うので、ぜひそこのところも併せて連携を図っていただきたいと思いますというふうに思っていますけど、そういったところでよろしいでしょうか。

○都市整備課長（中尾賢治君） はい、よろしいです。

○委員（大野豊重君） じゃあ続けて大野ですけども。

資料の53ページの公園管理業務の5,900万円、これは都市公園管理業務として56公園を年間当たり管理していますよということなんです、その中の都市公園の除草、除草作業についての頻度及び回数とか、そういったところを教えてくださいなと思います。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

公園の除草に関しては、大体年に2回から4回、多いとこで4回行なっております。

それは委託業務に関してそれを行なっていると。場所によっては、それで足りないところがありますので、そこに関しては職員自ら行なっているという状況でございます。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

56か所全部ある程度を管理、例えばその56か所の中のある公園は年に1回とかそういうふうなケースもあり得るんですかね。それとも大体もう全部もう100%、2回から4回ぐらい管理されているという認識でよろしかったでしょうか。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

56か所、公園のうち地元委託している箇所もありますので、そういったところを除いてというふうになりますけど、大きい公園で、うちで管理しているところが、そういった2回から4回というところになります。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

今、地元にも委託というふうにあったんですけども、これは地元の自治区、自治会等に委託されているかと思うんですが、そこに対する費用弁償というか支払いというのは発生していますでしょ

うか。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

費用弁償が発生しておりまして、1公園当たり6万円になっております。

以上です。

○委員（大野豊重君） 1公園当たり6万円というのは、それはもう年間、年間で6万円、それとも1回当たり6万円どちらなんでしょうか。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

年間です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

年間なんですね。ちなみに業者委託の場合、その業者と言われる部分は、シルバー人材センターがメインだと思うんですが、その辺りお答えできますでしょうか。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

それは業者委託にしている金額ということ。

○委員（大野豊重君） いや、金額ではなくて、例えばこの56公園中の例えば6か所が地元委託、40か所がシルバー人材センター、残り10か所を土木会社とかに工事として委託、そういう割合がどうなのかなと思って。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

分かりました。ちょっとお待ちください。

地元委託はですね、32公園になります。指定管理が2か所ですね。業者に頼んでいるのは3か所ですね。あとはシルバー人材センターになります。

○委員（大野豊重君） 大野ですけど、地元32か所ということは、半分以上は地元でやられているということなんですね。ちなみに地元がやっぱり高齢率が高くなって、いややっぱり無理という判断をしたときというのは、これまた市のほうに相談すれば市のほうでまたシルバー人材セン

ターなり、業者のほうに委託をされていくという認識でよろしかったでしょうか。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

最近そういう相談はありますけど、一応地元で管理されたほうが地元の公園ということで愛着もありますし、手を入れる回数はどうしても多くなるので、できるだけ地元をお願いしたいというところではありますけど、それでもどうしてもできないということであれば、回数は減りますけど、うちのほうで管理するというふうになると思います。

以上です。

○委員（大野豊重君） じゃあこの件について最後の質問になるんですけど、先ほど地元には1か所当たり年間6万円ということで、同じ場所を例えばシルバーさんに委託した場合、これどうなりますか。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

同じ場所をシルバー人材センターに委託した場合は、当然シルバー人材センターのほうが高くなるかと思います。

○委員（大野豊重君） どれぐらい高くなるんですか、2倍、3倍、10倍、感覚でいいですけど。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

2倍から3倍になるかと思います。

以上です。

○委員（大野豊重君） はい、ありがとうございます。

実はここのところ、その高齢者だけで切っていくというよりは例えばその地元消防団をお願いをして、消防の活動費に充てるとかそういうのも実は、市民、住民からは要望として上がってきていますので、できればここの年6万円といったところ、ここのところをもう少し上げていただければ、もっともっと地元でやっていただけるというふう

に思うんですね。かつ地元も、各自治区だとか、そういったところの活動費というのもこういったところから捻出できますので、できればこういったところの予算というのを、もう少し上のほうに検討していただければと思いますので、よろしくをお願いします。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） なら、ちょっと1点だけすいません。多田隈ですけど。

説明書ですね、56ページなんですけど、戸建木造住宅耐震対策支援事業として、もう何年も熊本地震から取り組まれておるとは思いますけど、これの例えば件数等、いつぐらい、これはいつもいっぱいになるのか。ちょっとお伺いしたいと思います。

○営繕課長（平川裕一君） 営繕課長の平川です。

この事業は平成28年度から始まっておりまして、令和4年度までですけども、耐震診断が30件、あと通算です。耐震改修工事7件、耐震改修設計が9件などの補助金を出しております。

耐震化率につきましては、これは一般的に延べ床面積で計算をするんですけども、全体の延べ床面積を計算するのは、データを集める、それと計算すると、かなりの時間を要しますので、自治体においては、その戸数、耐震構造を持った家の戸数で計算をする場合もございます。

これで申しますと、平成30年度の住宅土地統計調査というのが一番新しいデータなんですけども、玉名市の持家総数が1万8,090戸、それとこの中で耐震機能ありと認められる戸数が1万550戸ですので、耐震化率が58.3%ということになります。

これは平成30年度の数字になりますので、来月10月から新しい住宅土地統計調査が始まりますので、そのデータがまた何年後かに出るかと考えております。

○委員長（多田隈啓二君） 多田隈です。

この56年以前の耐震化する中で、やっぱり多いのが、一番多いのは建て替えが多いんですよね。建て替えはもう多分すぐ4月ぐらいに、5月ぐらいに埋まると思うんですよ。やりたい人はまた、1年間待たなければいけない状態が続いているとありますが、その辺の見解はどうお考えなんですか、お伺いしたいと思います。

○営繕課長（平川裕一君） 営繕課課長の平川です。

すいません、状態が。

○委員長（多田隈啓二君） 多田隈です。

56年以前のものは耐震検査をして、それに合致できれば、100万円の補助金で建て直す、解体して建て直すというのがこの補助金なんですよ。

それが今、皆さんこう、してから建て替えを行ないたいという需要が毎年いっぱいあるんですよ。その建て替えの申込みが大体4月か5月にもう打ち切られていくんですよ。予算の関係上ですね。それがどのくらいあるのかというのをちょっとお伺いしたい。

そしてその4月、5月に打ち切られているのであれば、もっともっと財源を確保しながら、そうやって耐震化率を上げていったほうがいいんじゃないかというちょっと質問なんですけど。

○営繕課長（平川裕一君） 営繕課課長の平川です。

56年といいますのが、新建築基準法が施行された年度かと思えますけども、それ以前に建てられた住宅の改修工事ということですね。

○委員長（多田隈啓二君） そうです。

○営繕課長（平川裕一君） 耐震診断の相談あたりは、年度初めに多いのは多いんですけども、その耐震改修工事の申込みというのが、先ほど打ち切られるというのがございましたけども、令和4年は全部で建て替えで5件ですね、5件を受けております。補助金も5件分を出しております。

○委員長（多田隈啓二君） 多田隈です。

5件ですか。私が言っている56年以前の建て替え、解体の100万円とこれ違うんですかね。これですよ。でしょう。

その申請がいつも4月、5月でいっぱいになるんですよ。なるんです。これがずっと建て替えできない人がいっぱいおるんですよ。その件に関して今ちょっとお伺いしたいんですよ。

いっぱいになっているから、もうそういう予算を拡充して、そういう耐震化をもっともっと増やしていったらいいんじゃないんですかという話なんですね。いっぱいですよ。

〔「あんたが言いよつとは違う」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 多田隈です。違うんですか。これ建て替え工事じゃないんですか。

〔「もう一遍ようと調べなっせ」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） さしより暫時休憩したいと思います。

————○————

午後 3時24分 休憩

午後 3時25分 開議

————○————

○委員長（多田隈啓二君） それでは再開します。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 観光物産課長の伊藤でございます。

先ほど大野委員の金栗四三の地域「いだてん」協議会の取組といったところの質問がございました。

ちょっと補足をさせていただいてよろしいでしょうか。

○委員長（多田隈啓二君） はい、どうぞ。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 「いだてん」地域振興協議会につきましては、3つのツーリズムという形で取組を進めております。

昨年につきましては、ウエルネスツーリズムモニターツアーということで、九州看護福祉大学ス

ポーツサポートチームの協力の下、こういったモニターツアーを展開したところでございます。

また、金栗四三のスピリットを語るシンポジウムであったり、マラニック大会前夜祭であったり、そういったところですね、経済効果というところの話でございますけども、若干の経済効果は見込められているといったところで、今年度につきましては、ツーリズムのモニターツアーにつきましては、個人負担3,000円というところで、ツアーを実施しているところでございます。

今後ですね、そういった経済効果も見込みながらですね、取組を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。ありがとうございます。

スポーツ、ウェルネス、教育、玉名型ツーリズムをしっかりとやっていただきたいんですが、宿泊がやっぱり玉名はどうしても、少な過ぎだというふうに思っていますし、実際スポーツではこの玉名市には年間3、4万人、それ以上合宿だとか大会で来ているんですけど、その人たちは玉名に泊まるかったらその大半は泊らないんですね。なので併せて、商工観光だけじゃなくってですね、誘致のほうも併せて連携を深めてやっていただければというふうに思います。

ありがとうございます。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。
今日これにてですね、1日目の質疑を終了いたします。

また19日火曜日は午前10時から再開しますのでよろしくお願いいたします。

本日はこれにて散会いたします。

お疲れしました。

-----○-----

令和 5 年

予算決算委員会記録

令和 5 年 9 月 19 日（火曜日）

玉 名 市 議 会

予 算 決 算 委 員 会 記 録

令和5年9月19日（火曜日）

午前10時00分開議

場所：第1委員会室

1. 本日の会議に付した案件

1. 令和5年第3回玉名市議会定例会付託案件

議第69号 専決処分事項の承認について

専決第9号 令和5年度玉名市
一般会計補正予算（第3号）

議第70号 令和4年度玉名市一般会計歳入
歳出決算

議第71号 令和4年度玉名市国民健康保険
事業特別会計歳入歳出決算

議第72号 令和4年度玉名市後期高齢者医
療特別会計歳入歳出決算

議第73号 令和4年度玉名市介護保険事業
特別会計歳入歳出決算

議第74号 令和4年度玉名市浄化槽整備事
業特別会計歳入歳出決算

議第75号 令和4年度玉名市水道事業会計
決算

議第76号 令和4年度玉名市公共下水道事
業会計決算

議第77号 令和4年度玉名市農業集落排水
事業会計決算

議第78号 令和5年度玉名市一般会計補正
予算（第4号）

議第79号 令和5年度玉名市国民健康保険
事業特別会計補正予算（第2号）

議第80号 令和5年度玉名市介護保険事業
特別会計補正予算（第2号）

2. 出席委員（21名）

委 員 長 多田隈 啓 二 君

副 委 員 長 一 瀬 重 隆 君

委 員 大 野 豊 重 君

委 員	中 村 慎 吾 君
委 員	浜 田 繁次郎 君
委 員	瀬 崎 剛 君
委 員	田 浦 敏 晴 君
委 員	山 下 桂 造 君
委 員	立 川 信 之 君
委 員	坂 本 公 司 君
委 員	吉 田 真樹子 さん
委 員	北 本 将 幸 君
委 員	松 本 憲 二 君
委 員	徳 村 登志郎 君
委 員	西 川 裕 文 君
委 員	江 田 計 司 君
委 員	近 松 恵美子 さん
委 員	前 田 正 治 君
委 員	作 本 幸 男 君
委 員	森 川 和 博 君
委 員	中 尾 嘉 男 君

3. 欠席委員（なし）

4. 欠 員（1名）

5. 事務局職員出席者

次 長	松 野 和 博 君
係 長	小 畠 栄 作 君
書 記	森 川 留美子 さん
書 記	古 閑 俊 彦 君
書 記	徳 永 優 貴 君

6. 説明のため出席した者

副 市 長	村 上 隆 之 君
監 査 委 員	元 田 充 洋 君
監 査 委 員	坂 本 直 子 さん
教 育 長	福 島 和 義 君
総 務 部 長	吉 田 勇 人 君
健康福祉部長	瀬 崎 し の ぶ さん
産業経済部長	井 上 康 博 君

建設部長	田代史典君
建設部首席審議員	平田道生君
企業局長	荒木勇君
教育部長	藤森竜也君
教育部首席審議員	荒谷邦治君
財政課長	木村隆宏君
防災安全課長	二瀬哲也君
税務課長	富安崇君
高齢介護課長	中川由美さん
保険年金課長	松下匡君
保健予防課長	村上洋治君
水産林務課長	小川昭彦君
農地整備課長	丸山隆一君
土木課長	田上幸二君
土木課審議員	宇野貴善君
上下水道総務課長	津川隆一君
上下水道工務課長	田上武靖君
教育総務課長	西原正信君
教育総務課審議員	島田浩一君
教育総務課審議員	成瀬陽一君
教育総務課審議員	田中良幸君
文化課長	瀬崎陽一郎君
コミュニティ推進課長	西川慶一郎君
スポーツ振興課長	小山晃生君
会計管理者	土村正成君
監査委員事務局長	園田寿寛君
その他関係職員	

午前10時00分 開議

-----○-----

○委員長（多田隈啓二君） 皆さん、おはようございます。

委員会を始める前に申し上げます。委員会は、インターネット配信をしておりますので、各位並びに執行部におかれましては、個人情報等の発言には十分御注意願います。

審査に当たっての発言の際には、必ず挙手をされ、指名しますので、委員においてはマイクスタ

ンドのボタンを押して氏名を述べられてから発言し、終わりましたら再度ボタンを押してください。執行部においては、ワイヤレスマイクのスイッチを入れ、所属と氏名を述べられてから発言し、終わりましたらスイッチをお切りください。

また、委員が質疑される際には、資料の名称及びページ番号等を必ずお伝えいただくようお願いします。

審査の順序、方法は、別紙の議案審査進行表に従い行ないます。

各担当課からの説明は、事前に配付しております主要な施策説明書及び補正予算資料を基に行ないますが、必要最小限の事業に絞っての説明となります。ただし、決算書及び予算書等の内容は、全て審査の対象であることを申し添えます。

なお、一般会計補正予算における各事業の財源となる歳入については、各事業の歳出の説明と併せて、対応する歳入を各担当課が説明します。よって、財政課は財政課所管の歳入のみの説明となります。

最後に、スムーズな議事進行のために、委員におかれましては、決算に関係のない質疑は慎むこと、執行部におかれましては、説明時間は審査案件ごと10分以内を目安にお願いします。

それでは、委員会を再開します。

一般会計歳出9款消防費から14款予備費までの審査を行ないます。

執行部から10分以内での説明を求めます。

○会計管理者（土村正成君） 会計管理者の土村です。

一般会計歳出の9款消防費から14款予備費につきましては、決算書でいきますと10ページと11ページ、事項別明細書では258ページ上段から339ページまでが該当箇所となりますが、8款までと同様、款項ごとの決算額の読み上げは省略し、令和4年度主要な施策の成果に関する説明書の中から事業を抜粋し、4つの事業について主管課長から順次説明いたします。

なお、11款災害復旧費から14款予備費までは、主要な施策はありませんので申し添えます。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） コミュニティ推進課の西川でございます。

コミュニティ推進課からは、4事業のうち1つの事業について説明させていただきます。

それでは、主要な施策の成果に関する説明書の58ページをお願いいたします。決算書は264ページから267ページになります。

事業名は、岱明防災コミュニティセンター建設事業で、予算費目は9款1項6目防災コミュニティセンター費で、決算額は3億5,878万246円です。

初めに、事業の概要から説明いたします。岱明防災コミュニティセンター建設事業は、老朽化した岱明町公民館の建て替えを踏まえ、新たに防災の拠点となる防災コミュニティセンターを建設するものでございます。防災研修施設と災害避難所、防災備蓄倉庫を備え、地域防災の拠点となる施設であるとともに、コミュニティセンター、公民館やボランティアセンター、社会福祉協議会と、福祉の機能も併せ持つ防災とまちづくりが一体となった複合施設でございます。岱明防災コミュニティセンターは、鉄骨造り平屋建て、延べ面積1,405.84平方メートル、また、防災備蓄倉庫は鉄骨造り平屋建て、延べ面積80平方メートルでございます。

この事業の成果についてですが、岱明防災コミュニティセンターの建設事業につきましては、令和4年8月末に本体工事が竣工し、令和4年10月11日から、施設を地域の防災の拠点として供用を開始することができました。また、旧岱明町公民館の解体工事も完了いたしました。

以上でコミュニティ推進課からの説明を終わります。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

教育総務課からは3事業を計上しておりますが、

1事業、事業名、情報教育推進事業を御説明いたします。

主要な施策の成果に関する説明書の59ページ目をお願いいたします。

10款1項2目情報教育推進事業、決算額6,277万1,177円で、主に委託料で2,507万760円、借上料で2,972万3,628円を執行しております。

事業の概要といたしまして、校務業務を統合したシステム、統合型校務支援システムを導入し、学校における事務軽減を図っております。

事業の成果といたしまして、通知表の処理、出欠管理、指導要録等の校務全般を統合したスズキ校務を導入し、教職員による校務や児童生徒の情報の一元管理や共有が可能となるため、業務の効率化、負担軽減が図られました。

ICT支援員の導入の事業概要は、小中学校において端末整備を行ない、事業計画の作成支援や操作メンテナンス支援等を行なうため、5人のICT支援員を配置しました。

事業の成果といたしましては、1校当たり月平均7回ICT支援員を派遣し、学習用端末や校務用パソコン等の操作支援やメンテナンス、トラブル時の対応を行ない、ICT機器の円滑な運用が可能となり、児童生徒及び教職員の学習用端末の活用を促進させました。委託業者はNPO法人アイシーティーサポートスクエアに委託し、委託料2,447万6,760円で委託し、教職員の業務負担軽減につながっております。

以上で、教育総務課の説明を終わります。

○文化課長（瀬崎陽一郎君） 文化課長の瀬崎でございます。

文化課といたしましては、3事業の中で音楽の都事業について御説明を申し上げます。

説明書は67ページ、決算書ページで328ページになります。

10款5項8目、事業名、音楽の都づくり事業でございます。決算額354万9,095円でご

ざいます。

事業の概要ですが、こちらのほうに掲載いたしております。大きく3本柱で、音楽の推進事業、この中では主に玉名市民音楽祭の開催であったり、スクールバンドコンサート、ロビーコンサート等を実施いたしました。

2番目の人材育成事業でございますが、玉名市内に、小学校、中学校と幼稚園、保育園のほうに演奏家を派遣しまして、音楽に触れ合う機会を提供いたしております。

続きまして、3番目ですが、タマにゃんグッズ製作ということで、音楽プロジェクトで発生した玉名市民のマスコット、タマにゃんでございますが、現在は市のマスコットとして活用いたしております。そういう中で広くPRするためにもグッズを作成して、玉名市の音楽イベント等で配布をいたしているところでございます。

事業の成果でございますが、玉名市民音楽祭につきましては、これまで16回ということで合併後に開催してきたわけですが、満員で、現在十分成果があったものと思っておりますし、この音楽事業につきましては、総じて成果を申しますと、子どもたちに音楽に触れ合う機会を提供できた、続きまして市民に芸術文化に対する意識高揚を図る機会を提供した、3番目に感性豊かな市民の育成につながる事業が展開できたというふうに考えております。

以上でございます。

○スポーツ振興課長（小山晃生君） スポーツ振興課長の小山でございます。

スポーツ振興課からは、1事業を御説明いたします。

主要施策の説明書70ページ、決算書におきましては330ページから333ページでございます。

マラソン大会運営事業で、予算費目は10款6項1目保健体育総務費で、決算額は1,813万7,202円でございます。

主な事業の概要といたしましては、委員皆様御承知のとおり、令和2年2月23日開催予定の玉名いだてんマラソン、第43回横島いちごマラソン大会が、新型コロナの影響で直前になり延期を行ない、3年ぶりに開催することができ、スポーツの振興、全国からおいでいただいたランナーとの地域交流及び地域産業の振興を図ることはもとより、玉名市ゆかりの日本初のオリンピックであります金栗四三氏のPRや玉名を代表するイチゴ、ミニトマト等の物産品のPRも行なったところでございます。

事業の成果といたしましては、落ち着いてきたもののコロナ禍の中での開催であり、募集定員には達しませんでした、約4,000人のランナーが御参加いただき、玉名のPRができたものと考えております。

決算額の内訳といたしましては、委託料でSNS等での事前PRやゲストランナー費用として93万5,000円、実行委員会への補助金1,641万7,367円、その他といたしまして職員時間外手当、公用車の燃料費等で78万4,835円でございます。

財源といたしましては、その他で500万、一般財源で1,313万7,202円でございます。その他の500万につきましては、企業版ふるさと納税によるものでございます。

決算額の大半を占めます補助金の使途用途といたしましては、参加費や完走された方へお渡ししましたフィニッシャータオル等の購入、報償費で488万円、エイドステーションの給食用として振る舞いましたイチゴ、ミニトマト、ラン終了後の振る舞いで提供いたしましたおにぎりやアオサのおみそ汁等の食料費356万円、参加者募集チラシやプログラム作成等の印刷製本費が146万円、ゼッケンや参加賞を事前に送付するための通信運搬費105万円等に充てております。

これで、議第70号令和4年度一般会計歳入歳出決算の説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明を終わりました。

これより、質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（大野豊重君） おはようございます。大野です。

まず、9款消防費なんですけれども、決算書の259ページなんですけど、安心安全メール、この配信の業務委託なんですけれども、これも以前、所管課のほうにはちょっと相談させてもらったことがあるんですが、受信できる場合と受信できない場合があってですね、その辺り、何か、業者のほうには相談されて、あとそういったところの問題点があるのかどうかとか、送信ポリシーの部分だとか、そういったところは状況はどうなんでしょう。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二瀬です。

安心メールの受信、できなかった場合とかということですかね。

実は、この件につきましては、安心メールのですね、システムの改築を行ないました。その際ですね、エラー停止、配信停止っていうような原因が発生した状況でございました。その確認をしますと、やはり届いていない、安心メールが届いていないというようなことでですね、発生したような状況でございまして、その辺りの件数がですね、やっぱり当初よりも件数が減ったっていうのが現状でございます。

○委員（大野豊重君） まだあります。

今、答弁で、システム改築を行なったから、それが原因で送信エラーが起こっていたっていうふうに聞こえたんですけども、間違いないですか。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課、二瀬です。

これが、安心メールのシステムの改修を行なった際に、エラー停止、配信停止というのがカウントされまして、そのQRコードの読み込みやメー

ル送信時の時点でのカウントがされていなかったと。すいません、ちょっと代わります。

○防災安全課防災消防係長（前濱俊介君） 防災安全課、前濱です。

委員お尋ねの、登録者のメールに届いていない件数等がですね、実際、毎月何件かございます。それにつきましては、業者のほうと毎月確認を行なっておりますが、明確な理由というのがはっきり分からないような状況で、お尋ねがあった時にですね、その都度対応していくというような状況で、今、対応しております。

以上です。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

ということは、まだ原因がはっきりしてない。

ちなみに、エラーに関してのプルーフリストって出ていますか。何件ぐらい。今、1回の送信あたり。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課、二瀬です。

これについては、後から回答させていただきます。

○委員（大野豊重君） そのときに、登録者数とエラー数というのが分かればと思いますので、よろしくをお願いします。

引き続き、よろしいでしょうか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（大野豊重君） 大野です。

資料58ページの、9款岱明防災コミュニティセンターなんですけれども、これは総務委員会の中でもちょっと聞いたと思うんですが、すいませんちょっともう一度、決算なので改めて伺いたいんですが、防災についての活動状況というのは、いわゆるこの防災センターを使っただけの防災活動っていうものが、決算書上からちょっと見えないんですけども、実際活動はどういうことをやられているのか、その頻度、内容について教えていただければと思います。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） コ

コミュニティ推進課長の西川でございます。

岱明防災センターがオープンしましてですね、令和4年度における防災の事業なんですけれども、第12回の玉名市総合防災訓練が、令和4年の11月20日にですね、岱明防災コミュニティセンターにおきましてですね、開催をされております。内容につきましては、岱明地区の区長さん、参加者が50名程度で行なわれております。

それと、岱明公民館、防災センターのほうで、JA消防訓練ということで、令和5年3月の2日に火災を想定した避難訓練、これにつきましては、来館者それと防災コミュニティセンター職員、大体30名程度で行なっているところでございます。

以上でございます。

○委員（大野豊重君） 大野です。

これは大体、定期的にやられるような事業になられますでしょうか。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） コミュニティ推進課長の西川でございます。

岱明防災センターがですね、昨年度できまして、令和4年度につきましてはですね、岱明防災センターのほうでですね、市の総合防災訓練が11月2日に行なっております。ただ、今年度はまた、岱明では行なわれることで、ほかの場所で行なわれるということになります。

それと、JA消防訓練につきましてはですね、毎年ですね、年に2回ほどですね、訓練を実施しているところでございます。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

JA消防訓練というのは大体自治区でやるものかなとは思っているんですけど、要は消防センター、防災センターとして、何か自主事業として定期的にやるものがあるのかどうかというのを伺いしたいと思うんですが。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二瀬です。

岱明防災センターの利用につきましては、消防団あたりがですね、定期的に消防団会議のほうで

利用しております。

以上です。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

会議のみということだと思んですが、できればこのせつかくの、名前、名称自体も、岱明防災コミュニティセンターなので、防災に関する事業をもう少しやっていかれたほうがいいのかないかなというのがちょっと気になっているところです。

あそこは防災倉庫、ありますけれども、ちょうど昨年この決算委員会のときに、多田隈委員長のほうから、多分これ桃田のほうの倉庫だったと思うんですけど、中身にどうやって入れ込んでいくかということで、令和4年度にかけて入れ込んでいきますよということだったんですが、この岱明防災の、あそこの備蓄倉庫、この中身は今どうなっていますでしょうか。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二瀬です。

岱明センターの防災倉庫ですかね。あちらのほうには一応今、食料品を一部置いております。それとあと、飲料水あたりを置いております。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

ということは、まだがらんとしている状況なんでしょうか。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二瀬です。

それとですね、一応資材というかですね、段ボールベッドだったりとかパーテーションだったりとか、一部そのあたりも置いております。

まだ、がらんというわけではないですが、いっぱいいっぱいになっているような状況ではございません。

○委員（大野豊重君） その辺り、この決算書のほうでは、267ページの備品購入費のところでそろえたという認識でよろしかったでしょうか。

1,057万円ぐらい上がっていますけど。これはだから、備蓄とはまた別で、センターの部分で

すよね。センターの建物のほう。ということは、
備蓄倉庫に対して中身に入れ込むための支出とい
うのは、どれぐらいあったのかなと。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二
瀬です。

備蓄関係につきましては、200万円程度の支
出がっております。

○委員（大野豊重君） それはどちらですか。

○防災安全課長（二瀬哲也君） ページで言いま
すと、263ページですね。5目の防災対策費、
その中の消耗品の中に入っております。263
ページの需用費の①消耗品費214万4,119
円、この中に含まれております。

○委員（大野豊重君） 下のほうですね。ありが
とうございます。

すいません。引き続き、大野です。

教育費なんです、資料でいきますと59ペー
ジの情報教育の推進事業なんです、先ほども事
業説明の中で、校務におけるICT活用推進事業
ということで、業務の効率化も統合システムに
よって負担軽減を図ることができたということ
だったんですけれども、業務の効率化、そしてま
た負担軽減はどの程度できたのか。結局これが
ちょっと、できましたというのが少し曖昧でして、
何か数値的に表現できるようなものが何かあれば
お願いしたいと思います。

何か職員に対してアンケートをとって、業務の
効率化が図れましたとか、あと業務の工数がこ
こまで下がりましたとか、何かそういうのがあれ
ばと思うんですが。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の
西原です。

大野委員のお尋ねの、これまでにアンケート等
をとって数値的なものがあるのかという御質問で
ございますけど、今までですね、そういった教職
員の先生方にですね、どのような項目がよくなっ
たとかアンケート等をとった実例がございません
ので、現在のところは数値的なものはございませ

ん。

以上でございます。

○委員（大野豊重君） 大野ですけども。

ということは、効率化、負担軽減を図ることが
できたというのは、あくまでも教育総務課の中で
の話、ではないんでしょうけれども、できればそ
ういったところ、実質、統合システムを予算を
使って入れていますから、このところどれぐらい
負担軽減ができたのかというのをまた、数値的に
何か測るようなものができればありがたいと思
いますし、あとその下の今度ICT支援員のほう
なんですけれども、まだまだ過渡期とは思って
ますが、要は教職のICT機器の活用スキルにつ
いてお伺いしたいんですけれども、これって教職の方
は、今回どこでしたっけ、アイシーティーサポー
トスクエアのほうから、平均7回ぐらい学校に5
名の方が来られて、結局その職員の方は、有効活
用できているのか、もしくはICT機器のスキル
が身についているのか、現場の効率はどうなのか、
その辺りを効果としてお伺いしたいんですが。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の
西原です。

ICT支援員を有効に活用できているかという
調査のほうで、本年の7月に調査をかけているん
ですけど、ICT支援員を有効活用できていると
いう先生方の回答が266名の方から回答がござ
いまして、77.5%の方が有効活用できている
というふうに回答いただいております。

それと、ICT支援員の今後の必要性について
ということで、大いに必要性を感じているという
回答をされた先生方が235名で、全体の中で6
8.5%の先生方が大いに必要性を感じている、
また、必要性を感じている方が103名いらっ
しゃいまして、こちらパーセンテージで30%の
先生方が必要性を感じているということで回答を
得られております。

以上でございます。

○委員（大野豊重君） であればよろしいかと。

ここもうどんどんどんどん日進月歩でシステムも変わってきますので、いろんなスキルアップが必要になるかと思っておりますので、よろしく願います。

引き続き、よろしいでしょうか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（大野豊重君） 引き続き、地域学校協働活動推進事業、資料でいきますと62ページにあるんですが、ここですね、去年もそうだったんですけども、予算額に対して、ちょっと実績額が少ないのかなと思いますし、決算書でいきますと313ページになるんですけども。すいませんちょっとまた、もう1年前のことで、ここで聞くべきかどうかちょっと違うと思うんですが、令和3年度の実績額というのがちょっと実は知りたくて。それは何でかっていうと、今年の予算に対しての実績額が非常に49%少ないものですから、その前の年はどうだったのかなと。その前の決算書を見るとちょっと、会計年度任用職員のトータル費しか載ってなかったの、ちょっとこの金額が分からなかったの、もし今ここで分かれば、令和3年度の地域学校協働活動推進員の実績額、決算額というのが分かれば、それについてちょっと質問をしていきたいと思うんですけども。お分かりですか。

時間かかるようでしたら、質問変えますので、いいです。

要は、予算額に対して、ここもここ数年50%程度しか使っていませんので、実際、現場では推進活動がしっかりとできているのかどうかというのと、去年も同じような質問したんですが、推進員が不足しているところはないというふうに聞いていたんですけども、結構私も推進員さんと仲いいものですから、私もやっていましたので、結構入替えが多いのかなという気がしています。

なので、そういう入替えが多い中で、そもそもこの事業自体が、なかなかどういうふうに進めていっていいか分からないものからスタートしてい

ますので、そういう状態の中で入替えも多いということは、やり方も難しいのかなと。じゃあ、その中で実際現場では効率的に回っているのかどうか、その辺りをお伺いしたいんですが。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） コミュニティ推進課長の西川でございます。

まず、地域学校推進員につきましては、玉名市の全小学校に1、大規模校、玉中につきまして2名の計22名を配置しております。

令和4年度です、まず活動の実績なんですけども、令和4年度につきましては、いろんな学校支援活動があります。見守り活動であったり、裁縫を教えたり、ミシンとかですね、安全の付添いであったりとか、水泳の見守りとかですね、そういったいろんな学校支援活動がございまして、そちらがですね、3,804件で、参加の延べ人数がですね、4万5,551人でございます。

それと、学校の子どもたちが、地域にですね、出向いて、地域の行事であったりとかですね、いろんな地域のお年寄りへの慰問とかそういった地域の活動に参加する件数がですね、令和4年で95件で参加延べ人数が2,621人でございます。併せてですね、令和4年度が3,899件で参加延べ人数が4万8,172名でございます。

地域学校の推進員さんですね、初めてなられる方もおられまして、その方たちにはですね、市からですね、毎年年度初めにですね、研修会等ですね、行ないまして、いろんな地域学校協働活動のですね、推進委員としての取り組み方とか、そういった指導等も研修等を行なっているところでございます。

それと、玉名管内の、1市3町の地域学校協働活動推進員さんとのいろんな共同の研修会等にも参加をしていただいて、それぞれの地域の特色を自分の学校に取り入れるような、学びの取組も行なっているところでございます。

推進員さんは、やはり先ほど委員がおっしゃるように、事情、都合により1年間の任期を全うさ

れて、1年間で交代される推進員さんもおられますけども、次の委員さんもやはり前任の方、引継ぎを行なったりとか地域の方の助言とか学校の先生の御指導等で、新たに推進員となられた方も自分なりに一生懸命取り組んでおられる推進委員さんもありおられます。

市といたしましてもですね、そういった初めてなられた委員さんにもそういった取り組み方とか、どういった活動をしていいとかそういった研修を今後も引き続き行なっていきたいと思っております。

○委員（大野豊重君） 大野です。

答弁ありがとうございます。

今一生懸命頑張っているという答弁ありましたが、2年以内に入れ替わる割合って何%ぐらい。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） 4人ぐらいだと思います。

○委員（大野豊重君） 全体で22分の4ぐらい。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） はい。

○委員（大野豊重君） ボランティアの数は増えていますでしょうか。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） コミュニティ推進課長の西川でございます。

ボランティアの数につきましては、昨年度と比較すれば若干、延べ人数では増えて、活動が多くなっておりますので、若干増えております。

学校支援活動がですね、延べ人数で言いますと、昨年度が1,805、令和4年度は2,115。それと、部活動指導とかは、昨年度が805件で、今年度は2,056人でございます。トータルで、令和3年度は3万3,431人で、令和4年度は4万5,551人でございます。子ども1人当たり大人6.8人ということになっております。

○委員（大野豊重君） 大野です。

すみません、もう終わりますけども。

延べ人数で言われても、結局その1人が100回やるのか100人が1回やるのかで全然その基

盤が変わってきますので、要はそのボランティアの数がちゃんと増えていっているのかどうか。いわゆるこの地域活動推進員というのはあくまでも地域と学校のコーディネーターであって、そのところが、地域のボランティアを集めてくる、それに対してこの玉名市がどれだけその協力できるのかっていったところを知りたかったので、聞いたところだったので。

またこのボランティアのところもですね、極力増やしていけるように、支援をお願いしたいと思うのと、ここのところについては最後の質問になるんですが、この推進員さんだけは今計上されている予算計上としては、時間報酬だけですね。時間はたしか1,200円でしただけ。これってその、移動費とかもあるわけですし、できればその費用弁償のところも検討していただけないかなというのも、要望として上げておきたいと思います。

引き続き、委員長、よろしいでしょうか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（大野豊重君） 資料の65ページの文化財保護事業なんですけど、決算書でいくと321ページ。ここ決算書の321ページには指定文化財として委託料が646万、うち除草作業として490万。文化財、決算書323ページで、2ページとんでですね、今度は文化財保護活用施設整備事業が800万というふうにあるんですけど、これどう違うんですかね。そこをちょっと聞きたいと思います。

321ページの委託料の部分と323ページの施設整備事業費、これがどう違うのか。

○文化課長（瀬崎陽一郎君） すいません、もう1回よろしいですか。

○委員（大野豊重君） はい。321ページの指定文化財委託料っていうのがありますよね。646万。その次、323ページの文化財保護活用施設整備事業807万。これがどういうふうな性質が違うのかなと思ってですね。これは国、文化財、

県とか市とかそれで分かれているものなんですか。委託料のところですね。

○文化課長（瀬崎陽一郎君） 文化課長の瀬崎でございます。

３２１ページの部分の委託料についてはですね、委託料の内容がそれぞれありますけども、文化財の管理であつたり除草等で、主にですね、その中に文化財の管理としては、石貫とか山田の藤とかあるんですけども、大体石貫についての大きな委託料、施設管理の内容が含まれております。

続きまして、３２３ページですけども、こちらについてはですね、３２３ページの委託料の２番につきましては、石貫小学校につきまして、文化財の管理センター、保存センターということに位置づけにしておりますので、こちらの工事設計委託ということで、その上の部分の樹木、保守点検、警備についても、この石貫小学校の跡地の利用についての内容でございます。

すいません、ちょっと説明が不十分でしたけども、３２３ページの委託料につきましては、石貫小学校を管理センターにしておりますので、そちらに関する経費の委託でございまして、前のページの委託につきましては、文化財を管理する中で、これには先ほど言いましたように、石貫の穴観音であつたり、山田の藤であつたり、そういうところの、個々の委託、点検、地元に対する部分と、また、そういう管理、清掃業務等の委託でございます。

○委員（大野豊重君） 大野です。

それ、石貫地区以外の文化財についての整備費っていうのはないんですか。

○教育部長（藤森竜也君） すいません、教育部長の藤森です。

文化財の維持管理については、経常的な部分がほぼほぼ多いので、前のページのほうで、全体的に全市的に行なっている。旧石貫小学校を今、文化財の保護管理センターということで整備をしている途中でございしますので、この分について、事

業を１つ、整備事業ということで項目を設けて、分かりやすく整理しているというような御理解でよろしいかと思いますが、よろしいですか。

○委員（大野豊重君） 大野です。

今、部長答弁のほうで、管理センターのほうはまた別個でやっているから計上しているんだよというのは十分理解できたんですが、となると、その前の３２１ページの部分については、石貫地区のみではなくて、これは玉名市全体の分の保護文化財としての整備事業費という認識でよろしかったでしょうか。

○文化課長（瀬崎陽一郎君） 文化課長の瀬崎です。

そのように考えております。それで結構です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

となるとちょっと、歳出になるんですが、玉名市の文化財保護条例というのがありますよね。これ私もちょっと、全部を読み込んだわけじゃないんですが、ちょっとすいません、理解ができなかったのを教えていただきたいんですけども、市の文化財指定だとか登録だとか、県とか国とかあるかと思うんですけども、この中で、樹木の伐採について、要は何か、条例を読み込んでいくうちに、大きな樹木の伐採なんかは許可制だったと思うんですけども、木を切っていいか、それは許可になりますよと。でもその費用は地元負担というかそういうふうになっているかと思うんですが、その辺り。

○文化課文化財係長（末永 崇君） 文化課文化財係の末永と申します。

先ほど委員質問の内容につきまして、文化財に指定されている樹木等の伐採については、事前に許可が必要になっているようになっております。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

許可が必要だけれども、その辺りの整備費に関しては地区負担になるわけですね。

○文化課文化財係長（末永 崇君） 文化課文化

財系の末永です。

指定文化財につきましては、玉名市が所有している文化財と、あとそれから個人の方とか民間の所有している樹木、文化財等々ありますが、市所有の文化財につきましてはもちろん市が負担して、個人所有の文化財等につきましては、原則、所有者が負担して木の伐採等を行なうわけなんです、それに対して市から補助するという場合もあります。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

すいません、ちょっと最後聞き取れなかったんです。

○文化課文化財係長（末永 崇君） 個人の所有、それから民間の所有の指定文化財につきましては、原則、所有者負担です。その中で費用の一部を市から補助することもできますので、何件かそういうことで補助してやっている事例もあります。

以上です。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

市の所有のものは当然この委託料、整備事業のほうに入ってくるかと思うんですが、それプラス、いわゆる申請者、申請元が基本は負担すべきなんですけれども、その一部を市でも補助をするということで、この委託料のほうに計上されているという認識でよろしかったでしょうか。

○文化課文化財係長（末永 崇君） 文化課文化財系の末永と申します。

御指摘の内容で結構です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

ちなみに個人の申請元のほうなんですけれども、これは補助金のみなんです。それとも何か、業者委託とかシルバー委託っていうのも含まれるんでしょうか。

○文化課文化財係長（末永 崇君） 文化課文化財系の末永です。

文化財の管理状況につきましては、個別の文化

財ごとでシルバー人材センターに伐採等を委託するケース、それから一般の土木業者・造園業者に委託してお願いする場合等々がございます。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

市のものは当然、市の所有のものは分かるんですが、個人からの、申請元が、業者、シルバーに発注する。そのケースで補助金を出す、もしくは、直接市のほうから発注をする。こういうことがあり得るかどうか。

○文化課長（瀬崎陽一郎君） 文化課長の瀬崎でございます。

市のほうから発注することはございません。基本的には地域のほうからお願いするということになっております。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

ということは、その地域のほうで、申請元のほうでやって、そのいくら欲しいからということで、それに対して補助額を決めて支援をしているという認識でよろしかったですね。

○文化課長（瀬崎陽一郎君） 文化課長の瀬崎でございます。

はい、そのとおりでございます。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

じゃ、引き続きなんですけれども、教育に関してはもうこれで最後なんです、これ要望のみなんですけれども、これ毎年、言っていることだし、委員会でも言っているんですが、全国大会出場激励金事業費。これせめて、大学生に関しては補助の対象にしてほしいということを要望しておきます。

で、質問のほうなんですけれども、マラソン大会運営事業で、先ほども主要施策の事業説明が行なわれましたけれども、いわゆるいちごマラソン、いだてん玉名のところなんです、大会参加は約4,000人ぐらいということで、3,900人ぐらいだったんですかね、そもそもの、このいちごマラソンを予算化されたときに、大会の予定募集

数というのはそもそも何人を想定されていたのか。

○スポーツ振興課長（小山晃生君） スポーツ振興課長の小山です。

いだてんマラソン、いちごマラソン、トータルで8,000名を募集しております。その中で約4,000名ということですので、約半分の参加者があったということでございます。

以上です。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

となると約半分、今おっしゃられたとおりだったんですが、そうなれば、もう少しその宣伝費を使ってよかったのかなという気はしております。予算に対して、結構残があるかと思っております。

あともう一つ、要望になるんですが、フルマラソンの制限時間が6時間だったと思うんですけども、ぜひここは7時間にしていきたいと思えますし、あともう一つ要望としては、今回、職員の皆さんはほとんど補助員というか、大会補助で立たれてたんですけども、ぜひですね、このフルマラソンへの希望職員がいらっしゃったら、ランナーとしての参加を認めていただきたいなというふうに思います。

玉名市が企画してやっているのに、玉名市自身が楽しくやってなければあんまり意味がないものになりますので、そんなフルマラソンに何百人も職員が参加するとは思いませんので、希望する職員がいらっしゃったら。ペースランナーという意味合いもありますけれども、ぜひぜひ、2時間狙う職員、3時間狙う職員いらっしゃいますので、そこも検討していただければと思います。

○スポーツ振興課長（小山晃生君） スポーツ振興課長の小山です。

まず、最初に御質問がありました時間でございますけれども、時間制限でございますが、時間制限につきましては、警察との協議もございまして、地元の横島地区の皆様の生活道路を封鎖して行ないますので、そちらにかなりの御迷惑をかけているということになっております。ですので、時間

につきましてはちょっと難しいのかなというふうに考えております。ただ、生活道路でございますので、横断につきましては警備をつけて、地元の皆さんが渡りたいときに危険がない、ランナー切れた時点ですね、横断をしていただくというような形を今年度はとりたいというふうに考えております。

それと、職員がマラソン大会に参加するということにつきましてはですね、実行委員会のほうで決定することでございますけれども、基本的には先ほどおっしゃいましたペースランナーであったりとかですね、マラソンを实际走っている職員につきましては、よくマラソン大会を熟知していますので、そのノウハウを逆にスタッフとして生かしていただきたいという形で考えておりますので、御理解をよろしくお願いいたします。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。ほかに。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二瀬です。

先ほど大野委員から御質問がありました、安心メールの登録者件数及びエラー件数ですが、令和5年9月1日現在で、登録者件数が7,005件です。それと、そのときのエラー件数が15件となっております。その原因については不明という形になります。

以上です。

○委員（大野豊重君） そのエラーコードが気になるんですが、私も実際届いたり届かなかったり、同じ消防団の中でも、俺も届かなかったよっていうのもありますので、単純に今エラーが15件で、じゃあ15人に届いてないのかというわけでもないんですけども、もしかするとエラーコードの中の一つが5,000件届いてないというケースもありますので、もう少しそこを追及して調べていただければと思いますので、また今後よろしくお願いいたします。

○委員（山下桂造君） 山下です。

防災安全のほうなんですけれども、先ほど備蓄品の話が出ておりましたが、備蓄品の、大体5年計画でためていくという話でしたが、現在どのぐらい、何%ぐらい達成していますか。まずお願いします。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課、二瀬です。

現在の備蓄状況についてということでよろしいでしょうか。

現在ですね、紙おむつとか粉ミルクなどの物資等につきましては、大体ほぼ100%の状況にあります。ただ、食料分についてが約33%ということで、ちょっとまだ100%に至ってないような状況でございます。

これについては、今まで災害の支援物資の提供などを行っており、その辺りが原因となっているのではなかろうかと思っております。ただ、これにつきましても、まとめて購入したりとかした場合、廃棄する時期が、ちょっともう一緒になったりとかしますので、その辺りは極力計画的に購入を図ってまいりたいはと考えております。

以上です。

○委員（山下桂造君） 今、私も一番心配している紙おむつとか赤ちゃんのミルクとかっていうのはそれはもう大丈夫と言われたんで、安心いたしました。これも聞こうと思っていたところでありました。

あと今度は、261ページの17番に、小型動力ポンプというのがあるんですが、これは多分消防ポンプのことだろうと思うんですけども、ただそれだけ書いてあったんで、どういうものなのかを教えてください。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二瀬です。

こちらは消防団が乗っている積載車でございますよね。あちらのほうに載っているポンプになります。

以上です。

○委員（山下桂造君） ということは、どっか消防団の壊れたか、新しくつくったかという形で買われたんですね。

○防災安全課長（二瀬哲也君） 防災安全課の二瀬です。

年数がたっておりまして、その辺りでの買換えというような形になっております。

○委員（山下桂造君） 山下です。

次、317ページお願いします。

ここに玉名市公民館支援活動推進事業業務委託と書いてある、業務委託って書いてあったものでちょっと引っかかってしまったんですけども、これ委託先は、これはどういうもので、委託先は何件あるのかとか教えていただけますか。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） コミュニティ推進課長の西川でございます。

玉名市公民館の支館委託料につきましてはですね、まず21支館あります。こちらにですね、均等割がですね、24万9,000円、世帯割が1戸当たり29円程度ですね、委託料を各支館です、玉名町支館とか築山支館とかですね、大野支館とか鍋支館とかに支払っております。

この支館委託料につきましては、各支館において、様々な文化事業であったり体育事業、文化祭とか支館だよりの発行とかですね。それと支館体育祭とかですね、支館球技大会、グランドゴルフとか、ビーチバレーとか、そういった活動のほうにですね、各支館から使っていただいております。委託料でございます。

以上です。

○委員（山下桂造君） ありがとうございます。山下です。

推進事業っていうことで、それぞれの支館の活動をっていう話であるということよく分かりました。ありがとうございます。

じゃあ、山下、またいいですか。

319ページです。

5 番の図書館施設管理事業なんですけれども、こちらのほうに借上料っていうのがありましたものですから、一体何を借り上げているのかなというのをお聞きしたいと思います。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） コミュニティ推進課長の西川でございます。

107万1,600円の借上料の件でございますでしょうか。こちらにつきましてはですね、玉名市の4図書館のコピー機であったり、ファクスのリース料でございます。

○委員（山下桂造君） 山下です。

分かりました。そちらのほうだったんですね。

あとちょっとこれ、素朴な質問だったんですけど、図書館のプリンタ保守業務委託っていうのがあったんですけども、これはプリンターの保守業務っていうのは委託しないとできないことなのかなと思って、ちょっと伺います。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） コミュニティ推進課長の西川でございます。

プリンタハードウェア保守委託料、これは4図書館ございまして、やはり図書館のプリンタですので、私ども職員では対応等がなかなかできない部分もございますので、業務委託をお願いしているところでございます。

○委員（山下桂造君） 山下です。

ありがとうございます。そういうことですね。

次です。よろしいですか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（山下桂造君） 327ページです。山下です。

博物館の件なんですけれども、現在、会計年度任用職員さんは何人いらっしゃいますか。教えてください。

○文化課長（瀬崎陽一郎君） 文化課長の瀬崎でございます。

現在ということでよろしいでしょうか。

○委員（山下桂造君） はい。

○文化課長（瀬崎陽一郎君） 現在ですね、会計

年度任用職員は4名います。

○委員（山下桂造君） 山下です。すいません、失礼します。

ごめんなさい。これ、4年度ですね。4年度は4名ですか、やっぱり。

○文化課長（瀬崎陽一郎君） 文化課長の瀬崎でございます。

4年度は4名でございます。

○委員（山下桂造君） 博物館の会計年度の職員さんたちっていうのは、たしか学芸員さんたちだったと思うんですけども、やはり玉名市の歴史とかもどんどんすごく研究もされていってますので、何か会計年度よりもその上のほうに上げていただければなというふうなことを思いましたので、ちょっと要望いたします。

山下です。よろしいですか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（山下桂造君） 次ですが、329ページです。

文化振興事業で、昨年度、笠智衆さんの番組つくってということで、その費用を1,620万上げられておりました。

今年度、令和5年度300万という形であったんですけども。すいません、ちょっと質問がずれました。

笠智衆さんの1,620万円出したことで、著作権とか、あるいはその作品・番組の利用とか、これはどんな形になっているか教えていただけませんか。

○文化課長補佐（兵谷有利君） 文化課の兵谷です。

この件につきましては、著作権というのはですね、本来作られたところにありますけども、学術的とか事業とかですね、そういう文化的な面とか子どもたちのために使うということは承諾を得ておりますので、こちらで利用することは可能となっております。

○委員（山下桂造君） 山下です。いいですか。

玉名市で利用することができる、教育のために利用できるということで認識いたしました。

ここです、ちょっと話がずれるんですけど、令和4年度に1,620万あって、今年度300万という形で、もしよかったら、このぐらいまだ付けてから、ほかにもいろんな事業ができなかったかなと。また、音楽の都づくりということで持っていければよかったんじゃないかなということをちょっとここは一言言わせていただきます。

以上です。

すいません、次いいですか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（山下桂造君） 山下です。

音楽の都づくり事業の中での市民会館固定席、除去したり復旧したりした作業っていうのがあるんですけど、これ何があったんですか。

○文化課長（瀬崎陽一郎君） 文化課長の瀬崎でございます。

2月ぐらいだったですか。のど自慢、NHKののど自慢がございまして、あのときに、ステージの広さが少し足りなかったということで、20席ほどを一時的に撤去したということで、その撤去した費用、そして復旧した費用でございます。

以上でございます。

○委員（山下桂造君） 山下です。

分かりました。じゃあ次またいきます。

これは学校のほうなんですけれども、学校の各学校、小学校、中学校ごとに管理費と振興費と分けてあります。この管理費と振興費と分けてある理由は何でしょうか。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

管理事業のほうでございますけど、小学校でしたら15校の管理に関する部門を管理事業のほうで上げまして、振興事業のほうに関しましては、学力検査であったり、様々な学校教育を進めるための事業のほうを計上しているところでござい

す。

○委員（山下桂造君） 山下です。ありがとうございます。

以上で終わります。

○委員（北本将幸君） 北本です。

283ページのところなんですけど、学校給食費のところで、公会計化されて、徴収的にはどうですか。改善したって感じですか。

○教育総務課長（西原正信君） 学校給食事業に関しまして、公会計化になり、先週の歳入のところでも申したんですけど、収入未済額が110万4,000円程度ありまして、今現在、68万程度徴収ができておりまして、ほとんどの学校給食費が納められているところでございます。

以上でございます。

○委員（北本将幸君） 北本です。

コンビニ収納対応ってのもあるんですけど、コンビニ収納の人も結構いるんですかね。引き落としと。

○教育総務課総務係長（東田優子さん） 教育総務課総務係の東田です。

今年度、コンビニ収納のほうを導入しまして、督促などの納付書の件数が300件ほどありまして、そのうちコンビニのほうで収納された件数が約半数、5割程度ございました。

○委員（北本将幸君） 北本です。

この督促とかの対応も、今も職員の人がしよるということですね。

この人件費2,400万円ぐらいあっているけれども、四、五人でされているということですか。

○教育総務課総務係長（東田優子さん） 教育総務課総務係の東田です。

督促の業務に関しましては、主の担当と副査の担当と督促の発送とかですね、電話督促などについては、2名体制で行なっているところでございます。

○委員（北本将幸君） 北本です。

どうしても払えないような生活困窮的なところ

もあって、いろんな支援につなげたりという対応も、その職員さんでされている、できてるって感じですか。

○教育総務課総務係長（東田優子さん） 教育総務課総務係の東田です。

就学援助のほうのですね、勸奨等ですね、ちょっとそういう支援の制度があるということですね、お話をしております。

○委員（北本将幸君） 大丈夫です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。ほかに。

○委員（前田正治君） 前田です。

決算書のですね、273ページと276ページに学校規模適正化事業というのが挙げてあるんですけど、玉陵中校区と天水中校区ですね。これはどういった事業をされたんだったかなと思って、お尋ねします。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

まず、学校規模適正化事業の玉陵中学校校区でございますけど、旧梅林小の花壇の整備であったり、通路等を整備を行っております。

すいません、学校規模適正化事業の天水中中学校校区におきましては、現在まだ、今現在、小天東小のほうをプロポーザルにて公募を行っておりますけど、維持管理のほうは、除草委託であったり高木の伐採業務委託であったり、維持管理業務のほうを行なっているところでございます。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

玉陵中校区という校区の中での学校規模適正というのは、売却が済んだところはよしとして、まだ玉名市の財産として残っておところは先ほどおっしゃった花壇の整理とかいろんなことの事業をこれで、適正化事業の中で賄うということですかですね。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

旧月瀬小学校の緑地管理業務委託であったり、梅林小の緑地管理業務委託等に予算のほうを執行いたしております。それプラス、月瀬小においてはですね、樹木の伐採であったり、梅林小は売却時に境界復元等の測量業務委託に使用しているところでございます。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

分かりました。

それでは、決算書のですね、277ページになるのかなと思うんですけど、市内小中学校の先生たちで、玉名市が雇用する非常勤の先生がいらっしゃると思うんですけど、これは何人ぐらいおんなはつとですかね。令和4年度では。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

市のほうで雇用しております非常勤講師としては、ゼロでございます。熊本県が雇用している非常勤講師がおります。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

何人というと、何月から何月までとかいろいろあるけん、ちょっと変えまして、おんなはつとですよ。いらっしゃるか、いらっしゃらないかで。玉名市が雇っている非常勤の講師、非常勤の先生のことです。

○教育部主席審議員（荒谷邦治君） 教育部の荒谷です。ちょっと確認いたします。

多分今、前田委員がおっしゃっているのは、前、35人学級をしていたときのような授業をする者ということでしょうか。

○委員（前田正治君） そうですね、そういったことも含めて。

○教育部主席審議員（荒谷邦治君） 市のほうで雇っている講師はおりません。ゼロです。

○委員（前田正治君） おらんですか。

○教育部主席審議員（荒谷邦治君） はい。

○委員（前田正治君） ほんなら、県が雇った正式の先生と臨時採用の先生、それしかおらんとい

うことですね。

○教育部主席審議員（荒谷邦治君） 教育部、荒谷です。

県が雇っている正規の職員と非常勤講師、これはもうほぼ担任とか授業をしますけど、併せて非常勤講師がおりまして、全部入っていないところに週3回、理科を教えに来るとか、そういった先生もいらっしゃいます。3種類になります。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

それはあくまで県が雇用しているという、雇用関係というのは、県の教育委員会と本人ということ。玉名市は全然関係しとらんということでよかですかね。

○教育部主席審議員（荒谷邦治君） 教育部、荒谷です。

委員のおっしゃるとおりでございます。

○委員（前田正治君） ほんならよかですよ。分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） コミュニティ推進課長の西川でございます。

先ほど大野委員からですね、御質問がございました、令和3年度の報償費の地域学校共働活動の報償費ですけれども、378万5,534円でございます。

推進員さん22名と、あとは放課後子ども教室の方に、12名ですけれども、支払っております。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

以上で、議第70号令和4年度玉名市一般会計歳入歳出決算に関する質疑及び委員間討議は全て終結いたしました。

これより討論に入ります。

議第70号について討論はありませんか。

○委員（前田正治君） 前田です。

私は議第70号一般会計の決算認定について、私は反対をいたします。

その理由は、当初の予算のときも申し上げましたが、新型コロナ対策ということで、保育士等処遇改善臨時特例交付金というのが国から来たんですけど、玉名市の場合は、これ、私立の保育士の処遇改善は予算化もしてあったんですけど、公立の保育士あるいは会計年度任用職員の保育士については予算化を見送ったわけですね。

ところがこの交付金の趣旨というのは、公立も私立も、それは差をつけるべきじゃなくて、一様にやっばちゃんと待遇を改善しなさいというような主旨だったわけなんですけど、それがされなかったというようなことで、認定については反対をいたします。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに討論ありませんか。

これにて討論を終結いたします。

これより採決に入ります。

議第70号令和4年度玉名市一般会計歳入歳出決算については、異議がありますので、挙手による採決にいたします。

議第70号について、認定することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（多田隈啓二君） 賛成多数であります。よって、議第70号については、認定することに決定いたしました。

ここで、執行部の入替えのため、暫時休憩いたします。

再開は11時半から行ないます。

—————○—————

午前11時17分 休憩

午前11時29分 開議

—————○—————

○委員長（多田隈啓二君） 休憩前に引き続き、委員会を開きます。

次に、議第71号令和4年度玉名市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算を議題といたします。

執行部から10分以内での説明を求めます。

○会計管理者（土村正成君） 会計管理者の土村です。

歳入歳出決算書の350ページを御覧ください。

議第71号令和4年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算書でございます。

説明に入ります前に、特別会計の説明の流れを御案内しておきたいと思います。

まず、一番初めに、歳入合計の読み上げ、歳出合計の読み上げ。次に、実質収支の読み上げ、ここまでは私のほうでさせていただきます。次に、主管課長から主要施策に関する説明という形で進めさせていただきますと思います。

それでは、351ページと352ページを御覧ください。

歳入ですが、一番下の段、歳入合計額を御覧ください。

左から、予算現額88億7,524万2,000円、調定額96億8,476万4,883円、収入済額92億662万4,813円、不納欠損額1,745万3,603円、収入未済額4億6,068万6,467円。一番右は、予算現額と収入済額との比較になっています。

1款国民健康保険税から8款諸収入までの各款項ごとの決算額は、歳入合計の上段にそれぞれ記載のとおりです。個々の読み上げは省略させていただきます。

なお、不納欠損額と収入未済額については1款国民健康保険税の額となっており、2款から8款までの各款においては、不納欠損額、収入未済額はありません。

また、歳入の目や節ごとの決算額の詳細は事項別明細書に記載していますので、別途御参照ください。対象のページは359ページから366

ページです。

引き続き、歳出決算の説明をさせていただきます。

353ページを御覧ください。

353ページと354ページには、1款総務費から8款諸支出金までの款項ごとの決算額を記載しています。

次の355ページと356ページを御覧ください。

9款予備費と歳入合計を記載しております。

歳入の説明と同様に、各款項ごとの読み上げは省略させていただきますので、355ページ一番下の歳出合計を御覧ください。

左から、88億7,524万2,000円、支出済額85億9,809万826円、翌年度繰越額はありません。不用額2億7,715万1,174円。一番右は、予算現額と支出済額との比較になっています。

歳出の目や節ごとの決算額の詳細は事項別明細書に記載しておりますので、別途御参照ください。対象のページは367ページから388ページです。

次に、実質収支を説明いたします。

389ページ、御覧ください。

実質収支に関する調書は、1,000円単位の記載となります。上から、歳入総額92億662万4,000円、歳出総額85億9,809万1,000円、歳入歳出差引額6億853万3,000円、翌年度へ繰り越すべき財源はありません。実質収支額6億853万3,000円となっています。

次に、保険年金課長から主要な施策について説明をいたします。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

国民健康保険事業特別会計から、2つの事業について御説明します。

主要な施策の成果に関する説明書71ページ、

決算書は379ページから382ページとなります。

1つ目は、予算科目5款1項1目特定健康診査等事業費、決算額は5,144万2,361円でございます。

事業の成果といたしまして、特定健診は、受診対象者1万2,616人に対しまして受診者が3,954人で、受診率が31.3%。特定保健指導は、対象者681人に対し実施者が551人ということで、実施率は80.9%でございました。

なお、令和4年度は、心電図検査の結果、心房細動の所見がある方への保健指導も実施しております、対象者が26人で実施者が18人、受診率が69.2%でございました。

続きまして、主要な施策の成果に関する説明書72ページをお願いします。決算書は383ページから384ページです。

2つ目の事業は、予算科目5款2項2目健康づくり推進費、決算額は932万8,527円でございます。重複・頻回受診訪問指導でございます。

事業の成果といたしまして、重複・頻回受診訪問指導は、医療機関を重複・頻回受診している、もしくは重複服薬、多剤服薬している被保険者の中から、レセプト上で訪問指導の優先順位の高い方を選別し、委託業者に登録されている保健師等が被保険者宅を訪問の上、本人及び、必要に応じて、家族にも対し、助言指導を行っております。原則1人当たり2回の訪問指導を行っております。

その結果、下のほうに実績が上がっておりますが、まず、重複受診者につきましては、効果検証ができる被保険者35人中33人に改善効果が確認されており、1人1か月当たりの医療費の削減効果額が1万4,117円となっております。

その次の頻回受診者につきましては、効果検証ができる被保険者4人中4人に改善効果が確認されており、1人1か月当たりの効果額が8,128円となっております。

なお、重複服薬者、多剤服薬者の効果額は、下に記載のとおりとなっております。

以上で、国民健康保険事業特別会計の説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明を終わりました。

これより、質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（大野豊重君） 大野です。

まず、歳入のほうなんです、調定から収入済み、そして収入未済のところ、これ結局その2025年問題に関して、どんどんどんどん増えるんじゃないかと、こっちの、国保のほうからは減っていくんですかね。で、後期高齢のほうに移行していくと思うんですが、その中で、この国保から後期高齢に関しての資格喪失の内訳をお伺いしたいんですけど、分かりますか。

○委員長（多田隈啓二君） それでは、議事の都合により暫時休憩いたします。

————○————

午前11時41分 休憩

午後 1時00分 開議

————○————

○委員長（多田隈啓二君） それでは、休憩前に引き続き委員会を開きます。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

午前中の大野委員の御質問ですが、資格関係の喪失とかですね、そういった後期高齢の移行とか、まず、後期高齢の移行の数ですが、令和4年度中が871人ですね。それから、代表的なもので社保離脱とか社保加入というのがございますけども、まず、社保離脱につきましては、会社を辞めた方の移動につきましては1,351人。それから、反対に社保加入の資格喪失が658人ということになっております。

以上でございます。

○委員（大野豊重君） はい。ありがとうございます。

ます。

次にですね、後期高齢に移動した分のタイミングというか、その計上のタイミングっていうのですかね。要は74から75になるときに、その年度の途中でなると思うんですけど、調停は年に1回ですか、それとも誕生日で何か、その調定を切り替えるとかそういうふうにされているんですか。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

当然今、大野委員がおっしゃったように、誕生日ですね、そこから調定は上がるものですけど、基本的には、例えば年度中はいいんですけども、例えば3月とか年度末に誕生を迎えられる方については、ちょっと決定通知あたりがですね、4月になったりとか、そういったことは出ております。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

ありがとうございます。

次の質問ですけど、一般会計からの繰入金なんですけど、これの算出の根拠。例えば職員給与とか減免負担とかいろいろあると思うんですけど、この算出の根拠ってちょっと教えていただければ。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

一般会計繰入金につきましては、2億数千万ですかね。まずそれが、担当の職員の人件費、税務課の賦課とかですね、あと支所関係もありますけども、人件費と、それから事務費、それから出産育児一時金の費用ですね。そういったものが代表的なものになります。

あと、7億円ほどですね、会計から繰入れがあっておりますけど、その差額は保険基盤安定負担金ですね。保険税を軽減した分、あるいはその保険者の支援分ということで、4億五、六千万円ぐらいあったかと思います。トータルで7億円以上の繰入金があっているというところでございます。

以上です。

○委員（大野豊重君） 繰入金の際の、減免になる人も多分その中に入っていると思うんですよね。減免対象となった人の令和4年度の内訳って分かりますか。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

今の分、減免というのはどういった範囲になりますかね。すみません。

○委員（大野豊重君） 要は、保険税がいろいろな収入だとか、減免になる対象の人が何人かいらっしゃると思うんですけど、その分減免になった分を、結局国からのやつで、今度は一般会計を通じて繰入金で入ってきますよね。

対象の減免者というか、保険税が減免になる人の対象。それが何人ぐらいいらっしゃるのかなと思って。

○税務課長（富安 崇君） 税務課長の富安です。

実績としまして、4年度の実績を申し上げますと、軽減、7割、5割、2割の軽減がございますけれども、総額で3億3,400万円の軽減をしております。

あと、子ども軽減という形で均等割の軽減をしておりますけども、それが713万5,000円程度減額をしております。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野ですけど。

それに関連して、子ども医療費。今年、玉名市も高校生までやったと思うんですけど、それに対してのペナルティーのやつがあったと思うんですよね。

これってたしか、厚労省から今年の4月ぐらいにもうそれは全国的にほとんどやっていることから、なくしようかっていうふうな、何かニュースが出てたんですけど、これってどうなったんでしたっけ、結論は。まだはっきりしてなかったですかね。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の

松下です。

確かにそういった動きがありますけれども、ちょっとまだはっきりとは、いつからとかそういったのは分かっておりません。

以上です。

○委員（大野豊重君） 国庫分のペナルティーの額ってというのは、何か分かるんですかね。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

今現在ではですね、就学前がペナルティー対象外だったと思いますけれども、以前ちょっと担当とその辺話していたときですね、もう1年以上の話なんですけども、その頃ちょっと幾らぐらいあつとかなということで聞いたときは、二、三百万ぐらいじゃなかったかなと記憶しております。

すいません、アバウトな数字で。

○委員（大野豊重君） 大丈夫です。ありがとうございます。

それぐらいであれば大丈夫だと思います。

繰越金がちょっと年々増加しているのかなと思うんですね。毎年少しずつ。令和3年度からすると約1億円ちょっと増えていきますけど、これって適正なのかどうか分からないんですけど、これ適正なんですか。増やしているのは。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

別に増やしているわけではなくてね、結果の数字ですけども。3年度決算のときが、実質収支が6億5,500万円ぐらいあったかと記憶しています。今年度が6億800万円ということでですね、繰越金自体減っておりますけど、当然ここは繰越しがあつたほうが運営的にはといいというふうで認識しております。

以上です。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

最後になりますけど、これも昨年聞いたんですが、未納者の資格停止処分があつて、昨年の質問だから、令和3年度の短期証明書が400人で、

資格証明書が70人ということだったんですが、令和4年度はこれどういうふうになりましたか。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

ちょっとあの、令和5年の7月末現在の数字でちょっと把握しているんですけど、それでよろしいですか。年度末では、ちょっとすいません、把握してないですけども。

5年の7月末現在で短期証が418世帯ですね。それから資格証明書は70世帯という結果です。

申し訳ありません。

○委員（大野豊重君） 以上です。ありがとうございます。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議は。

○委員（立川信之君） 立川でございます。

決算書ですね、375ページですけど、出産育児一時金のことでございます。

これです、何というかな、この国保に加入されて、外国の方なんですけれど、外国に子どもがいても、これが請求ができるそうなんですけれど、玉名市の場合、これ、外国に支払った実績というかな、それは何人ぐらいだったですかね。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

ゼロでございます。

○委員（立川信之君） 今年も。

○保険年金課長（松下 匡君） はい、今のところ。

○委員（立川信之君） 分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。ほかに。

○委員（前田正治君） 前田です。

主な施策の71ページですけど、特定健診の健診率は、熊本県内で玉名市は何番目ぐらいに位置しとるですかね、今。

○保健予防課長（村上洋治君） 保健予防課長の村上でございます。

受診率の県内の14市の中での位置づけ、本市の特定健診の受診率の、例えば県内14市の中での位置づけということでよろしいでしょうか。

大まかに言いまして、そうですね、大体中間ほどと言えらと思います。

例えば5年前の平成30年度から、これが第5位。令和元年度が7位。令和2年度が大分落ちてまして11位です。令和3年度が11位ということでございます。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

玉名市からこの前LINEで来たんですけど、この前も言いましたけど、食べ物、どぎゃんとば食べよっですかというアンケートを今、実施中ですよね。その中にメタボとメタボ予備軍が県内でワースト1位と、そういう汚名があつとですけど。受診率をやっぱし、ワースト1位を返上する一つの手だてとして、受診率の向上があると思うんですけど、受診率を上げるための手だては大体どういったことをされていますか。

従来どおり、さらに力を入れてこういう取組をしましたというのがあったら、ちょっと紹介してほしいんですけど。

○保健予防課長（村上洋治君） 保健予防課長の村上でございます。

この受診率の向上、これも最終的にその人を検診に向かわせないといけないという非常にある意味ちょっと難しい側面があるかと思います。もちろん、うちの保健師とか一生懸命、当課を挙げて、受診率の向上につきましたは、あらゆる機会を捉えて周知をしておるところでございますが、これは、令和4年度、これだけ目新しい何かやったかというのはそういうことではなくて、こつこつと着実にそういった努力はしてきたつもりでございます。

今ちょうど協議しておりますのが、例えば、何て言いましょうか、気楽に検診に足を運べる、例えば受診の申込書について、ちょっと細かいとこ

ろですけども、その様式等について今ちょっと協議をしているところでございます。と言いますのも、申込書も、正直なところ、いろんな検診内容があつて、非常にちょっと、ぱっと見た目、ちょっと複雑なところが正直ございますので、その辺りの簡単に、ちょっと簡略化とか、まずその辺りは、今後やっていきたいとは思っております。以上です。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

いつも毎年送ってくつとですけど。ここで受診してくださいということで。やっぱし本人に、あれ見ると、確かにいろいろ書かなんけんですね、せからしかなって思う人もおるかもしれん。

ですから、本人が特定検診を受けたいという思いがあれば、例えばもう住所と名前だけ書いて送り返すとかですね。あといろいろ面談するとき、聞いて書き込めばよかけんですね。そういった、何といひかな、申込みのやりにくさとか、その辺もやっぱ改善するのも一つの手だてかなと私も思います。

それと、続けてよかですか。

72ページの重複・頻回受診訪問指導なんですけど、これはそれなりに実績が上がってよかかなというふうに感じます。

ただこれも、さらに、こういったことと特定健診を受診してもらうということも併せて、何といひかな、市民の皆さんに行政側から働きかけるといひかな、病院に何遍でん行ったりとか、同じ薬ば何遍でん飲んだりするような人はですね、やっぱそれぞれいろいろ悩みを抱えている、あるいは誰にも相談しようがないとか、そういったことを思っているような人がおつとじゃないかなと思うとですよ。これは私が勝手にそげん思うとですけど、そういう人こそ、やっぱ、行政からの手だてとちゅうかな、そぎゃんとが必要だと思いますので。さらに健診受診率を上げるような取組とか、こういった頻回受診をなくすような取組は、人材も増やしてですね、力を入れて、ぜひ取り組んで

ほしいというふうに思います。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員
間討議はありませんか。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

決算書のですね、361ページだった。

保険給付費等交付金が、減額補正で5億7,300万ぐらい補正されているじゃないですか。これは原因としては、やっぱ実績でこぎゃんなってというふうに思うとですけど、これが減額されたということは、玉名市の国保にかたっとる人がそれだけ病氣ばせんだったということかなと思うとですよ。給付が減ったけん、県からの補助金も減ってとつかなと。

そうすると、377ページの、今度は健康保険事業納付金が3,800万ぐらいの減額なんですけど、これも実績でこうなのかなと。そすと、全体的には納付金は当初の予定でこれだけということで、県から来るだろうということで納付金を予想して、国保で言えば、算出するわけですよ。ずっと、納付金が減額なったけん、その分は、国保で言えば、うんと集めたかなというふうに考えても別におかしくなかわけですよ。集め過ぎたかなと。

その点じゃあ、結果的には繰越金が次年度に入っとるけん、全体の財政にそれが反映されるけん、結果的には、税金ばうんと集め過ぎとったばってん、次の年にそれが入るけん、同じかなと、上げんでよかったですね。そういうことになるかなと思うとですけど。

そこら辺は、保険給付等交付金とか国民健康保険事業納付金というのは、やっぱこうやって、大幅に変動するものですかね。実績だけん、そうだって言われると、そうかって思うけど。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

まず、納付金の5億7,300万ですかね。この分の補正につきましては、これは12月だった

か3月だったかですね、ちょっとそこは記憶定かじゃありませんけども、たしか西川委員のほうから質問があったですかね。そんなときは、ですから歳出で当然お金が動いた以上、歳入でも同額を動かさないかんわけですね。

当然、高額、億単位の補正額ということで、そのときは、見た目ですね、保険給付費等交付金が減ったような形になっているんですけども、実際はそうではないと。実際の話はですね。ただ一時的にちょっと、財源として調整するような形、歳入歳出同額にするというものですからですね。

○委員（前田正治君） 前田です。

ちょっとようと理解できんとですけど、もうちょっと詳しく説明お願いします。

○保険年金課長（松下 匡君） ちょっとこれ説明がですね、なかなか難しいんですけど。

○保険年金課長補佐（納富龍之介君） 保険年金課の納富と申します。

前田委員が御質問された5億7,300万の歳入は、3月議会での補正予算かと思います。このとき、5億7,300万マイナス補正をしているんですが、同時にですね、歳入で繰越金の6億ぐらいをプラスで補正予算を組んでいます。

当初予算は、課長が申したとおり、歳入と歳出の調整をするために、財源をですね、どう言ったらいいんでしょう、取りあえずはその普通調整交付金に多く歳入を見積もって、繰越金の金額は、ここでいくと、令和4年度の繰越をするとすると、6億ぐらいの繰越金が今発生しているかというふうに捉えていただけるといいと思います。

多分5年度の当初予算を見られると分かるんですが、前年度の繰越金が当初予算でいくとそのまま6億ぐらいの繰越金を上程しているかというところではなくて、約1,000万ぐらいの繰越金を上げております。

ここで歳入のバランスをとったところで、3月決算等のおおむね見込みができた段階で、この普通調整交付金、保険給付費等交付金については、

おおむね決算額に合わせたところでマイナス補正をするという形を今、玉名市の国保特別会計は組んでいるということで御理解いただければと思いますが、よろしかったですか。

○委員（前田正治君） 前田です。

要は、国から、県からもらうお金が減ったと。減ったけど、玉名市が給付として出す分も減ったけん、国、県からくっとも減っとる。しかし、最終的には、次年度にきちんと決算が出た時点ですすね、次年度にその余った分というか、残った分は反映するということですかね。分かりました。

積立金も、今のところゼロだけん、それはずっと順繰り順繰りきよっとかなと思ったんですけど。分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

これより討論に入ります。

議第71号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 討論なしと認めます。これより採決に入ります。

議第71号令和4年度玉名市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算については、全員一致をもって認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 御異議なしと認め、採用決定いたしました。

令和4年度玉名市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算を議題といたします。

執行部から10分以内での説明を求めます。

○会計管理者（土村正成君） 会計管理者の土村です。

歳入歳出決算書の391ページを御覧ください。

議第72号令和4年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算書です。

歳入から説明してまいりますので、392ページを御覧ください。

一番下の段、歳入合計を御覧ください。

左から、予算現額10億8,437万7,000円、調定額10億7,372万4,586円、収入済額10億7,031万786円、不納欠損額104万300円、収入未済額237万3,500円。一番右は、予算現額と収入済額との比較になっています。

1款後期高齢者医療保険料から5款諸収入までの各款項ごとの決算額は、歳入合計の上段にそれぞれ記載のとおりです。

なお、不納欠損額と収入未済額については、1款後期高齢者医療保険料での額となっており、2款から5款までの各款においては、不納欠損額、収入未済額はありません。

また、歳入の目や節ごとの決算額の詳細は事項別明細書に記載していますので、別途御参照ください。対象のページは398ページから403ページです。

引き続き、歳出を説明いたします。

394ページを御覧ください。

1款総務費から4款諸支出金までの款項ごとの決算額を記載しています。

各款項ごとの読み上げは省略させていただきますので、一番下の歳出合計を御覧ください。

左から、予算現額10億8,437万7,000円、支出済額10億6,974万2,786円、翌年度繰越額ははありません。不用額1,463万4,214円、一番右は予算現額と支出済額との比較になっています。

歳出の目や節ごとの決算額の詳細は事項別明細書に記載しておりますので、別途御参照ください。対象のページは404ページから409ページです。

次に、実質収支を説明いたします。

410ページを御覧ください。

実質収支に関する調書は、1,000円単位で

の記載となります。上から、歳入総額10億7,031万1,000円、歳出総額10億6,974万3,000円、歳入歳出差引額56万8,000円、翌年度へ繰り越すべき財源はありません。実質収支額56万8,000円となっています。

次に、保険年金課長から主要な施策について説明をいたします。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

後期高齢者医療特別会計から3つの事業について御説明します。

主要な施策の成果に関する説明書、73ページをお願いいたします。決算書は406ページから407ページです。

予算科目は3款1項1目健康診査費、決算額は2,901万725円でございます。

まず、医科健診と歯科口腔検診でございます。

事業の成果でございますが、令和4年度の医科検診及び歯科口腔検診につきましては、検診期間を玉名郡市医師会や玉名郡市歯科医師会と協議し、8月から1月末までの期間で実施しました。

まず、医科検診につきましては、対象者1万1,199人に対し受診者1,662人で受診率は14.8%という結果でございました。次に、歯科検診につきましては、対象者同じく1万1,199人に対しまして受診者が127人で受診率が1.1%でございました。

次に、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業でございます。

事業の成果でございますが、対象地域につきまして、高齢化率が高い生活圏域の玉陵、玉南地区、それから有明、天水地区の2地区を対象といたしました。対象者を医科検診受診者の中から選定し、個別支援につきましては、検診結果からBMI18.5未満の痩せ気味で、高血圧・高血糖を併せ持つ人などにですね、重症化予防対象者につきまして健康指導等を行なっております。

糖尿病性腎症重症化予防で118人の支援、そ

の他の生活習慣病等重症化予防で48人の支援などを実施をいたしました。

また、玉陵、玉南、有明、天水地区の通いの場53か所へ出向き、参加者に健康教育、健康相談などですね、保健師さんあたりが当たっておられます。

以上で、後期高齢者医療特別会計の説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明を終わりました。

これより、質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（大野豊重君） すいません、大野です。

まず、この後期高齢者の状況についてなんですけれども、対象は何人で何世帯ぐらいか。これはもう令和4年度で構いませんけれども。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

令和4年度はですね、年度末で1万2,146人でございます。世帯は、ちょっとこれは、基本、後期高齢者個人なので、世帯はちょっと分からないです。

○委員（大野豊重君） 続けて、大野ですけども。

それ何で聞いたのかっていうのが、昨年10月から後期高齢者医療、この制度が変わりましたよね。いわゆるその2割負担の分が出てきたかと思うんですが、そこで単身だったら200万、夫婦だったら320万以上だったら2割負担というふうになったので、ちょっとそれで、じゃあ、この玉名市で、その対象となっているのが何人何世帯いるのかなと思ってですね。

じゃあ、何人で構いませんので。その2割負担ですね。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

今現在の数字、本当は直近の数字ではないんですけど、少し前の数字になるんですけども、大体2割負担の方がおよそ1,500人ほどいらっ

しゃいます。1割負担の方が1万300人ぐらいいらっしゃる。3割負担は440人ほどいらっしゃいます。

以上です。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

大体全国平均が、2割ぐらいがその2割負担というふうに聞いているんですけど。すごいですね、3割負担が440人いらっしゃる。

再質問になるんですけど、そのときに、いわゆる配慮措置が、令和4年10月から令和7年9月まで配慮措置がありますよね。いわゆる負担増額の3,000円を超えた分を月額で、国補助で払い戻すという。これはいわゆる、説明書、国からの、厚生労働省のを見ると、郵送で対応するというふうになっているんですが、いわゆるその払戻しの口座を登録しないといけないということなんですが、これ100%登録できていますでしょうか。その対象の1,500人の方は。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

この辺りはですね、例えば加入されるときに、年齢到達のときに、例えば高額医療費の登録とかですね、そういったことで口座等は登録をほぼ全員の方にいただいている状況です。

ですので、この部分に関しましても、全然問題ないかなというふうに考えています。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

であれば大丈夫だと思うんですが。ただここで、多分去年も警察とかからも案内があったと思うんですけど、高額医療費の還付詐欺というのが、やっぱちょこちょこ出てきたかと思うんですね。玉名市では何かその辺、何かそういうのが、引かかったとか、そういう情報が上がったようなものはありましたか。これもう任意で構わないんですけど。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

その辺はですね、広域連合を通じて、よく文章

は回ってまいりますけれども、玉名市で、例えば後期高齢者の被保険者が被害に遭ったというのは、ちょっと、私の把握している範囲ではないかなと。ないというところです。

○委員（大野豊重君） 情報が入ってきてないということであれば、もう、そうだと思うんですね。

あと、この一般会計の繰入金なんですけれども、これも先ほどの国保のと似たようなもんなんですけど、結局その後期高齢になってくる方が増えてきて、その分それをどんどん対応していかなくちゃいけないですよ。いわゆる職員。職員の数というのは、今、充足しているのかどうか。今後増やさなくちゃいけないのか、増やすときにはどういう対応されるのか、その辺りをちょっとお聞かせいただければ。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

今現在、後期高齢者医療係は、正職員が4人、それから会計年度任用職員が1人ということで5人体制ということになっています。今のところ、増やすとか、そういったことは考えておりません。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。まだまだ大丈夫ということなんですね。

これについてちょっと最後の質問になるんですけども、資料の73ページの、決算書でいくと407ページになるんですが、健康保持増進事業費というのがありますよね。これ、内訳を見ると、不用額が毎年20%から25%出てるんですけども、いわゆる健康診査費の不用費ですね、委託料のところ。これ、どんな要因か。先ほどの、国保のときに説明があったような、似たようなものなんですかね。受診率が。ここより全然高いと思うんですけど。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

先ほど大野委員もちらっと言われましたけども、医科健診と、及び歯科口腔健診、この辺の受診率

が、歯科口腔検診につきましてはもともと低いんですけども、3年度と4年度は同じような数字1.1%、医科健診がちょっと減少傾向になっております。

ですので、そちらのほうの、要するに委託費で、一旦広域連合から市に歳入として受けて、余った分はまたという形になりますので、残っている分は、その受診率ですね、その辺にちょっと結びつかなかったというのは一つの原因かなと思います。

○委員（大野豊重君） 大野です。

その辺りを対応するために、先ほども前田委員のほうから聞かれた、そのときの答弁があったんですけど、それと同じように、簡素化じゃないけど、簡略化というか、申込みのときの簡略化をしていくとか、それと同じような方針で考えられているということによろしいですか。それとも何か、もうここはまた別の考えでやられるのか。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

国保のほうとそうそう変わらないと思いますが、後期高齢のほうの医科検診につきましてはですね、例えば保険証とか、その辺を発送する時期に、年度更新のときですね、7月中の初旬に、同じような形で受診券をですね、全員の方に送付しているところです。

その受診券の中にいろいろこう、アンケート内容といいますかね、そういったものも入っているんですけど。それもありますし、あと、なかなか後期高齢者の場合は、御高齢でやっぱりいらっしゃるの、9割以上の方が何らかの疾患で病院を受診されているといった状況でですね、なかなか受診率の向上にも苦慮しているといったところでございます。

以上です。

○委員（大野豊重君） 今、最後の答弁で、90%以上の方がその他医療機関にかかっているから、それで代替ができているだろうということであれば、そもそもこのところを見直しをもう少

し、何か対策をですね、そもそもこれが必要なのかとか、必要な人に届けるためにはとか、そういったところの観点で今後検討されていってはいかがかなとは思いますが。

私から以上です。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

決算書の399ページをお願いします。

保険料の不納欠損が104万300円か、上がっていますが、この主な理由というか、この欠損のですね、ちょっと教えてください。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

今回104万ほど不納欠損しておりますけれども、人数でいきますとまず5人の方、原因としては死亡によってですね、時効を迎えたということですね。ただし、今回1人の方が高額滞納の方がいらっしゃいましたけれども、その方が亡くなられてですね、配偶者の方も相続放棄あたりをされていますので、執行停止処分に至ったということですので、今回、時効を迎えた分につきまして、不納欠損を行なったということで、高額滞納の方が1人いらっしゃいましたので、今回は、金額が特に大きかったということでございます。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

保険料を滞納されている人は、この不納欠損のそれも普通徴収の方なんですけど、滞納していると、高齢者も資格証ですかね。あ、そうか、資格証がなかったばってん、滞納していると、やっぱりなかなか病院にも行こうと思っても、本人さん、やっぱり行きらんですかね、病院に行くと。ちょっと障害になるんじゃないかなという気もずっとですけど、そこら辺は滞納者の人に接する際に、丁寧な説明というか、きちんとやっぱり行なってもらえるようなそういう働きかけというのはしよらんですかね。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

今、前田委員もおっしゃったようにですね、当然そういった、来られたときにですね、相談とかそういったのも当然受けますので、こちらとしても丁寧に対応するというふうな形ですね。病院に行ってもらわんといかんけんですね。

ですから、後期高齢の場合ですと、わりかし皆さん分納という形ですね、定期的においではなられています。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

大体、保険料は年金から天引きされるですね。ずっと普通徴収の人は年金もらえよらんか、あるいはもうえらい財産があって、自分が保険にかからんでよかというような、そういう個人的な思いで、もう保険料も払わんとか何とかいうような人も中にはおんなごたっですけど、ほとんどがやっぱ無年金者の人だと思うとですね。

ですから、そういった対応というのも、丁寧な対応をひとつお願いします。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議。

○委員（近松恵美子さん） 近松です。

後期高齢の受診率の件なんですけども、課長が言われたようにですね、90%受診しているとか95%受診しているという中で、これは熊本県が後期高齢者医療をしていますので、そのこの議会のほうで私もですね、もう95%も受診しているのに受診率上げろみたいなことを市町村にあんまり言うなということを、再三議会で言っているところなんです。だから95%受診している中で受診率が14.8なら立派なもんだと思うんですよ。

それよりも生きがい対策をしてくれというふうに、県のほうには再三言っているので、皆さんもお忙しい中、この数字で、あんまり県からちょっと言われても、びくともしないでやってください。

以上です。

○委員（前田正治君） 私もそぎゃん思います。

それですね、検診の自己負担というか、こぎゃんたもう県が全部みれて、市町村に押し付くんになって、やっぱ言うべきだと思ったんです。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

これより討論に入ります。

議第72号について討論はありませんか。

○委員（前田正治君） 前田です。

私は、歳入における保険料の上げがちょうど令和4年の当初でされていますので、その点ちょっと異議がありますので、決算認定には反対をいたします。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて討論を終結いたします。

これより採決に入ります。

議第72号令和4年度玉名市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算については、異議がありますので、挙手により採決いたします。

議第72号について、認定することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（多田隈啓二君） 賛成多数であります。よって、議第72号については、認定することに決定いたしました。

令和4年度玉名市介護保険事業特別会計歳入歳出決算を議題といたします。

執行部から10分以内の説明を求めます。

○会計管理者（土村正成君） 会計管理者の土村です。

歳入歳出決算書の412ページを御覧ください。

議第73号令和4年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算書です。

歳入から説明しますので、次の413ページを御覧ください。

1款保険料から10款諸収入までの款項ごとの決算額を記載しています。

款項ごとの決算額の読み上げは省略させていただきますので、次の415ページを御覧ください。

歳入合計です。左から、予算現額80億1,845万4,000円、調定額80億5,869万3,545円、収入済額80億3,704万5,730円、不納欠損額379万3,482円、収入未済額1,785万4,333円。一番右は、予算現額と収入済額との比較になっています。

なお、不納欠損額と収入未済額については、1款保険料での額となっており、2款から10款までの各款においては、不納欠損額、収入未済額はありません。

また、歳入の目や節ごとの決算額の詳細は事項別明細書に記載しておりますので、別途御参照ください。対象のページは423ページから434ページです。

引き続き、歳出を説明いたします。

417ページを御覧ください。

417ページと418ページには、1款総務費から7款諸支出金までの款項ごとの決算額を記載しております。

次の419ページと420ページを御覧ください。

7款諸支出金の続きと8款予備費、最後に歳出合計を記載しています。

一番下の歳出合計を御覧ください。

左から、予算現額80億1,845万4,000円、支出済額77億8,722万2,398円、翌年度繰越額はあります。不用額2億3,123万1,602円。一番右は、予算現額と支出済額との比較になっています。

歳出の目や節ごとの決算額の詳細は事項別明細

書に記載しております。別途御参照ください。対象のページは435ページから460ページです。

次に、実質収支を説明いたします。

461ページを御覧ください。

実質収支に関する調書は、1,000円単位の記載となります。

上から、歳入総額80億3,704万6,000円、歳出総額77億8,722万3,000円、歳入歳出差引額2億4,982万3,000円。翌年度へ繰り越すべき財源はありません。実質収支額2億4,982万3,000円となっています。

次に、高齢介護課長から主要な施策について説明をいたします。

○高齢介護課長（中川由美さん） 高齢介護課長の中川です。

高齢介護課から、介護保険事業特別会計について説明いたします。

説明書の74ページをお願いいたします。

決算書の詳細は435ページからでございます。

事業名、介護保険事業、決算額は77億8,722万2,398円でございます。

初めに事業の概要ですが、介護保険制度にのっとり、適正な介護サービスの提供と運営を行なうものです。また、高齢者の健康づくり、認知症予防などのため、住民主体による介護予防事業の実施、要介護状態になる前の方を対象とした自立支援目的のサービスを提供しております。

事業の成果としましては、まず、1番介護保険事業といたしまして、第8期玉名市高齢者福祉及び介護保険事業計画に基づき、対象者に合った介護給付を行ない、その費用は自己負担分を除き、70億8,398万7,859円でした。

また、認定審査業務に関しては、2市4町で有明広域行政事務組合に認定審査会を設置しており、その負担金は2,069万8,000円でした。

次に、介護予防事業の成果といたしまして、いきいきふれあい活動は103か所で参加延べ人数9,873人、ゆた〜っと元気体操は45か所で

参加延べ人数5,693人、通いの場合は29か所で参加延べ人数9,490人でございます。特に、通いの場につきましては、週1回、有償ボランティアの地域サポーターを中心に、体操やレクリエーション、健康チェックなどを行なっております。地域住民が主体となり介護予防に取り組む体制を整備し、支援を行なっております。

次に、介護予防・日常生活支援総合事業の成果ですけれども、要介護状態になる前の方を対象としたこの事業の成果といたしまして、対象者に合った介護予防生活支援サービス事業を適正に行ないました。

利用者の自己負担分を除いた介護予防生活支援サービス負担金は1億4,356万9,055円で、その利用内訳ですが、訪問型サービスの延べ利用者は、従前相当が1,218人、緩和型が2,192人、シルバー人材センター会員によるふれあい家事支援が758人、合計の4,168人の利用がありました。

また、通所型サービスの延べ利用者は、従前相当が742人、緩和型が2,612人、短期集中の6か月間で運動機能の向上を目指す自立支援型の元気あっぷ教室が1,095人で、合計の4,449人の利用がありました。

以上で、介護保険特別会計の説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明を終わりました。

これより、質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（大野豊重君） 大野です。

2点だけ。

意見書の38ページなんですけれども、介護認定審査について、令和4年度は、取消もしくは却下が171件とちょっと増加しておるんですけども、この主な理由をちょっと教えていただければ。

○高齢介護課長（中川由美さん） 高齢介護課長の中川です。

審査結果の状況の中の出下げですかね。

○委員（大野豊重君） 取下げ。171件の内訳。

○高齢介護課長（中川由美さん） 取下げが115件、却下が56件になります。

○委員（大野豊重君） 却下の、どちらかな、取下げの115件というのは、本人さんが納得されて取り下げられたっていうことだと思うんですが、ほかの却下のところの56件で、納得されていますか。

○高齢介護課長（中川由美さん） 高齢介護課長の中川です。

要介護の状態が上がる方と、逆に下がる方もいらっしゃると思いますので、その状況に応じて、御本人さんには納得していただいております。

○委員（大野豊重君） 大野です。

納得しているのであればよろしいかと思うんですが。ただちょっとここが、例年から比べるとちょっとぼんと一つ上がったような数字だったんで、気になったとこでした。

もう1点です。

これも完全に私の知識不足かもだと思うんですが、基金のところで、決算書の455ページのところで、基金積立金がこれ、毎年補正で計上されていると思うんですね。多分これ補正の際に説明を受けていると思うんですが、ちょっと、全然私頭入ってなくて。ただ、それを見ると、前年度より約1億アップして、今年の基金の全部の積立が5億7,000万円ぐらいなっているんですが、令和4年度に1億ぼんと上がった理由というのはをちょっと教えていただければと思います。

○高齢介護課長（中川由美さん） 高齢介護課長の中川です。

今回ですね、かなり上がっているように思われますけれども、多分委員が一般質問された際にも少しお話はしておりますけれども、介護予防サービスの利用形態が変わりまして、施設型から訪問型のほうの利用が多くなったということで、単価のほう下がりますので、その分が、大きく言えばコロナの影響で、そういうふうにする人が減っ

たと。

ただし、65歳以上の介護保険の1号被保険者と75歳以上ですね、高齢化率とかによって、調整交付金の率が、通常5%なんですけれども、玉名市においてはですね、7.26だったですかね、少し高い金額をいただいております。その分です、今回、基金に積み立てる額が増えているということです。

○委員（大野豊重君） 分かりました。ありがとうございます。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（前田正治君） 前田です。

今の基金の問題なんですけど、令和4年度末で5億7,700万円程度の基金残高がなってますけど、第9期の計画が来年度からスタートしますけど、第9期の計画を立てるに当たって、基金の使途っていいですか、使い道についてどういった考え方を持っておられるのか。

○高齢介護課長（中川由美さん） 高齢介護課長の中川です。

今まさに、第9期計画の試算を行なっている最中なんですけれども、今の時点ではですね、通常6,000円の平均標準の介護保険料なんですけれども、それでは足りないような状況になっております。

このまま、そのままの金額をできればですね、維持したいというふうに思っておりますけれども、まだこれから試算をしてみないと、基金を取り崩すのかどうかというのははっきり申し上げられないところでございます。

○委員（前田正治君） 前田です。

私はこの基金の使い道っていうのは、やっぱり保険料が高騰することを抑えるために基金を使うべきだと。第一番にですね。その基金を全額使うか半分使うか。それは第9期を計画するに当たっての給付がどしこなるかということで、おのずと出てくるかもしれない。基金ば全部取り崩しても保険料を上げんといかんかもしれん。分からんで

すけど。

基金の使い道はそういった使い道をしてもらいたいということと、もう一つ、保険料の料金区分ですけど、玉名市の場合、今9段階でしょう。これはもっと広げるというような考え方はなかったすかね。第9期を計画するに当たって。

○高齢介護課長（中川由美さん） 高齢介護課長の中川です。

委員おっしゃるとおりですね、国の指針のほうでもですね、高いほうの階層の区分を広げるというふうになっておりますので、そちらのほうをですね、同じような考えで算定をしていければと思っています。

ですから、9段階を12段階とかですね、そういうふうに区分を広げるようなところで、試算も今しております。

○委員（前田正治君） 分かりました。

前田ですけど。

介護保険料は、保険に加入している、例えば65歳以上の人はみんな年金から引かれるでしょう。ところが、保険料ば算定するに当たっては、その世帯で決めるもんです。世帯に収入の多い人が一緒に住んでおけば、その人の年金から高い保険料が引かれるちゅうかな。年金が少なかけん、ほんなら一緒の人が、んならよか、俺が払ってやるばい。ちゅうことは、ほとんどはなかつかな。みんなやっぱ年金から天引きされるっていう。だけん、そういう点じゃ、ぜひ、料金区分の改定も含めてですね、基金の使い道も含めて、保険料が上がるっていうことについては、やっぱ、取組ば真剣にお願いします。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

これより討論に入ります。

議第73号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 討論なしと認めます。
これより採決に入ります。

議第73号令和4年度玉名市介護保険事業特別会計歳入歳出決算については、全員一致をもって認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 御異議なしと認め、採用決定いたしました。

ここで、執行部の入替えのため暫時休憩いたします。

-----○-----

午後 2時02分 休憩

午後 2時10分 開議

-----○-----

○委員長（多田隈啓二君） それでは、休憩前に引き続き委員会を開きます。

次に、議第74号令和4年度玉名市浄化槽整備事業特別会計歳入歳出決算を議題といたします。

執行部から10分以内の説明を求めます。

○会計管理者（土村正成君） 会計管理者の土村です。

歳入歳出決算書の463ページを御覧ください。

議第74号令和4年度浄化槽整備事業特別会計歳入歳出決算書です。

歳入から説明しますので、次の464ページを御覧ください。

1款分担金及び負担金から9款市債までの款項ごとの決算額を記載しています。

一番下の段、歳入合計を御覧ください。

左から、予算現額4,196万7,000円、調定額4,273万816円、収入済額4,271万4,739円、不納欠損額はありません。収入未済額1万6,077円。一番右は、予算現額と収入済額との比較になっています。

なお、収入未済額については、2款使用料及び手数料での額となっており、その他の款において

は不納欠損額及び収入未済額はありません。

また、歳入の目や節ごとの決算額の詳細は事項別明細書に記載しておりますので、別途御参照ください。対象のページは470ページから475ページです。

引き続き、歳出を説明いたします。

466ページを御覧ください。

1款総務費から4款予備費までの款項ごとの決算額を記載しています。

一番下の段、歳出合計を御覧ください。

左から、予算現額4,196万7,000円、支出済額3,950万8,324円、翌年度繰越額はありません。不用額245万8,676円。一番右は、予算現額と支出済額との比較になっています。

歳出の目や節ごとの決算額の詳細は事項別明細書に記載しておりますので、別途御参照ください。対象のページは476ページから479ページです。

次に、実質収支を説明いたします。

480ページを御覧ください。

実質収支に関する調書は、1,000円単位の記載となります。

上から、歳入総額4,271万5,000円、歳出総額3,950万9,000円、歳入歳出差引額320万6,000円、翌年度へ繰り越すべき財源はありません。実質収支額320万6,000円となっています。

次に、上下水道総務課長が主要な施策について説明をいたします。

○上下水道総務課長（津川隆一君） 上下水道総務課長の津川でございます。

説明書の75ページをお願いいたします。

2款1項1目浄化槽整備事業決算額は1,588万4,414円でございます。

事業の成果でございますけども、下段になります。

浄化槽市町村整備推進事業、市町村設置型の浄

化槽を整備したことにより、し尿及び家庭排水を併せて処理するため、良好な排水状態を保ち、水路及び河川の水質汚濁防止を図ることができたところでございます。

成果としましては、16基、合計して16基でございます。5人槽が10基、7人槽が6基でございます。10人槽はありませんでした。

以上、議第74号令和4年度浄化槽整備事業特別会計の御説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明は終わりました。

これより質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

これより討論に入ります。

議第74号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 討論なしと認めます。

これより採決に入ります。

議第74号令和4年度玉名市浄化槽整備事業特別会計歳入歳出決算については、全員一致をもって認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

次に、議第75号令和4年度玉名市水道事業会計決算を議題といたします。

執行部から10分以内での説明を求めます。

○上下水道総務課長（津川隆一君） 上下水道総務課長の津川でございます。

議第75号令和4年度玉名市水道事業会計決算書。1ページ表紙をめくっていただきまして、地方公営企業法第30条第4項の規定により議会の認定に付します。

決算書の1ページ、2ページをお願いいたします。

1、令和4年度玉名市水道事業決算報告書。こちらは主要な部分の決算のみ申し上げます。

1ページ上段になります。

収益的収入及び支出、収入、決算額は2ページの上段になります。

1ページ戻りまして、第1款水道事業収益の決算額は8億3,343万9,334円。

次に、第1項営業収益、決算額は6億8,824万1,347円。主なものを申しますと、水道料金収入の収入になります。

次に、第2項営業外収益の決算額は1億4,519万7,987円。主なものは一般会計補助金並びに長期前受金戻入でございます。

内訳を申しますと、まず、一般会計の補助金、こちらは物価高騰の影響を受けている世帯の生活支援のため、利用料金の基本料金の減免分の補填でございます。こちらは令和5年の1月と2月に実施いたしました。決算額は4,263万9,209円でございます。

次に、長期前受金戻入でございますけれども、こちらは水道施設や設備などの資産を取得する際に、国や他会計等の補助金をこちら会計上収益化したものでございます。決算額は8,087万8,958円でございます。

次に、下段、支出。

決算額は同じく2ページの中段になります。

第1款水道事業費用の決算額は8億934万7,032円、第1項営業費用、決算額は7億5,770万5,046円でございます。

こちらは、県水の取水井戸や浄水場などの維持管理に要する費用並びに減価償却費などでございます。収入総計8億3,343万9,334円、支出総額8億934万7,032円、収支差引は2,409万2,302円の損失でございます。

続きまして、決算書の3ページ、4ページをお願いいたします。

（2）資本的収入及び支出。収入、決算額は4ページ上段になります。

第1款資本的収入の決算額は4億1,168万円、第1項企業債で決算額は4億960万円。こちらは施設の建設改良等に要する資金に充てるための、国などからの借り入れた資金でございます。

次に、下段の支出でございます。

決算額は同じく4ページの中段になります。

第1款資本的支出の決算額8億4,021万9,296円。第1項建設改良費、決算額は6億1,334万3,762円。主なものにつきましては、東部地区配水管布設工事と工事請負費でございます。

次に、第2項の企業債償還金2億2,687万5,534円。こちらは建設改良企業債の償還金、いわゆる元金でございます。

収入総額4億1,168万円、支出総額8億4,021万9,296円、収支差引きは4億2,853万9,296円の不足でございます。

なお、この不足に対しましては、資本的収入額が資本的支出額に対し不足するもので、当年度分消費税及び地方消費税、資本的支出調整額、当年度分損益勘定利用資金及び建設改良積立金で補填したところでございます。

続きまして、決算書の5ページ、6ページをお願いいたします。

令和4年度玉名市水道事業損益計算書。こちらは決算状況を基に収益から費用を差し引いた経営状況を示したものでございます。

令和4年度の経営状況につきましては、6ページの末尾を御覧ください。

本年度の経営状況は当年度純損失3,092万298円でございます。

こちらの損失の主な要因としましては、水道管の布設工事等に伴う減価償却費の増加、併せまして物価高騰に伴う電気料金などの光熱費の高騰に理由などが主な要因でございます。

続きまして、12ページをお願いいたします。

令和4年度玉名市水道事業報告書でございます。

1、概要。総括事項。本年度の水道事業は、伊

倉地区などの老朽管布設工事及び昨年度に引き続き東部地区改築更新事業として、田崎第1水源天井戸改修工事、同電気設備工事等を実施し、水道水の安定供給の向上を図りました。

業務状況につきましては、本年度の給水戸数は2万1,858戸で、例年度に比べ417戸、1.94%の増加、総配水量は608万1,463立方メートルで、前年度に比べ10万8,803立方メートル、1.82%の増加となっております。

総有収水量は470万5,787立方メートルで、前年度に比べ4万5,671立方メートル、0.96%の減少、有収率は77.38%でありました。

以上、議第75号令和4年度玉名市水道事業会計決算書の説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明を終わりました。

これより質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（中尾嘉男君） 中尾ですけれども。

まず3ページのですね、建設改良費で、令和4年度は6億からの事業費が組まれてあります。この令和4年度の未整備地区をちょっと教えてもらえんかな。

○上下水道工務課長（田上武靖君） 未整備地区で、工事した区域でいいですか。

○委員（中尾嘉男君） いやいや、まだ、全然していないとこ。

○上下水道工務課長（田上武靖君） まだ残っているということですか。

今の段階で本市で未整備地区といいますと、横島町の昭栄地区を除く部分ですね。あと旧天水町の中の東地区、北横内地区、玉水辺りを除いた支所周りとかですね、野部田とか尾田とかの辺りが未整備地区となります。

旧玉名市におきましては、奥野、川床辺りが未整備地区です。

旧岱明につきましては、ほとんどが整備地区と

考えていいと思います。

以上です。

○委員（中尾嘉男君） 中尾ですけども。

令和4年度はその未整備地区に関しては工事は全然しとらんとでしょ。

○上下水道工務課長（田上武靖君） 上下水道工務課、田上です。

今現在が、委員御存じのように、東部地区のほうにお金をかけておりますので、まだその未整備地区のほうへ工事を発注する余力、金銭的な余裕もございません。

○委員（中尾嘉男君） 中尾ですけども。

私はね、合併してから玉名市になってからずっと水道事業の未整備地区を言い続けてきとるわけよ。まだ今現在も、これだけ玉名市に未整備地区があるが、する気があるのかないのか。

私としては、もうこんだけの月日をたってね、やってきとる。以前の説明では、それを一般質問あたりでやると、水源地の確保、東部地区の水源地の確保ということを、しきりにおっしゃったわけよね、今までが。令和4年度に東部地区が完了して、水量もかなりのアップがされたというふうに思うとたいね。ただ単に、これ整備するに当たっての段取り、水源ができたけがすぐ引っ張りますよって言うこっじゃないと思うとたいね。工事に着手するまでは。

そういういろんな事務作業なんかもやっていけよんのか。まずその辺をね、ちょっと聞きたいけどもね。まずはその未整備地区を開発するのか、整備をするのか。するのであるならば、そういった段取りもろもろ、今現在どこまでやとるのか、ちょっとお尋ねしてみたいと思います。

○上下水道工務課長（田上武靖君） 上下水道工務課、田上です。

その未整備地区に対しましては、今年度、早ければですね、今年度もしくは来年度にアンケート調査を行なう計画でおります。そのアンケート調査を踏まえた上で、今後、整備していくのか。ど

うしても水道ですので、任意加入ということでございますので、水道が必要というような地区がありましたら、そこに向けて整備計画を立てていくと。

今、東部で整備しております中で、横島天水辺りを賄えるだけの井戸の水量確保は既に完了しております。

ですから、アンケート次第で、この先どうなっていくかというのは、計画性が変わってくる可能性はございます。

以上です。

○委員（中尾嘉男君） ちょっと企業局長にお尋ねしますけれども、そういうことで、水道を未整備地区に関しては必要とするから、水源の確保もせないかんという考えで、おたくたちは東部地区の水量アップを図られてきたと思うとたいね。

今の説明では、来年度ぐらいからアンケートというような話よね。私は当然そういう手順を踏まんちゅうのは分かっ上でね、いつ頃には完成しますよと、新たなボーリングを掘って水の確保をしますよと。それに合わせてソフト面ちゅうか、そういった段取りが私はなされるものと思つとるわけよね。

来年からアンケートをとってよ。じゃあ、なら1回ね、合併してから18年頃ね、これアンケートをとったたい。なかなか地元の人たちの同意も、そのアンケートの協力もあんまりなかった。その当時はね。

ほんで、それからいろいろ熊本地震とかいろんなことが起きてね、またその当時と今の利用の水道の地下水のね、自分とこの地下水の変動はあつとるかなと私は思うとたいね。だけん、18年ぐらいのアンケートから見ると、加入者あたりも大分アップされとるというふうに私は思うとたい。

ほんで、そういうやる気があつとならね、やっぱりもうずーっと私はもうとにかく水源を確保してから段取りになるけん、市としてもその、未整備地区のところは見捨てとらんから、でくれば、

でくっただけんというふうにずっと今まで言い続けてきとったわけね。

もうしょっちゅう言わるとよ、地元としてはね。横島も千五、六百軒あるけども、中にはいい水が出よところもあるよ。どっちかちゅうならば、よか水の出よところが多かかなというふうに私は思うとたいね。

でも、やっぱりいろんな異物が入ってねえ。やはりポンプの運転に対して支障がおきて、故障なんかもしょっちゅうする。私はもうポンプの手前にドレンばつけて、それを最低1週間に1回は掃除せんと水が出ない。でもその水を検査場に持っていけば、これ、飲料水として合格なんですよというようなことを言わすわけよ。真っ黒か水は飲まれんとだけん。沈殿させてろ過させて、今は洗いもんだけたいね。飲み水あたりは一切そのいがわの水は飲まんし。私も2本ほどボーリングばし直したけども、やっぱ水量がよなかつね。

そういうことで、これはとにかくね、やっぱ水道を引っ張ろでちゃ、実際工事に着手するには時間がかかっつたい。来年から始めるなら遅くとも早うしてもあと5年はかかっどね。その間ずーっと東部の工事ばすつとにも、やっぱり3年ぐらいかかっつでしょう。足かけ3年ぐらいね。その間でもいろいろそういうされるべき仕事ちゅうのを何でせんとかなくて。

いつもね、局長の顔を見つと、言おごしてたまらんとたい。何しよるや、お前はって。

私は1回は、私の家にね、私が掃除するとき見に来てもらおごた。そりや、たまがるよ。ぎゃんとば飲みよつとですかって。ぎゃん水ば使いよつとですかって言うごたっつと思うよ。でもなかけん、しょんなかったん。いでの水よりはそっちのほうがましなもんだけんね。非常に困つとるわけよ。

そういうことでやはり、水道あたりを、そういう未整備の地区のね、まだ今聞いても、天水もある、旧玉名市にもある、行政は見捨つとかなくて。考えはどがんあつとかなくて。非常に、んなこても

う、ときたま顔を見つとね、もうしょっちゅう言おごたつ。ちょっと止まれって。止まって水道はどがんあつとるとかって言うごたるけどもね、お互い立場があるけんね、そうそうは言えんけども。まだ、令和4年度の決算の中で、新しく未整備地区にはまだ入ってないということだったもんだけんね。

どうね、局長。そういうね、される仕事は、前もってするわけにいかんとね。どがんね、ちょっと。

○企業局長（荒木 勇君） 企業局長の荒木でございます。

中尾委員から、以前のこの議会の中で言われ続けてきましたけれども、昨年度までは、正直言いまして、ほとんど手つかずのところでおりましたけれども、今年度に入りまして、先ほど課長が申しましたように、今の状況、また今後の検討する中で、どういったほかに事業があるのかとか、そういったのを精査しながら、早い時期に、まずはアンケートというところで考えております。

アンケートをとる上では、横島地区のみならず、先ほどもありましたように天水、川床等もですね、含めたところで今検討しているところでございます。早ければ、来年度中には、アンケートを実施したいというところまでは考えております。

ですから、私一存でそれをしますということは言えませんが、そういった中で進めて、次の議会もしくは遅くとも3月の議会には、いついつしますよという返事ができるように今準備は進めるところでございます。

以上でございます。

○委員（中尾嘉男君） 中尾ですけど。

この生活していく中で、水ちゅうのは必ずいる品物であつてね、これがなければ生活でけんよ。この議会の中に横島出身3人おられるけども、私んところ辺りが一番悪かつね。役場付近になると、そうなよかつたい。一番よかつたい、水は。そういう計画にのつとって、一日もはようね、

平等に、この玉名市がなるように持って行ってください。よろしく願いしておきます。

以上です。

○委員（松本憲二君） すいません、松本です。

今の、中尾委員が、横島地区は、私が住んでいるところは引いてあるんですけども、整備がしてないと。

今、工務課長のほうからアンケート、局長のほうからもアンケートということだったんですけど、もしアンケートをとってですよ、何%の参加ならば工事に踏み切ろうかなという数字っていうのがあつとですか。

○上下水道工務課長（田上武靖君） 上下水道工務課、田上です。

国の基準だったり県の取決めとかで、明確に何%以上ちゅうのはございませんが、大体今まで事業してきた中で、本来ならば90%以上という、おおよその目安的な数字はあります。

○委員（松本憲二君） じゃあその90%もし参加が見込まれんならば、もう未整備地区はそのままっていうことで、結果捉えてよかわけですか。

私たちも、中尾委員がおっしゃるように、市民の方々からは、しょっちゅう聞かれるわけですよ。横島地区です。私が一番話ば聞いた中で、一番掘ってある人は、400メートルですよ。400メートル掘るということは、もう七、八百万ぐらいかかるわけですよ。そこまで掘らんとよか水が出らんだっていうことでそこまでかけた。多分その人たちは入られないと思うですよ。もう七、八百万もかけて、今ものすごい、よか水が出よるけんということで。上水道が通るけん、参加しなはっですかって。参加しませんってなったら、未整備って。結局、この市町村設置型の浄化槽と全く一緒に、ボーリングば掘る人に対して、その補助とかというば考えていただかんと。上水道というとはですよ、要するに命の源ですよ。それば公共が引かんっていうことは考えられんと思うですよ。

それだったら、ボーリングを掘られるのに対して、市町村型の浄化槽と一緒に、補助なり何なりを考えていただかんと。市民の方々は、いつ来つとだろか、いつ来つとだろかって。90%以上てばいたっていうときに、私は、その90%確保でくつとかなと、物すごい不安がありますし、多分中尾委員も森川委員も、多分今90%で聞かれて、多分、ぼやつと言いなはったばってん、そがんことはもう考えられんなってことを。90%じゃないとまず、多分採算ベースが合わんのかなというふうにも思いますし。それだったら、アンケートばとって、90%いかんだつたらば、ボーリングの費用を補助しますとかという対策ば、現段階から考えてアンケートにも踏み切っていただきたいというのが正直なところだと思うですよ。

そうじゃなかと、結局中尾委員も、前のボーリング使われんけん、自分でも2本掘ったばってん、当然2本でも分からんて。何メートル掘ってよかかっていうともなかなか分からん。今の技術は、若干こう上がってくるけんがですね、二重管掘りなどもあるもんだけんが、そこの一番下の掘りゆつとこの水が上がってくる。それを水質検査にでもすぐ持っていかれるけんがですね、ある程度200メートル掘ってもまだ全然がた臭かって、物すごい鉄分が高かかって。というように地区地区で違ふとですよ、横島の場合は。

私たちのところでも、私がハウスで使いよるとても、200メートル、230メートル、240メートル掘つととです。やっぱそれだけいかんと、がた臭か臭いが出て、鉄分が出るていうともあつたもんだけん、ハウスにも使えんということで、230メートルまで掘っていったんですけども。自分たちが事業で毎日毎日使うし採算ベースがとれるけんが、私たちはそのハウスでは掘るんです。生活だけって言えば、サラリーマン家庭で昼間は仕事行って、朝と夜ぐらいしか、自分たちが洗濯とかお風呂ぐらいしか使わんというところならですよ。やっぱその辺を考えた中で、アン

ケートに踏み切っていただきたいなということも、ちょっとお願いをしておきたいなと思います。

○委員（前田正治君） 前田です。

認可区域をですね、申請してから、認可の許可が下りるまで最短どのくらいかかるんですか。

○上下水道工務課長（田上武靖君） 上下水道工務課の田上です。

認可もコンサルに発注します、実際。最短でと言いますが、極端に言えば来年度の4月に発注したとして、年内に仕上げてくれと。12月までですね。

あとは県に、その先にできたら県に提出するんですが、そこから県に提出して許可が下りるまでに、二、三か月は要するということを考えると、1年間、最短で1年間ぐらいでどうにかできるかとは思いますが。

○委員（前田正治君） なるほど。分かりました。

最短で、もしかしたら最短で1年ぐらいしたら工事にかかる可能性があるということですね。

○上下水道工務課長（田上武靖君） 上下水道工務課、田上です。

工事となると、またその後に実施設計業務がありますので、認可が下りたからすぐ工事発注ができるってゆうことではございません。その後にまた、実施設計を行なって、それが上がって発注に入りますので、そこまで考えれば、工事にかかるまでを考えれば、やはり1年半から2年は見ておかななくちゃいけないのかなと思います。

○委員（前田正治君） 分かりました。前田ですけど。

先ほど、アンケートの同意が9割以上という話があったんですけど、やっぱ9割だろうが7割だろうが8割だろうが、そこら辺がちょっと、正確な数字は、私はなかつかなと思うんですけど。

9割以上っておっしゃるのは、企業局側から見れば採算の問題、市民の側から見れば、例えば横島天水地域に普及したとしてですよ。その料金は、玉名市全体の水道使用者のほうにかかってくるわ

けですよ。だけん、やっぱそういう意味の、説明責任というかな、果たすためのやっぱ同意はやっぱそのぐらいが妥当かなとは思いますが。

もういっちょ違う観点から、ちょっと質問ですけど、シェフコまで水道を引っ張ったですよ。あの間は、何件加入がありました。令和4年度でもよかし、その前でもよかし。

○上下水道工務課長（田上武靖君） 上下水道工務課、田上です。

シェフコまでの間での加入というのは、今のところゼロ件です。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

ゼロ件ばってん、あそこまでパイプはいっとなと。

○上下水道工務課長（田上武靖君） 上下水道工務課、田上です。

すいません、訂正します。

1件です。セブンイレブンができましたので、あそこは上水道加入されております。

○委員（前田正治君） あそこですね。分かりました。前田ですけど。

しかし、実際はセブンからさらに向こうまで行っとつということですよ。

有収水量というのが出てきましたけど、やっぱ有収水量を上げるということが、経営的にはやっぱどうしても必要かなと。シェフコまでパイプがいつまでたっても水がたまるとるけん。たまった水ば出さんと腐るけんですね、いかんと思うんですよ。出せば、有収水量に影響してくると。ずっと、結局は採算に影響してくると。

結論は、もう早いところ認可ばとって、9割以上と言わずに、仮に100%同意しんならそれが一番よかですけど、認可をとって、あれから先にやっぱ広げていくというのが、一番よかつじやなかですかと、私は思うんですけど。

あそこまで引っ張るとるけん、今度は、これがまた、余計な悪さばするけんですね。あんまりよ

くなくですよね。いつもやっぱ放水してやらんといかんでしょう。何か月に1回かは。

そこら辺もやっぱ考慮して、早く認可取得のほうに動き出してもらおうということを言いたいと思います。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

これより討論に入ります。

議第75号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 討論なしと認めます。

これより採決に入ります。

議第75号令和4年度玉名市水道事業会計決算については、全員一致をもって認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

次に、議第76号令和4年度玉名市公共下水道事業会計決算を議題といたします。

執行部から10分以内の説明を求めます。

○上下水道総務課長（津川隆一君） 上下水道総務課長の津川でございます。

令和4年度玉名市公共下水道事業会計決算書。地方公営企業法第30条第4項の規定により、議会の認定に付します。

決算書の30ページ、31ページをお願いいたします。

1、令和4年度玉名市公共下水道事業決算報告書。主要な部分の決算のみ申し上げます。

30ページの上段になります。

（1）収益的収入及び支出。収入決算額は31ページ上段になります。

第1款公共下水道事業収益、決算額は15億2

89万7,781円、第1項営業収益、決算額は7億134万9,040円。主なものは公共下水道使用料の収入でございます。

次に、第2項営業外収益、決算額は8億154万8,741円。主なものは、一般会計、補助金並びに長期前受金戻入でございます。

内訳申しますと、まず、一般会計補助金は物価高騰の影響を受けている世帯の生活支援のため、利用料金の減免分の補填でございます。決算額は3億6,720万2,804円でございます。

次に、長期前受金戻入でございますけれども、こちらは公共下水道施設や設備など資産を取得する際、国や県などの補助金を会計上収益したものでございます。決算額は4億2,670万7,970円でございます。

次に、下段、支出。決算額は、31ページ中段になります。

第1款公共下水道事業費用、決算額は14億3,937万3,532円、第1項の営業費用、決算額は13億2,148万3,076円。主なものとしましては、公共下水道施設の維持管理に要する委託料並びに動力費のほか減価償却費などがございます。

収入総計、15億289万7,781円。支出総額14億3,937万3,532円。収支差引は6,352万4,249円でございます。

続きまして、決算書の32ページ、33ページをお願いいたします。

資本的収入及び支出。収入決算額は33ページの上段になります。

第1款資本的収入の決算額は、3億898万9,860円。主なものとして第1款企業債、決算額は1億9,180万円。こちらは、施設の建設改良等に要する資金に充てるための、国などから借り入れた資金でございます。

次に、下段、支出。決算額は33ページの中段になります。

第1款資本的支出、決算額は8億7,286万

5,482円。主なものは第1項建設改良費、決算額は3億8,970万9,158円で、山田地区、大坊地区等の工事及び大坊汚水マンホールポンプ場建設整備工事などでございます。

次に、第2項借入償還金。決算額は4億8,315万6,324円。こちらは、建設改良企業債の償還金、いわゆる元金でございます。

収入総額3億898万9,860円、支出総額8億7,286万5,482円で、収支差引は5億6,387万5,622円の不足でございます。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する、こちらの額は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、当年度分損益勘定保留資金及び建設積立金で補填しております。

続きまして、決算書の34ページ、35ページをお願いいたします。

令和4年度玉名市公共下水道事業損益計算書でございます。

決算状況を基に、収益から費用を差し引いた経営状況を示したもので、令和4年度の経営状況は、35ページの末尾を御覧ください。本年度の経営状況は当年度純利益4,102万8,149円でございます。

続きまして、41ページをお願いいたします。

令和4年度玉名市公共下水道事業報告書。

1、概要。（1）総括事項。下水道事業においては、都市環境の整備、公衆衛生の向上とともに、河川、海域などの公共用水域の水質保全に努め、住民にとって快適な生活環境づくりに取り組んでいるところでございます。

令和4年度は、污水管渠施設整備として山田地区、大坊地区等の工事及び大坊汚水マンホールポンプ場を機械設備工事等を実施しました。

今後もしばらく計画的な環境整備及び施設の改築更新事業に取り組んでまいります。

ア、事業状況について。本年度の処理区域内人口は3万5,454人となり、対前年度より245人減少し、行政区域内人口6万3,749人に

対する普及率は55.61%となり、有収水量は360万2,511立方メートルで、対前年度1万7,752立方メートルの増加でありました。

以上、議第76号令和4年度玉名市公共下水道事業会計決算書の説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明を終わりました。

これより、質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（前田正治君） 前田です。

下水道の認可区域内での普及率というのはどのくらいになるのでしょうか。どっか出とつとかな。これか。水洗化率かな。よかです、見つけました。

それでですね、認可区域内でまだ下水が通つたらんというところが、大体あそこら辺あそこら辺っていうて、ざっとでよかけん、ちょっと言うてほしかですけど。その残りは今後どうするかっていう。

○上下水道工務課長（田上武靖君） 上下水道工務課、田上です。

今現在での認可区域内での整備、未整備地区ですね。今年度、昨年度も工事発注していますけども、九看大近くの立願寺地区になります。

あと、全体計画区域に入っている区域で未整備地区、富尾とかありますけども、それについては今現在で認可の見直しを行なっております。岱明地区におきましても、開田とか西照寺地区とかがあるんですが、その辺りを今年度中にはちゃんと認可として、今後どうするかというのを決定する。今現在検討中でございます。

よろしいですか。

○委員（前田正治君） 前田です。

岱明地域の下水道の処理は、長洲のほうに持っていつているでしょう。長洲の処理場への負担金というのも、お互いに決められとるですけど、その見直しというのはあつとですかね。負担割合の見直しというか。下水道加入人口のやっばこう上がり下がりすっと思うんですけど。

○上下水道工務課長（田上武靖君） 上下水道工務課、田上です。

取決めは毎年1回打合せをして行なっていますが、通常は、流入した量というのを毎月、うちからも報告、長洲は長洲でカウントされています。量に対してうちが負担金を払うと。その実流入量ですね。人口がどうのじゃなくて、実際送り込んだ量に対してっていうことになります。

あとは、負担割合で、向こうの処理場の建設費用の建設負担金とかが発生します。

○委員（前田正治君） 前田です。

長洲への負担金の主な比重は、流入量で大体主に決まるということですね。

分かりました。よかです。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

これより討論に入ります。

議第76号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 討論なしと認めます。

これより採決に入ります。

議第76号令和4年度玉名市公共下水道事業会計決算については、全員一致をもって認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

次に、議第77号令和4年度玉名市農業集落排水事業会計決算を議題といたします。

執行部から10分以内の説明を求めます。

○上下水道総務課長（津川隆一君） 上下水道総務課長の津川でございます。

令和4年度玉名市農業集落排水事業会計決算書。

地方公営企業法第30条第4項の規定により、議会の認定に付します。

決算書の63ページ、64ページをお願いいたします。

1、令和4年度玉名市農業集落排水事業決算報告書。

主要な部分の決算のみ申し上げます。

63ページの上段になります。

（1）収益的収入及び支出。収入、決算額は64ページ上段になります。第1款農集事業収益の決算額は4億580万6,885円。第1項営業収益、決算額は7,814万5,778円。主なものは農業集落排水の使用料収入でございます。

次に、第2項営業外収益、決算額は3億2,734万2,663円。主なものは一般会計補助金並びに長期前受金戻入でございます。

内訳を申しますと、一般会計補助金で2億528万3,441円。次に、長期前受金戻入。こちらは農業集落排水施設や設備など資産を取得する際、国や県などの補助金を会計上収益化したものでございます。決算額は1億2,205万422円でございます。

次に、下段、支出。決算額は、同じく64ページ中段になります。

第1款農集事業費用の決算額は4億1,143万1,191円。第1項営業費用、決算額は3億7,415万8,175円。こちらは農業集落排水施設の維持管理に要する委託費並びに人件費、動力費のほか減価償却費などでございます。

収入総計4億580万6,885円、支出総額4億1,143万1,191円、収益的収入及び支出収支差引は562万4,306円の損失でございます。

続きまして、65ページ、66ページをお願いいたします。

資本的収入及び支出。収入決算額は66ページ上段になります。

第1款資本的収入決算額は1億4,654万8,425円。主なものについて御説明いたします。第1項企業債、決算額は2,620万円。施設の

建設改良等に要する資金に充てるため、国などから借り入れた資金でございます。第2項補助金、決算額は1億1,778万8,425円。こちらは建設改良等に要する国、県からの補助金でございます。

次に、下段、支出。決算額は同じく66ページ中段になります。

第1款資本的支出、決算額は2億6,414万9,801円。主なものは第1項建設改良費、決算額は6,645万67円。横島地区強化事業、真空ステーション改築に関わる前払金でございます。

次に、第2項借入償還金、決算額は1億9,769万9,734円。建設改良企業債の償還金、元金でございます。

収入総額1億4,654万8,425円、支出総額2億6,414万9,801円。収支差引は1億1,760万1,376円の不足でございます。

なお、資本的収入額は資本的支出額に不足するこちらの額は、当年度分損益勘定留保資金及減殺積立金で補填いたしております。

続きまして、決算書の67ページ、68ページをお願いいたします。

令和4年度玉名市農業集落排水事業損益計算書。こちらは決算状況を基に収益から費用を差し引いた経営状況を示したものでございます。

令和4年度の経営状況は、68ページの末尾を御覧ください。

本年度の経営状況としては、当年度純損失487万8,508円でございます。

続きまして、74ページをお願いいたします。

7、令和4年度玉名市農業集落排水事業報告書。

1、概要（1）総括事業。農業集落排水事業においては、農村の生活環境を改善及び自然環境の保全等を目的として公共用水域の公衆衛生の向上に取り組んでいるところです。

令和4年度は横島地区機能強化事業として、真空ステーション改築工事等を実施し、今後も引き

続き、計画的な更新事業に取り組んでまいります。

事業状況について。本年度の処理区域内人口は6,875人となり、対前年度より18人減少し、行政区域内人口6万3,746人に対する普及率は10.78%となり、有収水量は56万5,161立方メートルで対前年度1万2,289立方メートルの減少であります。

以上、議第77号令和4年度玉名市農業集落排水事業会計決算書の説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明を終わりました。

これより、質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（松本憲二君） すいません、松本です。

この農業集落排水は、その加入率はどがんですか。もう全然増えよらなごた状態ですか。

令和3年から見て。横島は7割ぐらいあったんですね。加入率が。天水が5割満たしとらんな。

○上下水道総務課長（津川隆一君） 上下水道総務課長の津川でございます。

今松本委員のほうから御質問がありました農業集落排水の利用率ということで、令和4年度につきましては、利用される方の人口にしますと4,840人。ただ、前年度の令和3年度を申しますと4,788人。そして令和4年度は4,840人ですので、60名ほどちょっと増加傾向でありまして、若干ちょっと横ばいの状態が続いている状況でございます。年度を見てみますとですね。微増で増えながらも、若干ちょっと増えつつあるところもあるというところでございます。

以上でございます。

○委員（松本憲二君） すいません、松本です。

ちょっと加入率はやっぱもうちょっと上げていかんと、採算ベースが全然これは取れんごとなつとじゃなかつかなと思うわけですよね。

それは営業収益は物すごい低っかつに、一般会計からの、補助金でずっと賄いよるごた状態で、

この真空弁の横島の強化はしたっていうとも、もうその採算ベースが真空弁の更新ばずっとしていかなごたふうなら、これ果たして、それを爆発するこつなっとじゃなかつかなとしか思わんとですよ。

その加入率の増加には、1軒1軒にまだ入ってらんところ、ほとんどその本管はずっと引いてあるわけじゃなかですか。自分ところに、合併浄化槽じゃなくて、単独浄化槽がもう入っとるけん、ちょっと今のところはっていうことで多分入んのはらんとだろうばってん、しかしそれば上げていかんと。結局この事業が成り立っていかんと思うとですよ。その辺はどがん考えとるんですか。

○上下水道総務課長（津川隆一君） 今の松本委員からの御質問ありましたとおり、経営状況とともに、今後、いわゆる加入者を増やしていかないことには、経営状況の状態がどうなのかということとでございますけれども、こちらの農業集落排水につきましては、やはりこの加入率を上げることがまずは収入源ということになってきますので、そちらのほうの上げる努力というのは、当局でも行なっているところでございます。

ホームページ、また定期的な広報たまのほうでも、加入率、周知のほうは行なっておりますけれども、なかなかこの、いわゆる人口減少に伴いまして、やはりこの人口流入があることを踏まえて、先ほども委員のほうからもおっしゃいました合併浄化槽をつけているのに、それをちょっと、また切り替えるとなると、やっぱ費用負担も発生してくるということで、なかなかこう、そちらのほうの接続が伸び悩んでいるというところは現状でございますので、特にこの加入率が低い地区に対しては、今後引き続き、周知を図りながら、加入促進の推進について呼びかけを行なっていきたいと思ってございます。

以上でございます。

○委員（松本憲二君） すいません、松本です。
結局ですね、玉名市が都市計画じゃないですけ

ど、立地適正化計画も策定をされて、結局この旧町部だけじゃなくて、ある程度のエリアのところまでに立地を制限して、コンパクトシティを玉名市もしていかなと。結局下水道と上水道の老朽化を布設替えしていったりすつとで、費用が物すごくかかってくるけんが、その辺も含めた中で、都市計画課あたりと連携を結んでしていかなと。ずーっとこの費用が莫大にかかっていくけんが、やっぱその辺はですね、上下水道工務課、上下水道企業局と、土木というか立地的、都市整備計画課あたりとですよ、話をしながらですね、横島でもコンパクトシティ横島町の中でもコンパクト、岱明町の中でもコンパクトというのをつくっていかんと、やっぱそこに公共下水道が今どこでも一番、全国的にお金がかかっていくという問題が発生しとるけんがですね、その辺はやっぱ的確に対応ばしていついていただきたいということをお願いしたいと思います。

○委員（前田正治君） 前田です。

似たような質問なんですけど、農集の場合、私はここの加入率が仮に100%になったとしてもですね、なかなか経営は厳しかと思います。なぜなら、農集を普及している地域の人口そのものがだんだん減ってきてよるけん。分母が減りよつとですよ。分子ば太したっちゃあ、もとが減りよつとだけん、なかなかですね、これ厳しいかと、将来的に。だけん、法定外繰入ばずつと続けよつとかなというふうに思うわけです。

それで幸いに、玉名市だけじゃなくてほかの市町村も導入しているところありますので、経営改善にどぎゃんが必要なのかなと。他市の状況なんかもちょっと研究して、何か取り組まれているようなことは何かあるんでしょうか。お尋ねします。

○上下水道総務課長（津川隆一君） 今前田委員の、他市の状況を含めたところでの経営改善というところで、他市の経営状況の改善については、今の現状としては、情報を持ち合わせておりませんので、今後、他市のそういった事例があればで

すね、調査等を含めながら検討してまいりたいと思います。

それで経営状況につきましては、今委員おっしゃるとおり、他会計の繰入金、いわゆる市からの繰入金が、ちょっと大きいところを含んでいるところでございます。それでこの状況が、仮に、今後続くようであれば、やはり少なからず料金等にも若干影響してくる分もございますので、まずはおっしゃるとおり、加入率数の増加もございすけれども、経常状況の改善に向けて、まずはちょっと、当課としても検討を今後進めていきたいと思っております。

以上でございます。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

農業集落排水はなかなか経営的には厳しかかもしれんばってん、やっぱしやらなきゃいかんわけですよ。

先ほどおっしゃいました処理区域内、横島天水地域の生活水準の向上というかな、あるいは環境の改善というかな、そういった意味からも、やっぱり一般会計からの繰入をしてでも維持していかなんといかんと思うんですよ。

そういう意味じゃ、先ほどの上水道の普及もですよ、加入率、事前のアンケートで加入者がどのくらいあるかなと水道に。そういったことももちろん大事ですけど、やっぱり一番は、そこに住んどうる人たちの生活水準の向上というかな、やっぱ福祉の向上というか、そういった観点からやっぱりしっかり考えてもらって、もちろん財政的な裏づけというのも出てくっですけど、やっぱり一番は福祉の向上というか、住民のですね、そういった観点が大事じゃなかつかなと思いますけど。

もうよかです。以上です。そぎゃん思いますので。そんだけ言うて。

○委員（中尾嘉男君） 中尾ですけども。

今推進員さんちゅうのはおらるっとな。農業集落の。

○上下水道総務課長（津川隆一君） 上下水道総

務課長の津川でございます。

今推進員さんはいらっしゃっておりません。

○委員（中尾嘉男君） 何でおんなはらんと。前はずっとおって、加入の推薦にずっと回るようになったと。

そういうことでね、やっぱ加入も結構ありゆったったいね。何年ぐらいもうおられんとね。いつやめたっだらうか。

○上下水道総務課長（津川隆一君） 上下水道総務課長の津川でございます。

推進員さんということで、合併後の平成17年以降については、いらっしゃらないということで、合併以前に、やはりそういった推進をされる方々が地域を回られて、普及に努められたというのはございます。

特に、俗に言う、区の区長さんですとか、地域の代表となる方が、やはり率先してこの事業を進めるに当たって、やはりもう、大がかりといいますか、一大事業でございますので、その普及に関しても、地区の方が推進されたのではないかと思います。

以上でございます。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

これより討論に入ります。

議第77号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 討論なしと認めます。

これより採決に入ります。

議第77号令和4年度玉名市農業集落排水事業会計決算については、全員一致をもって認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

今日これにて、2日目の質疑を終了いたします。
明日20日は午前10時から再開しますので、
よろしくお願いいたします。
本日はこれにて散会いたします。
お疲れさまでした。

-----○-----

午後 3時22分 散会

令和 5 年

予算決算委員会記録

令和 5 年 9 月 20 日（水曜日）

玉 名 市 議 会

予 算 決 算 委 員 会 記 録

令和5年9月20日（水曜日）

午前10時00分開議

場所：第1委員会室

1. 本日の会議に付した案件

1. 令和5年第3回玉名市議会定例会付託案件

議第69号 専決処分事項の承認について

専決第9号 令和5年度玉名市
一般会計補正予算（第3号）

議第70号 令和4年度玉名市一般会計歳入
歳出決算

議第71号 令和4年度玉名市国民健康保険
事業特別会計歳入歳出決算

議第72号 令和4年度玉名市後期高齢者医
療特別会計歳入歳出決算

議第73号 令和4年度玉名市介護保険事業
特別会計歳入歳出決算

議第74号 令和4年度玉名市浄化槽整備事
業特別会計歳入歳出決算

議第75号 令和4年度玉名市水道事業会計
決算

議第76号 令和4年度玉名市公共下水道事
業会計決算

議第77号 令和4年度玉名市農業集落排水
事業会計決算

議第78号 令和5年度玉名市一般会計補正
予算（第4号）

議第79号 令和5年度玉名市国民健康保険
事業特別会計補正予算（第2号）

議第80号 令和5年度玉名市介護保険事業
特別会計補正予算（第2号）

2. 出席委員（21名）

委 員 長 多田隈 啓 二 君

副 委 員 長 一 瀬 重 隆 君

委 員 大 野 豊 重 君

委 員	中 村 慎 吾 君
委 員	浜 田 繁次郎 君
委 員	瀬 崎 剛 君
委 員	田 浦 敏 晴 君
委 員	山 下 桂 造 君
委 員	立 川 信 之 君
委 員	坂 本 公 司 君
委 員	吉 田 真樹子 さん
委 員	北 本 将 幸 君
委 員	松 本 憲 二 君
委 員	徳 村 登志郎 君
委 員	西 川 裕 文 君
委 員	江 田 計 司 君
委 員	近 松 恵美子 さん
委 員	前 田 正 治 君
委 員	作 本 幸 男 君
委 員	森 川 和 博 君
委 員	中 尾 嘉 男 君

3. 欠席委員（なし）

4. 欠 員（1名）

5. 事務局職員出席者

次 長 松 野 和 博 君

6. 説明のため出席した者

副 市 長	村 上 隆 之 君
教 育 長	福 島 和 義 君
総 務 部 長	吉 田 勇 人 君
企画経営部長	宮 本 圭一郎 君
市民生活部長	松 田 智 文 君
健康福祉部長	瀬 崎 し の ぶ さん
産業経済部長	井 上 康 博 君
建 設 部 長	田 代 史 典 君
建設部首席審議員	平 田 道 生 君
教 育 部 長	藤 森 竜 也 君
総 務 課 長	前 田 弘 信 君

財 政 課 長	木 村 隆 宏 君
人権啓発課長	濱 治 裕 子 さん
企画経営課長	石 貫 誠 哉 君
情報政策課長	大 石 晋 史 君
市 民 課 長	古 賀 祐一郎 君
税 務 課 長	富 安 崇 君
環境整備課長	塚 本 昭 広 君
総合福祉課長	小 山 聡 君
くらしサポート課長	平 田 光 紀 君
高齢介護課長	中 川 由 美 さん
保険年金課長	松 下 匡 君
保健予防課長	村 上 洋 治 君
農業政策課長	前 田 竜 哉 君
水産林務課長	小 川 昭 彦 君
農地整備課長	丸 山 隆 一 君
商工政策課長	神 永 和 典 君
観光物産課長	伊 藤 恵 浩 君
土 木 課 長	田 上 幸 二 君
土木課審議員	宇 野 貴 善 君
都市整備課長	中 尾 賢 治 君
都市整備課審議員	中 川 英 昭 君
教育総務課長	西 原 正 信 君
教育総務課審議員	島 田 浩 一 君
教育総務課審議員	成 瀬 陽 一 君
教育総務課審議員	田 中 良 幸 君
コミュニティ推進課長	西 川 慶一郎 君
スポーツ振興課長	小 山 晃 生 君
その他関係職員	

午前10時00分 開議

-----○-----

○委員長（多田隈啓二君） 皆さん、おはようございます。

委員会を始める前に申し上げます。

委員会はインターネット配信をしておりますので、各位並びに執行部におかれましては、個人情報等の発言には十分御注意願います。

審査に当たっての発言の際には、必ず挙手をさ

れ、指名しますので、委員においては、マイクスタンドのボタンを押して氏名を述べられてから発言し、終わりましたら再度ボタンを押してください。執行部においては、ワイヤレスマイクのスイッチを入れ、所属と氏名を述べられてから発言し、終わりましたらスイッチをお切りください。

また、委員が質疑される際には、資料の名称及びページ番号等を必ずお伝えいただくようお願いいたします。

審査の順序、方法は、別紙の議案審査進行表に従い行ないます。

各担当課からの説明は、事前に配付しております主要施策説明書及び補正予算書資料の下行なわれますが、必要最小限の事業に絞っての説明となります。ただし、予算書等の内容は全て審査の対象であることを申し添えます。

なお、一般会計補正予算における各事業の財源となる歳入については、各事業の歳出の説明と併せて対応する歳入を各担当課が説明します。よって、財政課は財政課所管の歳入のみの説明となります。

最後に、スムーズな議事進行のために、委員におかれましては、決算に関係がない質疑は慎むこと。執行部におかれましては、説明時間は審査案件ごと10分以内を目安にお願いいたします。

それでは、委員会を再開いたします。

これから、令和5年度補正予算4件の審査になります。

まず、総務部、企画経営部、市民生活部所管の審査を行ないます。

議第78号令和5年度玉名市一般会計補正予算（第4号）を議題といたします。

執行部から10分以内の説明を求めます。

○財政課長（木村隆宏君） 財政課長の木村でございます。

これから審査いただきます総務部、企画経営部及び市民生活部所管に係る議第78号令和5年度玉名市一般会計補正予算（第4号）につきまして、

予算資料を用いて、主なものの内容につきまして各担当課長から説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、予算資料の2ページ下段をお願いいたします。

2番の財政調整基金積立金は、令和4年度決算に伴う剰余金処分として元金7億1,000万円を積み立てるものでございます。

財政課からの説明は以上でございます。

○税務課長（富安 崇君） 税務課長の富安です。

同じく予算説明書の3ページ中段をお願いいたします。

7番、市税賦課事業203万5,000円の追加でございますが、来年度から、個人市県民税と併せて賦課徴収を行ないます森林環境税への対応を行なうため、既存システムの改修費用を補正するものです。

以上でございます。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀でございます。

予算資料の3ページをお願いいたします。

ナンバー8番、社会保障・税番号制度事業でございます。マイナンバーカードの交付に係るシステム導入等に要する経費といたしまして、今回694万8,000円の増額補正をお願いするものでございます。

主なものといたしまして、マイナンバーカード交付管理システム導入業務委託550万円の増額ですけれども、マイナンバーカードの交付管理は、制度導入の平成27年度から、本庁、支所、それぞれ別々にエクセルによりデータ管理を行なっております。

制度導入から年数も経過しエクセルのデータ量が膨大になっており、処理速度が遅いことに加えエクセルデータの破損等も懸念されるところです。

これらにつきましては、令和4年度から5年度にかけてマイナンバーカードの交付が急増したことに起因するわけでございますけれども、マイナ

ンバーカードにつきましては、決して一過性のものではなく、継続して申請、交付、更新、切替え等の処理事務を行なう必要があり、今後もさらにデータ量及び業務量が増加することから、これらの事務を効率よく処理をするとともに、本庁、支所間のデータ管理を一元化し、市民からの問合せや要望に迅速に対応するため、今回マイナンバーカード交付管理システムを導入するものでございます。

なお、今回要求しておりますマイナンバーカードの交付事務に係る経費につきましては、全てマイナンバーカード交付事務費補助金、補助率10分の10の対象でございます。

市民課からは以上でございます。

○環境整備課長（塚本昭広君） 環境整備課の塚本でございます。

予算資料の4ページをお願いいたします。

17番、地球温暖化対策事業の6万円につきましては、熊本連携中枢都市圏域の関係市町村、これにつきましては熊本市を中心として玉名市を含む20市町村でございます。

それで、広域的な地球温暖化対策実行計画区域施策編、これは仮称でございますけれども、策定を予定しております。それに関わる広報啓発や委員の報償費の経費の負担金でございます。

以上でございます。

○財政課長（木村隆宏君） 財政課長の木村でございます。

予算資料の8ページ下段をお願いいたします。

今回の補正の財源でございますが、その他の一般財源の内訳といたしましては、補正の財源調整として普通交付税及び繰越金を追加するものでございます。

以上で、総務部、企画経営部及び市民生活部所管に係る議第78号令和5年度玉名市一般会計補正予算（第4号）の説明を終わります。

○委員長（多田隄啓二君） 以上で、執行部の説明は終わりました。

これより質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（大野豊重君） 78号だから歳出もオーケーなんですかね。

○委員長（多田隈啓二君） はい。

○委員（大野豊重君） 所管課の。

○委員長（多田隈啓二君） はい。

○委員（大野豊重君） 資料3ページの2款リモートデスクトップライセンス使用料について伺いたいんですが、これ、庁内でどういうふうに使われるものなんですか。

○情報政策課長（大石晋史君） 情報政策課、大石と申します。

このリモートデスクトップのライセンスにつきましては、今庁内のネットワークをですね、マイナンバーを使う方、マイナンバーは使わないけれども個人情報扱う方、あとグループウェア等を使うインターネット側という3層の構造に分けております。

今回のこのリモートデスクトップにつきましては、マイナンバーは使わないですけれども、個人情報を取り扱う職員のパソコンで、通常は、そのパソコンは業務を、個人情報を扱う基幹業務のほうのシステムを使うんですけれども、画面転送させて、インターネットを利用するためにこのリモートデスクトップのライセンスが必要となるものでございます。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

それは、端末ごとで管理はできてないんですかね。今、マイナンバーを使う端末と使わない端末と、何かもう一個言われましたけど。でも、結局、オペレーターはどこの職員がやられるんですか。

○情報政策課長（大石晋史君） 情報政策課、大石です。

利用するのは、あくまでも原課の職員が自分のパソコンを使って、そのパソコンを使って、リモートデスクトップの画面、インターネットを使

うサーバーの画面を転送させてインターネット業務をそこで行なうという形になります。

○委員（大野豊重君） 市民課になるんですかね、そしたら。所管は。違う。

○情報政策課長（大石晋史君） 情報政策課、大石です。

このリモートデスクトップを使っている職員がですね、現在約110名おられます。課としては16課が利用しているところでございます。

以上です。

○委員（大野豊重君） その端末の中に、リモートデスクトップとしてインターネット業務をする場合のもの、それでセキュリティーのためにリモートデスクトップのソフトウェアを使ってやるんですよという、そのライセンス料という認識でよろしかったですか。

○情報政策課長（大石晋史君） はい。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。
引き続きよろしいでしょうか。

○委員長（多田隈啓二君） はい、どうぞ。

○委員（大野豊重君） 同じ3ページのマイナンバーカード。今回、先ほど、エクセルで管理して、それをしっかりシステムにおいて安定をさせていくということだったんですけれども。

そのシステムはいいんですが、その下に借上料の統合端末というのがあるんですが、これは追加導入になるんですか、それとも何かの入替え導入になるんですか。追加なのか、入替えなのか。これ、市民課だと思いますけど。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀でございます。

これ、追加ということになるんですけれども、各支所にですね、1台ずつ、計3台。今回12月から3月までの統合端末の借上料として、これは追加をいたします。

統合端末につきましては、市にマイナンバーカードの交付申請、こういったものを行なう専用端末ということになりますけれども、制度導入か

らも各1台しか支所にないということで、また、4年度から5年度にかけて非常に交付が多かったということで、現在1台で対応することが困難ということになりまして、1台追加導入するということでございます。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野です。

それで、今までエクセルでやっていて、今発行率からすると、もう4万人分ぐらい発行されていると思うんですけど。それをエクセルでやるとなると非常に危険な作業だったので、それ、システム化されるんですが。

今後ですね、更新が入ってくるじゃないですか。今までは発行、発行で来てたんですけど、今後それが、子どもたちの5年更新と大人の10年というのが出てくると思うんですけど。そういったときも、今回のこの交付管理システムには、それに対応できるような仕様で、リビジョン管理まで含めてやっていかれる仕様ということでよろしいですか。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀でございます。

現在のところですね、更新については、エクセルにおいては管理をできてない状態ですけども、今回導入するシステムにおいては、非常に管理項目が広いということで、そこら辺の更新についてもカバーができていくものということで考えております。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野ですけど。ありがとうございます。

発行より更新のほうがいちや二や複雑になってくると思うんですね。通知したけれども、更新をしないだとか、新しくまた作り直すだとか、そういうのが出てくるんですけど。人員管理というのは、その辺、大丈夫ですか。対応する人員。今回端末も支所に入れられるということだったので、それなりの職員教育とか、そういった対応す

る人員って増やさないといけないのかなっていう感覚なんですけど、その辺りは大丈夫ですか。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀でございます。

人員については、非常に、国の動向とかにもですね、左右される部分があるんですけども、今回のシステムを導入することによって、非常に効率的に事務が簡素化できるということがありまして、逆に、現在の人員よりも少ない人員でできるのではないかというふうには考えております。

以上です。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。どうぞ。

○委員（前田正治君） 前田です。

今のマイナンバーカードについてですけど。交付の段階で、全国的に、同姓同名で間違えましたというのが発生したじゃないですか。あのことにについて、単純な人為的ミスということで解決されんと思わなかつかなと思うんですけど。そういった、同姓同名を間違えんようなシステム上のなんかはあつとですかね。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀でございます。

同姓同名をですね、間違えないようにするということについてはですね、システムが情報連携をしているかしていないかということには尽きると思うんですけども。

この情報連携という意味がですね、何もかも自動で、手入力をせずに入力ができるということのみを指すものではなくて、最終的に、確実な情報を取得をしたものの、入力する段階で職員が間違えるという、ここら辺のところをですね、国のほうの今の点検の中では、それは一応ないという前提でちょっと今動いているという状況ですので、ひょっとするとその辺の甘さが出てきて、また、再度点検のし直しという可能性も出てくるのかなというふうに感じております。

玉名市としては、現在、全国の各自治体に、今、事務処理をどのようにやっていますかということ、で照会がかかっておりまして、それについてどういうふうにやっていますという国のほうに回答した結果、玉名市は点検対象外であるという、全国332団体で、今点検対象ということになっているんですけども、玉名市におきましては基準は一応満たしているということで点検対象外ということになっておる状況です。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

分かりました。より慎重にですね、扱うしかながつかなというふうに感じたところです。

それで、このマイナンバーカード交付のシステムの保守あるいは管理についての何かマニュアル的なものっていうのはあつてですか。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀でございます。

システムの保守につきましてはですね、一応予定しておりますところが、住基とか、統合端末とか、そういったものと連動性が必要ということになってきますので、現在のベンダーであります行政システムさんが作成したシステムの利用を予定しておるということで、そこら辺の、システム導入に伴いまして保守も5年間ついておりますので、その辺で対応をしていく予定でございます。

以上です。

○委員（前田正治君） 続けてよかですか。

○委員長（多田隈啓二君） はい、大丈夫です。

○委員（前田正治君） 前田です。

それじゃもう一つですね。今度の議会に高瀬蔵の無償貸付けが議案として出ていますけど、高瀬蔵についての固定資産税の取扱いについては、今まで、そして今度無償貸付けをしたとしたら、今後はどぎやんなつとか、その辺をちょっとお願いします。

○税務課長（富安 崇君） 税務課長の富安です。

ただいまの質問ですけども、高瀬蔵についまし

ては、現在、商工会議所が管理されております。商工会議所につきましては、税制上非課税団体という形で、今のところ高瀬蔵には課税されておられません。

ただ、今後譲渡されて、NPO団体のほうへ譲渡されますと、今度は非課税の規定がございますので、課税という形にはなるところでございます。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

無償譲渡だったですかね、貸付けじゃなくて。

○税務課長（富安 崇君） 譲渡です。

○委員（前田正治君） 譲渡だったかな。その辺は相手方にきちんと説明もしてあつてですか。

○税務課長（富安 崇君） 税務課長の富安です。

所管が商工政策課になりますけども、その辺の説明はしているというところで確認はしております。

以上でございます。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

相手先がNPOで、そぎやん利益ばばんばん出すようなところじゃないかと思ってですね。引き続き、何がしかの固定資産税に対する減免措置もありかなとは思たんですけど。それはまあよかですけど。所管のところでもたさるかもしれんけん。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。どうぞ。

○委員（山下桂造君） 山下です。

また、マイナンバーカードについて伺いますが、今回、国のほうの事務費補助金ということであるんですけども、このマイナンバーカードの管理システムというのは、国はつくらないで各自治体に任せているっていうことで理解してよろしいでしょうか。

また、このシステム自体は自治体ごとに違うのが使われているとか、同じなのかっていうところは、どのようになっているか、教えてください。

○市民課長（古賀祐一郎君） 市民課長の古賀で

ございます。

国がですね、クラウド的なやつでまとめてつく
るところの話は今のところ出てきておりま
せんので、自治体ごと、それぞれ違うというシス
テムになってきます。

とはいえ、国のほうはですね、標準化といいま
すか、同じような様式にそろえていくということ
を推進しておりますので、これらのシステムにつ
いてもですね、そう変わったシステムじゃないよ
うな形で多分そろえられていると考えております。

全国でですね、今度入れる予定のシステムは4
8自治体が導入をしているという状況に、参考ま
でになりますけれども。

以上でございます。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（山下桂造君） ありがとうございます。
いいです。

○委員（北本将幸君） 北本です。

予算書の16ページのところで、税の徴収費の
ところの委託料なんですけど、森林環境税が取ら
れるようになるけん、そのシステム改修だと思っ
たんですけど。結局、これ、税金の枠組的なやつ
が変わるだけで、取られる額、取られるという
か、徴収する額的には変わらんとですか。

○税務課長（富安 崇君） 税務課長の富安です。

徴収する額、個人に対しては変わらないですけ
ども、市に入ってくる税収としては落ちます。た
だ、その分、森林環境税につきましては、森林環
境譲与税という形で別のところに入ってくる形に
はなります。

以上です。

○委員（北本将幸君） 北本です。

今もう来よつとですよ、あれが。今、森林の。
それ、使われよつとですか、実際。それとも、も
う基金に積み立てよつとですか。実際どんくらい
来よつとですかね。

○財政課長（木村隆宏君） 財政課長、木村でござ
います。

これにつきましては、今、農林水産のほうの森
林関係で使っております。内容につきましては、
後でよろしいですか、お答えいたします。

○委員（北本将幸君） 北本です。はい、大丈夫
です。

それが、もう結局、引き続き、ただ集め方が変
わってくるということですよ、今後。来年度か
ら。国から森林に、関係で使いなさいというのは、
交付されてくるということですよ。この税金、
集めて、市に交付されてくるということですよ。
流れ的には。

○財政課長（木村隆宏君） 財政課長の木村でござ
います。

今回の税目に対しては、特定でございますので、
森林関係に使う財源として、譲与税として交付さ
れる形になってまいります。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。ほ
かに。どうぞ。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。ちょっと
財政課にお尋ねします。

財政調整基金が、今度も、繰越金の半分以上の
7億1,000万円程度を積み立てたということ
なんですけど、財政法でそぎゃん決まっとるけん
こぎゃんしてあつとて思うとですけど。

年度末ぐらいで、これぐらいの繰越金が出そう
だなというのが、ある程度判明するじゃないです
か。その段階で、地域から出てたいろんな、側溝
の改修とか、ちょっとした道路の拡張とか、そう
いったのを前倒しで施工するというようなことは
実際どのくらいあつとですか。

○財政課長（木村隆宏君） 財政課長の木村でござ
います。

今、委員のほうからですね、前倒しということ
でもありますので、ちょっと金額はですね、基本
的にはないというふうに考えています。

といいますのが、その年度に計画をしている事
業自体をまず執行することを前提で、その年度間
は計画しますけども、その年度におきましては、

事業計画として不測の事態とか、いろいろあったりして、逆に執行が厳しいというところもあったりしますので、そういう意味からしますと、その年度の事業執行ということをまず優先させる形ですので、翌年度、また前倒しっていう形で行なってしまうと、事業としては非常に厳しい状況になりますので、そういう意味からして、ないというふうな形で今答えさせていただきたいというふうに思います。

○委員（前田正治君） 前田です。

いろんな事情で今年整備する予定がでkindったと。そういうのは当然次の年度になるかもしれませんが。お金が、入札残とかいろんなことで余るという時点で、例えば軽微な側溝の修理とか、そぎゃんとば、ほなこつは来年する予定だったけど、大体、地域からいろいろ要望が出て、順番があるけん決まっとっじゃないですか。

それで、そういったことをちょっと早めに取り組むというようなことも、私は金額によってはあってもいいかなと思うとですけど。必ずその年度にせんとでけんと。決めたとおりせんとでけんということじゃなくて、よかこつならちつとは前倒しでもしてよかつじゃなかつかなと思いますけど。

○財政課長（木村隆宏君） 財政課長の木村でございます。

計画どおりに年度分を進めるというものではございませんで、計画はしながらも、その年度内におきまして、いろいろ執行状況等も見まして調整しながら行なっておりますので、その件につきましては、計画したものだけではなく、年度間の中でいろいろ考慮しながら執行は行なっているというふうに伺っております。

以上でございます。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

無理やりせれていうこっじゃなくてですね、そこら辺は酌んでいただきたいというふうに思います。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（中尾嘉男君） おはようございます。中尾ですけども。

ちょっと、3ページのね、2款の自衛隊募集協力事業についてお尋ねします。

資料があるならば、令和元年度からの採用された数をちょっと教えてください。

○総務課長（前田弘信君） 総務課長の前田です。

玉名管内の入隊者数で、令和元年度が9人、令和2年度が18人、令和3年度が9人、令和4年度が8人です。

以上です。

○委員（中尾嘉男君） 中尾ですけども。

予想しとったつよりも結構多かですね。やる気のある青年、じゃんじゃん自衛隊のほうに、募集をされるようお願いしておきます。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。どうぞ。

○委員（徳村登志郎君） 徳村です。

資料の3ページですけれども。税務総務費関連で、男性育児休業なんですけれども。こちらの、今、職員さんの実績ですね、ここ3年ぐらいちょっと教えていただければと思いますけど。

○総務課長（前田弘信君） 令和2年度がですね、1人。令和3年度が1人、令和4年度が5人です。

○委員（徳村登志郎君） 徳村です。

それは、1人、1人、5人となっていますけれども、対象になれる方、ほとんどが育児休業を申請なさっているような状況ですか。それとも、そうでない方もいらっしゃるんですかね。

○総務課長（前田弘信君） 総務課長の前田です。

いえ、育児休業になっています。育児休業のほうになります。

対象人数を申し上げますと、令和2年度が10人のうち1人、それと令和3年度が10人のうち1人、それと令和4年度が13人のうちの5人です。

○委員（徳村登志郎君） 徳村です。ありがとう

ございます。

まだ、もっとですね、やはり推進していただきたいかなと、その割合から考えればですね。よろしくをお願いします。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議はありませんか。

○財政課長（木村隆宏君） 財政課長の木村でございます。

先ほど北本委員のほうから、森林環境譲与税の活用という形で、どのようになっているかということで、御質問でございましたけれども。

今年度当初予算におきましてですけれども、まず事業費としては1,636万9,000円を当初予算では計上いたしまして、ここでは、事業としては、新生児に対しまして、木製品のタマにゃん皿という形で、これを配布をするようにいたしております。

また、今回補正を、資料の5ページの6款の27番で、森林保全の事業という形で、石貫地区におきます森林保険及び森林経営管理民有林の整備という形で委託を行ないますけれども、このような経費に譲与税を充当するという形で対応いたしております。

以上でございます。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（西川裕文君） 西川ですけれども。

説明資料の3ページ、3款の9番、自殺対策推進事業の中ですね、直接じゃないけれども、実際自殺をされた方というのは把握はされておりますか、玉名市内に。

○委員長（多田隈啓二君） 後でよろしいですか。

○委員（西川裕文君） はい。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議はありませんか。

○税務課長（富安 崇君） 税務課長の富安です。

先ほど前田委員のほうから、高瀬蔵の固定資産

のことでお尋ねのあった件で、一部修正させていただきます。

土地につきましてはが無償貸付けという形で、今議会に提案されてますとおり無償貸付けです。建物につきましては譲渡という形で、土地につきましては市の所有ですので、これまでどおり非課税、建物についてが課税という形になります。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

土地は玉名市のつだけん課税はされんで、建物だけが、課税すると。建物も、ですから、さっき言ったように、NPO法人ということですので、何らかの軽減策があつていいのかなというふうに思います。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

ここで、執行部の入替えのため、10時45分、再開いたします。

-----○-----

午前10時35分 休憩

午前10時43分 開議

-----○-----

○委員長（多田隈啓二君） 休憩前に引き続き委員会を開きます。

次に、産業経済部及び建設部所管の審査を行います。

議第69号専決処分事項の承認について、専決第9号令和5年度玉名市一般会計補正予算（第3号）を議題といたします。

執行部からの10分以内での説明を求めます。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

まず、農地整備課からは1つの事業について説明いたします。予算資料の1ページをお願いしま

す。予算書は10ページ上段です。

予算資料1ページ、1番、事業名、土地改良事業は5,383万8,000円の増額をお願いするものです。

これは、平成2年度に県営排水対策特別事業で設置した玉名市岱明町の大正開排水機場において、年1回の委託業者による定期メンテナンス及び運転管理者による月1回の点検などを行っていたにもかかわらず、水中ポンプ5台中2台が本年6月に故障したもので、至急熊本県に報告し、農林水産省の補助事業で、団体営土地改良施設突発事故復旧事業での対応を行なっているものです。

7月には採択申請を行ない、8月には採択を受けたことによりポンプの補修を開始しているところ です。

以上、農地整備課からの説明を終わります。

○水産林務課長（小川昭彦君） 水産林務課長の小川です。

当課からは、2件のうち1件の予算について説明をさせていただきます。同じく資料1ページ中段をお願いいたします。

2番、林道事業の605万6,000円の増額をお願いするものです。

内訳としましては、修繕料の128万7,000円で、市が管理する林道東部小岱山線の路面が下がり水たまりとなる部分等を補修するものであります。

これは、今年1月の寒波の際に水たまりが凍結したため職員で撤去作業を行なったところであり、今年の梅雨時期に、その水たまりの状況を確認しましたところ、道路中央から左右に水たまりができており、深いところでは、最大7センチの深さであることを確認いたしました。

このことから、林道利用者が安全に通行できるよう、秋の台風シーズン前までに路面の補修を行なうものであります。

また、同じく同路線ですが、盛土にて施工されました路面の一部にクラックが発生し、そこから

雨水が浸入したことにより、路肩のフェンスの一部が、傾きが発生してきていることから、このままの状態では路面ごと滑落する危険性があることから、今回、予防保全対策として早急に路面にオーバーレイを行ない林道の維持保全を図るものでございます。

次に、工事請負費の476万9,000円でございますが、これは、同じく市が管理する林道東部小岱山線の法面上部が7月の豪雨により崩落し、その上部の残存部分において再度崩落する危険性があることから、仮設の防護柵を設置するものであります。

施工延長は14メートルで、長さ4メートルのH形鋼を2メートル間隔で建て込み、その間に木板を設置するものでございます。

ここは以前、国の災害復旧補助事業を活用して復旧した箇所であり、その上部の一部が崩落したものであり、そのほとんどが、法面が既存のまま残存していることから補助基準には該当しないため、斜面にて仮設防護柵を設置し、林道利用者の安全を確保するものでございます。

水産林務課からは以上になります。

○土木課長（田上幸二君） 土木課長の田上です。

土木課からは1つの事業について御説明いたします。同じく予算資料の1ページをお願いいたします。

7番、現年発生単独災害復旧費、道路橋梁の1,021万5,000円の増額は、道路50件と水路5件の計55件の災害復旧費であり、内訳としましては、修繕料17件、委託料11件、借上料27件でございます。

これは、6月30日からの梅雨前線豪雨により、土木課が管理する道路において陥没や法面崩壊、倒木、土砂流出などの災害が発生し、国の災害復旧事業の採択要件に該当せず、なおかつ緊急性を要する災害について専決にて対応したものでございます。

土木課からは以上となります。

以上で議第69号令和5年度玉名市一般会計補正予算（第3号）の説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明は終わりました。

これより、質疑及び委員間討議に入ります。質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（作本幸男君） 作本です。

1番のですね、土地改良事業費、この大正開のポンプが5台のうちの2台というふうにおっしゃったですけど、5台は同じ年数でつけられたポンプですかね。

○農地整備課長（丸山隆一君） 平成2年度からの工事で一緒につけているポンプになります。

○委員（作本幸男君） 作本です。

2台がいかなかったということですけど、点検の不十分というか、そういったミスでこのポンプが故障したということですか。原因は何だったんですかね。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

原因についてはですね、今現在ポンプのほうメーカーのほうに行っていますので、詳細に調査したところ、シール台の腐食によりポンプ内の機械室に水が入り動かなくなったということです。

○委員（作本幸男君） 作本です。

要するに、点検は誰かに委託しよっとですかね。職員がしよっとか。年に何回かするでしょう。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

先ほど説明の中にも言いましたとおり、年1回は、市のほうが委託しております委託業者が年1回行なっております。それと、毎月、月に1回、運転管理者の方に一応点検をお願いしているところです。

以上です。

○委員（作本幸男君） 作本です。

それでも故障したということは、何かやっぱり原因はあったわけですよね。浸水でしょう。それ

で、浸水に至るまでのそういった手順というか、その管理者さんあたりがですよ。ちょっとしたミスになっとかな、これ。仕方ないことかな。どがんですかね。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

ミスと言うよりは、どちらかというをやっぱ経年劣化といいましょうか、そちらのほうの、やっぱ部品の損傷から、たまたま点検のときに動かなくなってしまうところになるかと思います。

○委員（作本幸男君） 作本です。

平成2年かな。

○農地整備課長（丸山隆一君） はい。

○委員（作本幸男君） 平成2年。原因は、もう結局おっしゃった浸水して止まったというこっでしょう。故障したってわけでしょう。その辺りがですよ、それは、どこのポンプ機場あたりは、あってもおかしくないような事故というか故障かな。よそこにもあつとつとだろかな。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

年数がたっているのもありますし、ずっと水の中につかっている状態のままでいうか、つかっているときもあるし、つかっていないときもあるという部分で、やっぱりその繰り返しになりますので、経年といえば経年のほうも強いのかなというところで感じております。

○委員（作本幸男君） 水中ポンプたいね。水中ポンプちゅうのはそがんなごはもてんたいね。大体、耐用年数というとは何年ね。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

今、玉名市内に、排水機場26か所ありますけども、もう30年以上になっている部分も多くなっていますので、それを今随時、県のほうとも相談しながら、県営でできる部分については県営でしていますし、それに合致しないような部分については、補助事業を見つけながら団体のほうで

やっている状態であります。

20年から30年ぐらいが大体年数なのかなというところではあります。もう30年以上を超えている部分についてはちょっと急いでやっている状態です。

以上です。

○委員（作本幸男君） 水中ポンプということにして、結構、30年ぐらいが精いっぱいかなと思ってもすつとばってんですね。故障してから替えるという、劣化してから替えるというよりも、耐用年数というのはそれぞれやっぱあるわけですから、その辺りもしっかりとですね、管理の中でやってもらえば。大事なときに故障したら何もならんけんですね。お願いしときます。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議。どうぞ。

○委員（大野豊重君） 大野です。

今、作本委員の追加になるんですけども。これは、オーバーホールはするケースってあるんですか、エンジンに。ポンプのオーバーホール。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

オーバーホールも計画的に今やっているところですよ。

以上です。

○委員（大野豊重君） 大野ですけど。

オーバーホールは、大体どれぐらいの年数でやられるのか。大方でいいです。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

大体、エンジンポンプ、水中ポンプはありますけども、10年から20年の間でオーバーホールするところで今計画は進んでおります。

○委員（大野豊重君） 大野ですけど。

結局、先ほど作本委員のほうもおっしゃられたけども、壊れたらやっぱりとんでもないんで、やらないといけないんで。そのオーバーホールが今10年から20年。耐用年数が30年なんです

けれども。

ちなみに、私、そのポンプの稼働がどういうふうになっているのかってちょっと把握できてないんですけど、稼働状況というのは、大体、常に24時間365日動いているようなものなんですか。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

水中ポンプのところについては、水位が上がってきた段階で、ある程度のところで動き始めて、水位が下がって、ある程度のところで止まるという自動運転のところがほとんどになっております。

○委員（大野豊重君） 大野です。

多分、フロートで管理されているんかと思うんですけど。であれば、例えば雨が多いときとか、水量が多いときを予測されたときにしか動かないということなんで、ということは、動かない時期っていうのも把握、計算できるということですよ。

これも、先ほどの、私質問しようとしてたんですけど、6月に故障して8月に交付金が決定したからもうそれを専決でやったということで、それが専決にされた突発性とか緊急的な要因になるという認識でよろしいでしょうか。

○農地整備課長（丸山隆一君） はい。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

続けてよろしいでしょうか。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（大野豊重君） 資料の2ページの11款ナンバー1。資料2ページ、11款の1番の災害復旧費、災害復旧対策費なんですが、これは、7月の前半の大雨のときに、岱明の三崎地区で県河川がちょっとあふれて水田のほうに流れ込んだじゃったんですね。

そこに県と市のほうから来てもらったんですけども、そのときの言い分が、県からすると、県河川があふれて水田のほうに流れて水田の法面を壊したんですね、市道のところを。市道と隣接するところをですね。で、県が言うには、いや流れ出

た後のことは知りませんと。川の補修が、必要だったら川の補修すると。

○委員長（多田隈啓二君） すみません。大野委員、それ、次の議案。78号でちょっと言ってもらっていいですか。

○委員（大野豊重君） でしたっけ。あ、そっか。今。

○委員長（多田隈啓二君） また後でお願いします。

○委員（大野豊重君） すいません。はい。じゃあ結構です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。どうぞ。

○委員（松本憲二君） すいません。松本です。

1 ページの6 款のナンバー 3 漁港管理事業で、漁港内に、漂着物の撤去ということで、新川と大正開と横島漁港しか載っとらんとですけど、これ、大浜とか滑石はなかったっすか。

○水産林務課長（小川昭彦君） 水産林務課長の小川です。

大浜とですね、滑石につきましては、滑石漁港のほうは、漂着物がちょっと量が多かったということですね、それは既決の予算の範囲でできるということで、そちらのほうで対応をしております。

それと、大浜漁港につきましては、漂着物はあったんですけども、干満の出入りがありましたので、もう自然と出ていったということでなくなっております。当初は予算を要求する予定ではありましたんですけども。そういった状況でございます。

以上です。

○委員（松本憲二君） 分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。ほかに。どうぞ。

○委員（山下桂造君） 山下です。

今の漁港のことなんですけど。機械借上料ってあるもんですから、作業っていうのは漁協の方々がされたんですか。

○水産林務課長（小川昭彦君） その作業につきましてはですね、建設業の方のほうにお願いをしております。機械の借り上げとしてバックフォーですとか、ダンプトラック、そういったやつで上げてもらって処分をしていただいているところでございます。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（山下桂造君） 山下です。作業された方への報酬とかそういうのはここに入っているんですか。

○水産林務課長（小川昭彦君） それも込みで機械借上料として支払いをしておるところでございます。

○委員（山下桂造君） 山下です。

1 ページの2 番、林道事業で、東部小岱山線防護柵設置ということのお話の中で、前に何か、国か何かの工事ですて、それが崩れてまたしたということだったんですが、ちょっと、今の認識でよろしいでしょうか。

○水産林務課長（小川昭彦君） 水産林務課長の小川です。

そうですね、これは平成22年度に、1 回この現場で土砂崩れが、法面の崩落がっておりますので、そのときに復旧工事をしております。

以上です。

○委員（山下桂造君） 山下です。

とすると、取りあえず、もうこれ以上危険が及ばないようにっていうことでの防護柵設置ということになると思うんですが、今後、この先、国のほうにまた、しっかりした復旧ということは要求される予定はありますか。

○水産林務課長（小川昭彦君） 水産林務課長の小川です。

今後の対応についてですけども、この現場がですね、土質が砂質系、砂系ということでですね、崩れやすいのかなというところで認識しておりますけども。災害復旧で行なうということになりま

すと原形復旧ということです。

今回の崩落につきましては、上部の一部が崩落、滑ったということで、土量的にも多くはなかったんですけども、既存で残っている部分ですね、岩盤のちょっと硬い部分と、そうでない部分とのところでですね、ちょっと、水が入ったら今後崩れるかなということも想定されましたものですから、今後はですね、この仮設の防護柵を設置した後、状況を観察して、その状況次第で対応を考えたいと思っております。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。どうぞ。

○委員（松本憲二君） すいません。松本です。

先ほどから、この11款の中で災害復旧というのがあるんですけども、6月30日からの豪雨に伴うということで。よくあるのが、道路で、民地からの木の垂れ込みですよ。なかなかこう、道路が通れん状況っていうのが、やっぱり雨が降った後というのは物すごかと思うんですけども。

しかしながら、そこが市道じゃない場合は、土木課は、結局、農地整備課でしょうって。そして今度は、農道であっても民地から出とったら、結局は市は触られんけん、それは、農業委員会に言ってくださいって。その所有者の人に切ってもらうようにこっちから通知をしますって言っても、しかしながら、そこの先に畑がある人とか、絶対そこば通らざるを得ん人たちというのは非常に困んなはつとですよ。

そういうのに対して、ここには予算というのが出ないんですけども、災害復旧で、専決でやっていっちゃう中で、その辺今後玉名市としては、どんな対応策とするのか。全部、ほとんどの人が言われるのが、どこに行ってもたらい回しされるっておっしゃるわけですよ。

土木課に行くと、市道が俺たちは分からんけん。道路に面しているところからの木の垂れ込みというところは天水、伊倉と何か所にもある。竹林と

かっていうのは、竹は弱いもんだけんがですね。だけんやっぱ垂れ込みが車に当たって、トラックなんか非常に困るというふうにおっしゃるわけですよ。

今後の対策をきっちり、じゃ、土木に来らしたら、いやいや、それは市道じゃなけん農地整備課にお願いしますと。当然、農地整備課は、いやいや、それは民有地からの垂れ込みだけん農業委員会にお願いしますと結局たらい回しで。区長さんたちも、住民からおっしゃられて行っても、私も農業委員会に聞きいたら、ずっと通知は出します。しかしながら、その人が切んなはらんならどがんでけんですもんねという対応ですたいね。

その辺の対応策をやっぱり考えていかんと、耕作放棄地が増えてきよる状況の中で、今後やっぱ、災害復旧なら災害復旧で、市が、どこまで突っ込んでしていただけるのかというのを、ある程度検討をしていていただきたいというのを、要望をちょっとしておきたいと思います。

以上です。

○土木課長（田上幸二君） 土木課長の田上です。

まず、災害に関わらず、通常時に民地からの樹木が道路上にはみ出し通行の支障になっている場合は、先ほど委員もお話しされましたとおり、現地確認を行なった上で土地所有者に文書を送付し、関係法令に基づき適正に管理を行なっていくようにしております。

ただし、災害時や、災害時ではなくても、御本人が高齢などの理由により個人での適正管理が難しい場合は、土地所有者と協議を行なって、通行に支障がある部分についてのみ土木課のほうで伐採を行なっております。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに、質疑及び委員間討議はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

これより討論に入ります。

議第69号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 討論なしと認めます。

これより採決に入ります。

議第69号専決処分事項の承認について、専決第9号令和5年度玉名市一般会計補正予算（第3号）については、全員一致をもって承認することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

次に、議第78号令和5年度玉名市一般会計補正予算（第4号）を議題といたします。

執行部から10分以内の説明を求めます。

○農業政策課長（前田竜哉君） 農業政策課長の前田です。

当課からは、主なものとして2件の予算について説明をさせていただきます。では初めに、予算資料の4ページ中段をお願いいたします。

まず、19番、園芸産地における事業継続強化対策事業の307万8,000円の増額につきましては、度重なる豪雨や台風などの被害拡大を踏まえ、老朽化などから十分な耐候性を備えていないとされる既存の農業用ハウスの倒壊、損傷等の被害防止対策に取り組む園芸農家に対しまして、補助率2分の1以内で、国が補助する園芸産地における事業継続強化対策事業補助金でございまして、今年6月の県要望調査により、トマト、ミニトマトの生産農家組織の1組合が取り込まれるものでございます。

なお、この事業の財源につきましては、国の園芸産地における事業継続強化対策事業補助金としまして、県を介し全額が交付されるものでございます。

続きまして、20番、県産麦安定生産体系構築支援事業の1,875万5,000円の増額につきましては、県産麦の品質、収量の高位安定化によ

る安定供給のための排水対策に導入します機械の取得費に対し、補助率2分の1以内で、県が補助する県産麦安定生産体系構築支援事業補助金でございまして、今年5月の県の追加要望調査によりまして、麦作農家7軒が取り込まれるものでございます。

なお、この事業の財源につきましては、県の県産麦安定生産体系構築支援事業補助金としまして県から全額が交付されるものでございます。

当課からは以上でございます。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

農地整備課からの説明は、予算資料の5ページをお願いします。予算書は22ページ上段です。5ページ中段になります。

26番、事業名、渇水対策維持管理事業の1,224万9,000円の増額をお願いするものです。

今回の1,224万9,000円のうち804万6,000円は、令和3年度と令和4年度の渇水対策事業で発生した余剰金を再度基金に積立て精算を行なうものです。

また、420万3,000円は、渇水対策施設のポンプ運転などにかかった令和4年度の電気代が高騰した分、農林水産省が農業水利施設に対して70%の補助をするもので、これも基金に積立てを行なうものです。

農地整備課からは以上です。

○水産林務課長（小川昭彦君） 水産林務課長の小川です。

当課からは、1件の予算について説明をさせていただきます。同じく予算資料の5ページ中段をお願いいたします。

27番、森林保全事業の766万7,000円の増額をお願いするものです。

内訳としましては、保険料の55万9,000円で、これは、玉陵校区の石貫地区にある9.75ヘクタールの森林について、森林経営管理法及

び森林経営管理制度に基づく経営管理権集積計画の策定が完了し、今後の経営管理を所有者が市に委ねられたことにより、市が加入する本年11月から5年間分の森林保険料でございます。

なお、この事業の財源は、国から譲与されます森林環境譲与税を市が積み立てた同基金から全額を繰り入れるものでございます。

次に、委託料の710万8,000円で、これは、先ほど申しました石貫地区の森林管理に伴う間伐業務委託料でございます。

これも、全国の地方自治体に国から配分される森林環境譲与税を財源とするものであり、平成31年4月に制定されました森林経営管理法に基づく、適切な経営管理が円滑に行なわれるため、地権者の同意を得て今年度に策定した経営管理権集積計画に従って市が実施する9.75ヘクタールの森林間伐を林業団体に委託するものでございます。

当課からは以上です。

○商工政策課長（神永和典君） 商工政策課長の神永でございます。

補正予算説明資料の5ページ下段のほうをお願いいたします。

ナンバー28新型コロナ中小企業等経済対策事業で1,000円の増額をお願いするものでございます。

内容といたしましては、24節積立金1,000円を増額するもので、新型コロナウイルス感染症対策利子補給金基金積立金残金に発生しました基金口座利子分でございます。

以上でございます。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 観光物産課の伊藤です。

予算書6ページをお願いいたします。

32番、インバウンド推進事業は243万3,000円の増額で、玉名市・台湾桃園マラソン交流事業業務委託でございます。

内訳といたしまして、旅費の増額36万4,0

00円は、台湾トップセールスのために当初予算にて市長と職員の2名分の旅費を計上していましたが、桃園マラソン対応が必要になったため、タマにゃん対応職員1名、スポーツ振興課職員1名の合計2名の旅費を計上するものでございます。

次に、玉名市・台湾桃園マラソン交流事業業務委託206万9,000円で、桃園国際シティハーフマラソン大会と、玉名マラソンであります横島いちごマラソン、いだてんマラソン、金栗杯ハーフマラソン大会で、地域間の交流を推進し連携を深めるということを目的として本事業の業務委託を行なうものでございます。

観光物産課からは以上でございます。

○土木課長（田上幸二君） 土木課長の田上です。

同じく予算資料の6ページをお願いいたします。

34番、道路メンテナンスサイクル事業（舗装）の782万7,000円の増額は、道路舗装工事の工事請負費であり、これは、社会資本整備総合交付金（道路）において、前年度に令和5年度の予算要望を行なっておりましたが、要望額以上の交付金配分がなされました。

そこで、次年度以降施工予定の部分を今年度に前倒しで行なうこととし、当初予算と交付額の差額分の補正をお願いするものです。

土木課からは以上になります。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

同じく予算資料6ページ、予算書は24ページをお願いします。

都市整備課からは、4つの事業のうち1つの事業について説明します。

35番、都市計画総務費の739万5,000円は、3D都市モデル研修旅費及びまちなか未来プロジェクトに関する予算で、主なものは、賑わいまちづくり地域交流活性化事業業務委託の730万円の増額です。

内容としまして、まちなか未来プロジェクトの一環で、在来線JR玉名駅の一部施設及び駅前広

場歩道などの公共施設を利用してイベントを実施する市民団体等を支援する社会実験事業で、在来線ＪＲ玉名駅の空きスペースをＤＩＹワークショップで改装を行ない、まちなか魅力発信の交流拠点としたり、必要な機材、テント、椅子、机、照明器具の貸出しをしたり、にぎわいの創出、それと訪問者の滞在時間の増加を図る事業です。

財源としまして、県補助金の地域づくり夢チャレンジ推進補助金で、トータル補助率は約６７％で４９２万５，０００円交付されるものです。

都市整備課からは以上です。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

農地整備課からの説明は、予算資料の８ページをお願いします。予算書は２８ページ中段です。８ページの中段になります。

５０番、事業名、現年発生単独災害復旧費（農地農業用施設）の２，８８４万３，０００円の増額をお願いします。

これは、本年６月３０日の大雨で、農道、水路等の法面崩壊や洗掘、陥没等の被害が発生し、被災しました排水路２０件、農道８件の計２８件の修繕料でございます。

なお、復旧につきましては、議会承認後、稲刈り等も考慮しながら随時進めていく予定です。

以上で、農地整備課からの説明は終わります。

○土木課長（田上幸二君） 土木課長の田上です。

同じく予算資料の８ページをお願いいたします。

５２番、現年発生単独災害復旧費、道路橋梁の１，１４８万６，０００円の増額は、道路２２件と水路１件の計２３件の災害復旧費であり、内訳としましては、修繕料２２件、委託料１件でございます。

これは、６月３０日からの梅雨前線豪雨により、土木課が管理する道路において陥没や法面崩壊、路肩崩壊などの災害が発生し、国の災害復旧事業の採択要件に該当しないものについて補正をお願いするものです。

土木課からの説明は以上となります。

以上で、議第７８号令和５年度玉名市一般会計補正予算（第４号）の産業経済部、建設部に係る案件の説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明は終わりました。

これより質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（大野豊重君） 大野です。

先ほど間違えまして、すいません。

１１款のナンバー１の災害復旧対策のやつと、今説明があった、同じく１１款、ナンバー５０、ページ８ですね。

これ、どっちに当たるかちょっと分かんないんですが、両方とも６月３０日からの豪雨災害の復旧だと思うんですが。

これで、１件、個別具体的なところで、岱明の三崎に今泉川というのがあって、それ県河川なんですが、そこから大雨であふれて、農道をまたいで水田のほうに入り込んで、その影響で水田の法面が崩落しているんですね。

それは、県から言わせると、いや、それは市でしよう。でも市からすると、いや、もともとの原因は県河川が氾濫したことによるものだという事で、その結論が、ちょっと聞いてなかったんですが、その辺りって、この災害復旧でどっちに入ってますか。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

これについてはですね、今説明しました災害復旧の中に、玉名市で行なうということで入れております。

○委員（大野豊重君） どっちで入っていますか。ナンバー１のほうかナンバー５０か。

○農地整備課長（丸山隆一君） ５０のほうです。

○委員（大野豊重君） ５０のほうですね。で、対応を、これでやるということですか。

○農地整備課長（丸山隆一君） はい。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

それは県のほうにも言われたんですかね。県のほうには言っていない。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

県のほうにも、一応、今泉川の管理が県ということで、県と立会いして、今ちょっと委員さんのほうからありましたとおり、押し問答というか、ありましたけども、玉名市のほうでやるということで決まりましたので、やる予定でいます。

○委員（大野豊重君） ありがとうございます。

続いてあと1件だけ。

○委員長（多田隈啓二君） どうぞ。

○委員（大野豊重君） 続けて、大野ですけども。

5ページの25番。農地整備課のほうなんですけど、鍋地区の圃場整備がもう終わって、その費用対効果の算定ということであるんですけども、費用対効果の算定というのは、具体的にどういうふうなことをされるんですか。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

これについてはですね、現在玉名市の岱明町の鍋地区で進めています。まだ採択されておられません。大野下扇崎のほうはもう完了が間近なんですけども、採択に向けて今進めている地区になります。

○委員（大野豊重君） すいません。大野ですけど。

501号の下のほうの話ですか。

○農地整備課長（丸山隆一君） そうです。はい。

○委員（大野豊重君） ああ、そっちですね。

○農地整備課長（丸山隆一君） それで、県のほうと協議を進めていく中で、どうしても事業費に見合った費用対効果があるのかどうかというのを玉名市に今求められている状況ですので、玉名市より算定業務を委託するための必要が生じたことにより、今回補正をお願いするものです。

○委員（大野豊重君） 大野ですけど。

あそこ、一体的というよりか、3分割した中の3分の1区画だと思うんですけど。ということは、また、その後、残りのほうがやりたいというふうに地権者のほうからの同意が取れたとして、それを進めていく中で、また、これもそのときに入ってくる費用ですか。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

まだ確定ではありませんけども、恐らくそうなるかと思います。

○委員（大野豊重君） 大野です。

じゃ、もう圃場整備をやる前にはこういったものを県のほうに報告として出さないといけないというものなんですね。はい、分かりました。ありがとうございます。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。どうぞ。

○委員（松本憲二君） 松本です。

5ページの7款で、機械室温水器の工事ということなんですけど、これ、多分潮湯と思うんですけども。潮湯で書いてあるんですけども。潮湯の温水器、もちろん海水を沸かすわけですから、ちょっと、普通の家の温水器とは、若干ですね、異なるんだろうと思うんですけど。大体何年ぐらい、これ、もちますか。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 観光物産課の伊藤です。

この温水器につきましては、建設以来今回初めての取替え工事ということで。平成7年からぐらいなので。

○委員（松本憲二君） 20年までもっとらんとか。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） いや、30年。

○委員（松本憲二君） あ、そうか、そうか。平成7年だけなんです。じゃ、23年ぐらいもってというこつですね。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） これまで少しずつ修繕、修繕を繰り返しながらやってきたもので

ございます。

○委員（松本憲二君） はい、分かりました、それで。

ちょっと、引き続きお願いします。松本です。

同じく5ページ、6款の24で、土地改良事業で、野部田地区の排水路のしゅんせつの業務委託で85万8,000円が計上されておるわけですが、野部田地区は一般財源になっとつとですけど。旧天水地区で、過疎地域に指定されているわけですよね。土堀りのところのしゅんせつにここはなっとですか、それとも、もともと柵渠とかU字溝が入るとところに泥が堆積しとるけんがしゅんせつするのか。ちょっとそこを教えてください。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

野部田地区の排水路、今回上げておりますしゅんせつする部分については整備がなされていまして、どうしても近年の雨で土砂の流れ込みが多くて、現在流れの阻害になっているのでということで、今回要望させていただいております。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。ほかに。どうぞ。

○委員（山下桂造君） 山下です。

資料の5ページの6款の26番です。渇水対策維持管理事業でお金が積み立てていかれているんですけど、今後、新幹線のトンネルができたことによる渇水対策なんですけど、現状というか、維持費とか、そんなのはどのぐらいかかっているのか分かれば教えてください。

かかるようであれば、後でまた伺います。

○委員長（多田隈啓二君） 分かりますかね。

○農地整備課長（丸山隆一君） すいません。ちょっと今手元に資料がないので、後で用意して報告させていただきます。

○委員（山下桂造君） 山下です。じゃ、お願いします。あと1つお願いします。

同じ5ページの23番で、水田の畑地化による

土地改良区決済金等の支援ということがあるんですが、畑地化促進事業ということで、畑地になる予定の面積は今回どのぐらいでしょうか。

○農業政策課長（前田竜哉君） 農業政策課の前田です。

今回補正予算で計上しております畑地化に向けた面積というのは農家1軒分でございます、1万2,823平方メートルになります。

以上です。

○委員（山下桂造君） ありがとうございます。大丈夫です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。はい、どうぞ。

○委員（松本憲二君） 松本です。

予算書の6ページ、7款の30番で、情報発信事業ということで、ここで、玉名と小天温泉の再始動プロジェクトということで、動画とかウェブ、SNS、雑誌などを活用したということで、これ、しゃんむっでん福岡都市圏ということで限定せんなわけですか。こら、日本全国に向けて発信してよかつじゃなかつかなと思うんですけど。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 観光物産課の伊藤です。

玉名市の観光の国内ターゲットの地域というか、地域を福岡都市圏ということでちょっと設定しておりますので、今回福岡を中心としたF1層を狙っているという形です。

○委員（松本憲二君） 松本です。

じゃ、これは福岡にしか流れんわけですか、このウェブにしても動画にしても。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 福岡中心ですね、もう近隣の県もそうですけども。九州内、九州内というか。

○委員（松本憲二君） 県北。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） はい。

○委員（松本憲二君） 松本です。

じゃ、今回は福岡だけかもしれんけれども、結局、台湾に向けてだったりとか、もう全世界に向

けてだったりとかっていうのは今のところでは全然考えてないのか。

○観光物産課長（伊藤恵浩君） 観光物産課の伊藤です。

インバウンドっていいですか、そういった部分については、また別の事業で考えております。

○委員（松本憲二君） よかったら、それ、結構今、もう台湾のTSMC関連で、いっぱい、大津とか、菊陽あたりはもうばんばん発信をしておりますので、だけん玉名も負けじと、そこはしっかり発信をしていただかないと、なかなかインバウンド数も増えませんし、観光の人たちも増えないということもあります。

小天と天水はですね、今度力を入れて、また整備も何かやるというような予算も出ていましたから、その辺はですね、しっかり考えてやっていただきたいなと思います。

ちょっと、引き続きお願いします。

○委員長（多田隈啓二君） はい、どうぞ。

○委員（松本憲二君） 8款、同じページの8款で、景観の形成ということで、高瀬地区2件、天水地区2件ということでやっておられるんですけども。この景観形成で補助金が出ているんですけども、どういった、景観になじむように景観形成を取られるような形になっとつとですかね。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

景観形成の場合は、まず修景になじむ。景色になじむ感じと、あと、塀を垣根に替えたりとか、あと、エアコンの室外機をかぶせる、木などでかぶせるやつとか、そういうのを、見た目を落ち着かせた感じにするということです。

以上です。

○委員（松本憲二君） 松本です。

結局、高瀬だったら、高瀬蔵のあの通りとかで、エアコンの、今課長がおっしゃったように、室外機が目隠しだったりとかっていうのが分かります。それは全体的にやっぱり、1軒、2軒じゃなくて、

もし、市役所の係、担当の職員が見てですね、ちょっと、あんまりよろしくないかなということろをですね、ぜひこういう補助金をですね、じゃんじゃん出して、にぎわいのある町をつくらせていただきたいなというふうに思います。

今のところ以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（大野豊重君） すいません。1件、聞き忘れてました。

同じ6ページの7款、ナンバー32の台湾とのマラソン交流事業なんです。これ、当然、いちごマラソンとかハーフマラソンとのひもづけをやっていただければなと思ってたんですが、その答弁がありましたけども、2名の増員ということ。

実際、この予算が通ってから、当然、これから向こうに行かれて、募集要項出ていましたよね。あのときにやられると思うんですけど、アピールをされてくると思うんですけど。

今実際、何かメールで例えば資料を送ったりとかして、来年6月明けのいちごマラソンの申込みで今月末までじゃないですか。今何か申込みがもう既に来ているとか、そういうのは情報ないですか。それとも、今回これすることによってその効果が出てくるのは令和7年の大会のときなんですかね。

○観光物産課長補佐（和田耕一君） 観光物産課の和田でございます。

今の御質問なんですけども、今回、桃園マラソンとの交流という点におきましては、まず幾つかありまして、2023年12月に開催される桃園国際シティハーフマラソン大会において、玉名市のツアーのお客様40名を上限に、まずマラソンエントリーを無料にさせていただけるということが1つ。

そして、2023年12月に開催される桃園国際シティハーフマラソン大会において、優勝者を2024年2月のいだてんマラソンもしくはいち

ごマラソン大会に招待すると。

そして、この桃園マラソンのあった日に、男子の部43位、女子の部43位の選手に金栗四三賞として金栗トロフィーを授与すると。

そして、2025年2月に開催されるいだてんマラソン、いちごマラソン大会において、10名を上限として、桃園からのマラソン選手のエントリー料を無料にすると。こういった協定を結ぶことになっております。よろしいでしょうか。

○委員（大野豊重君） 大野です。2025年まで計画されているということなんで非常にいいんですが、ただ、一番最後の2025年2月、10名をエントリー無料。でも、今回こっちから行くときには40名無料にしていただけのんで、せめてそこは40人以上のほうがいいのかなと思うんですが。

○観光物産課長補佐（和田耕一君） 観光物産課の和田でございます。

桃園市の政府のほうから、この10名という数字が出てきておりまして、これはあくまでも、今回、玉名市の40名というのは一般のツアーのお客様です。桃園市からの10名というのはマラソンランナーとしての10名ということでお聞きしております。

以上です。

○委員（大野豊重君） 分かりました。これは、ハーフマラソンはもう除いてという認識でよろしいですか。さっきはちょっと、それも含めてと言われてたんですけど。

○観光物産課長補佐（和田耕一君） 観光物産課の和田でございます。

そうですね、今回は、桃園はあくまでも国際シティハーフマラソンということですので、玉名においてフルマラソンに参加されるか、もしくはハーフマラソンに参加されるかは桃園市のほうで決められることになっております。

○委員（大野豊重君） いえ、じゃなくて、玉名市のハーフマラソン、あるじゃないですか、玉名

市の。いちごマラソンのハーフじゃなくて。いちごマラソンの後の。

○観光物産課長補佐（和田耕一君） 金栗杯。

○委員（大野豊重君） 金栗のほうの。それは関係ないですよ、これは。

○観光物産課長補佐（和田耕一君） いいえ、金栗杯のほうも、もしエントリーができればぜひお願いしたいってことは言われております。

○委員（大野豊重君） 何か、出場制限がなかったでしたっけ。

○観光物産課長補佐（和田耕一君） そうです。日本の陸上、たしか陸連のタイムか何かが要ということは何ってあります。

○委員（大野豊重君） 何か出場してないと駄目とかなんかありましたよね。

○観光物産課長補佐（和田耕一君） はい。

○委員（大野豊重君） 分かりました。ありがとうございます。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。どうぞ。

○委員（北本将幸君） 北本です。

資料の6ページの35番なんですけど。ちょっと言われたかもしれないんですけど、この賑わいのまちづくりの業務委託というのは、このまちなか未来プロジェクトの中に事業ば委託するということですか、何か考えるのば委託するということなんですか。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。これは、まちなか未来プロジェクトの一環で、地域で、今、まちづくりをされている方、その支援をするということです。

○委員（北本将幸君） だけん、まちなか未来プロジェクトは全然関係ないということですか。

○都市整備課長（中尾賢治君） グランドデザインを考える上では、全くじゃないですけど直接的には関係ないと。

○委員（北本将幸君） だけん、玉名駅とかのやつということですか。そういうわけじゃなくて。

○都市整備課長（中尾賢治君） そうです。玉名

駅のイベントとか。この前やりましたイベント。そんなときの機器の貸出しとか、そういったのちゅうことです。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに。

○委員（前田正治君） 前田です。

6ページですね、先ほどの7款32番のインバウンド推進事業で、玉名市・桃園マラソン交流事業業務委託なんですけど。これは何を委託されるのかなって。

○観光物産課長補佐（和田耕一君） 観光物産課の和田でございます。

今回の委託料ですけども、現地でのコーディネート料、そして通訳、そしてパンフレット多言語の作成、そして協定書を結ぶに当たっての消耗品が主なものでございます。

以上です。

○委員（前田正治君） なるほど。分かりました。引き続き、前田です。

8款35番の都市計画総務費の中の賑わいのまちづくり地域交流活性化事業業務委託なんですけど。これは何を委託されるんですか。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

この委託内容については、先ほども申しましたが、J R 玉名駅の施設の一部を借りまして、そこをD I Yワークショップで、机とか椅子とか、人が滞在できるような形にしたり、市民団体の方たちの、イベントをされるときに必要な機材、テントや椅子、机、照明器具を貸出したりするやつです。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

そういった機材類とか、いろんなことの貸出しとか、そういう費用を使うと。この事業は、今度したとして、次年度からはどぎゃんなんとですかね。何年か続ける予定なんですかね。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

これは、継続的に行なって、一番始めにそろえるときは、今年度そろえますけど、そのそろえた機材を使える間ずっと貸出しを行なうと。来年、再来年、ずっとイベントが続く限りは貸出しを行なうということになるかと思います。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

イベントが続く間は。いや、財源として国県支出金が半分以上あるじゃないですか。これが、来年、再来年、果たしてこのとおり来るのかなというのも思うし、その分足らんなら一般財源の持ち出しになつとかなとも思うんですけど。そこら辺はどぎゃんなんですかね。

○都市整備課長（中尾賢治君） 都市整備課の中尾です。

地域づくり夢チャレンジ推進補助金は、こういう事業に関してまた新しく3回が限度。3回が限度です。今回これを買った機材は来年買うとかということではないので、この機械は本年度だけということになります。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

3回することによって、ちつとは玉名市も機材をいろいろそろえていって、これから継続的にこういう催物を、まちなか未来プロジェクトですか、そういうところにもお願いして続けるという計画ですね。分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

先ほど山下委員からの御質問がありました湧水施設の年間、維持管理、どのくらいかかっているかということですけども、大体3,500万円から4,500万円程度で、かかっております。

以上です。

○委員（山下桂造君） 山下です。かなりかかっているんですね。積立金もどんな状況になっていますかね。今回1,400万円ぐらい積立てんですが、足らなくなってくる可能性がありますか。

○農地整備課長（丸山隆一君） 農地整備課長の丸山です。

積立金等々を考慮しますと、大体、今のところ15年ぐらいは積立てのほうでもつのかなというところで把握しております。

以上です。

○委員（山下桂造君） ありがとうございます。終わります。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

ここで、執行部の入替えのため暫時休憩いたします。

-----○-----

午前11時43分 休憩

午後 1時00分 開議

-----○-----

○委員長（多田隈啓二君） 休憩前に引き続き委員会を開きます。

次に、健康福祉部、市民生活部所管の審査を行います。

それでは、議第78号令和5年度玉名市一般会計補正予算（第4号）を議題といたします。

執行部から10分以内の説明を求めます。

○総合福祉課長（小山 聡君） 総合福祉課長の小山でございます。

議第78号令和5年度玉名市一般会計補正予算（第4号）中の健康福祉部に関わる案件について御説明を申し上げます。

補正予算資料の3ページをお願いします。

9番、自殺対策推進事業で今回93万円の追加

補正をお願いするものでございます。熊本連携中枢都市圏圏域の関係市町村で行なうSNS相談事業負担金でございます。

これは県内19自治体で、現在、形成しております熊本市を中心とした熊本連携中枢都市圏に玉名市も加わるよう、今議会において連携協約の締結の議案を上程されているところであります。

併せて、今年度上半期から新たな自殺対策として事業実施をするため、補正予算をお願いするものでございます。

事業の内容としましては、SNSのLINEで相談専用アカウントを作成し、住民に友だち登録をしてもらい、登録した方から相談員が相談を受けるというものでございます。相談受付時間につきましては、毎週火曜日と日曜日の18時から22時まででございます。

また、友だち登録は配布チラシ等にQRコードを掲載し、広報を行なうものとしております。

19自治体のうち、現在6市2町2村の10自治体がこの事業に参加しておりまして、熊本市に人口割で負担をするものでございます。

事業の効果としまして、圏域市町村で協力して実施することで、圏域全体の自殺者の減少に資すると考えられ、また、単独自治体では困難な相談員の確保が容易になるものでございます。

相談時間を夜間に設定することで、日中に相談できない方が相談する手段を確保することができるものであります。

また、直接会話する必要がなく、匿名性が高いため、気軽に相談できるという点が大きなメリットであります。

続きまして、10番、地域生活支援事業80万円の増額補正をお願いするものでございます。こちらは障がい者の自動車運転免許取得及び改造に対する助成であります。

こちらは当初予算で70万円を計上しておりますけれども、予算を超えての申請が現在あっているため、過去の実績を踏まえまして、追加補正

を行なうものでございます。

総合福祉課からは以上でございます。

○高齡介護課長（中川由美さん） 高齡介護課長の
中川でございます。

予算資料の４ページをお願いいたします。

１３番、高齡者等就業支援センター管理運営事業
でございます。

今回、修繕料３９万円の増額をお願いするもので
ございますが、これは高齡者等就業支援セン
ター実習棟の電動シャッター及び男子トイレと女
子トイレの修理費用でございます。

高齡介護課からは以上です。

○保健予防課長（村上洋治君） 保健予防課長の
村上です。

同じページの説明予算資料の次の４款、１６番
をお願いいたします。予算書のほうは１９ページ
でございます。

１６番、地域医療体制整備事業でございます
が、ここで７２６万６、０００円の増額補正をお
願いするものでございます。

この事業につきましては、物価高騰の影響を受
ける公立病院への運営支援として、本市内に所在
する熊本県北病院に対し、光熱水費や燃料費のエ
ネルギー価格等の高騰分を支援するものでござい
ます。

以上で、健康福祉部に係る議第７８号の説明を
終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明
は終わりました。

これより質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（西川裕文君） 西川ですけども。

資料３ページの３款、９番の自殺対策推進事業
の予算とはちょっと関係ありませんけども、実際、
玉名市において自殺をされた方のデータはありま
すか。ここ何年間かの。

○総合福祉課長（小山 聡君） 総合福祉課長の
小山でございます。

それでは、令和元年度から申し上げます。

令和元年度が５名です。令和２年度が６名、令
和３年度が１２名、令和４年度が１６名でござい
ます。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

○委員（西川裕文君） はい。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員
間討議はありませんか。

○委員（山下桂造君） 山下です。

今、自殺者の数を聞いてちょっとびっくりして
いるんですけども、何か考えられることとかつ
てありますか。もう答えられないなら答えられな
いで大丈夫です。

○総合福祉課長（小山 聡君） 総合福祉課長の
小山でございます。

細かい内容については、なかなか把握できない
部分がありますけれども、県等に確認する中では
ですね、やはり仕事関係、職場関係の人間関係で
あるとか、職場での悩みというのが多いというふ
うにお聞きしております。

以上です。

○委員（山下桂造君） ありがとうございます。

○委員（松本憲二君） 関連でよかですか。

○委員長（多田隈啓二君） はい、どうぞ。

○委員（松本憲二君） すいません、松本です。

年齢って分かりますか。年齢。何歳代か。

○総合福祉課長（小山 聡君） 総合福祉課長の
小山でございます。

今から申し上げる数字につきましてもですね、
単年度の年齢というのが個人の特定につながる場
合もございますので、これは２０１７年から２０
２１年の５か年の合計を申し上げたいと思います。

男性の２０歳から３９歳までが９件、男性の４
０歳から５９歳までが９件、男性の６０歳以上が
８件。今のは職業があらわれる方でございます。

それと、無職の方につきましては、２０歳から
３９歳までが３人、４０歳から５９歳までが６人

というような状況になっております。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに。

○委員（吉田真樹子さん） 吉田です。

今の関連なんですけど、県内でも玉名は多い。去年か何か新聞にも載ったようなときがあったと思うんですけど、多いほうでしょう。

○総合福祉課長（小山 聡君） 総合福祉課長の小山でございます。

県内の他の自治体の状況については、今、把握をしておりますけれども、少なからず件数のほうあるのかなというふうに感じております。

以上です。

○委員（吉田真樹子さん） ありがとうございます。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（山下桂造君） 山下です。

地域生活支援事業、3ページの10番ですが、障がい者の自動車の助成金なんですけれども、追加ということだったんですが、昨年も追加があったって、大体、毎年何名ぐらい申し込まれていますか。

○総合福祉課長（小山 聡君） 総合福祉課長の小山でございます。

これも令和元年度から申し上げたいと思います。

令和元年度の申請件数が9件、令和2年度が6件、令和3年度が4件、令和4年度が6件でございます。

以上です。

○委員（山下桂造君） 山下です。

今回、補正という形で今年も多かったということで、9人目ですか。7人目がされたから、今回、余計にちょっと補正を上げたということですね。はい、ありがとうございました。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

次に、議第79号令和5年度玉名市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）を議題といたします。

執行部から10分以内の説明を求めます。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

議第79号令和5年度玉名市国民健康保険事業特別会計（第2号）につきまして御説明します。

予算資料は10ページをお願いいたします。

ナンバー1番の賦課徴収費112万2,000円の追加で、国保の産前産後保険税免除のためのシステム改修委託でございます。

令和6年1月1日施行予定の出産する被保険者にかかる産前産後期間の相当分4か月分の所得割及び均等割保険料免除のための改修委託でございます。

以上で、議第79号の説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明は終わりました。

これより質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（前田正治君） 前田です。

今の産前産後の保険税免除なんですけど、これは制度的なもんだと思いますけど、減った分の補填というのはあつとですかね。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

前田委員、減った分というのは、要するに免除して、その減った分の補填ということですかね。

○委員（前田正治君） そうです。

○保険年金課長（松下 匡君） 保険年金課長の松下です。

申し訳ありません。ちょっとそこについては、ちょっとまだ把握できておりません。すいません。

○委員（前田正治君） 前田です。

それは令和6年1月からですか。

○保険年金課長（松下 匡君） はい、そうです。

○委員（前田正治君） まだ条例関係の整備というのはまだしとらんとですかね。

○税務課長（富安 崇君） 税務課長の富安です。

先ほどの財源措置につきましては、国が2分の1、市、県で2分の1の財政支援という形にはなります。減額分はですね。

以上です。

○委員（前田正治君） はい、分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに質疑及び委員間討議はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

これより討論に入ります。

議第79号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 討論なしと認めます。

これより採決に入ります。

議第79号令和5年度玉名市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）については、全員一致をもって可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

次に、議第80号令和5年度玉名市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）を議題といたします。

執行部から10分以内の説明を求めます。

○高齢介護課長（中川由美さん） 高齢介護課長の中川でございます。

同じく予算資料の10ページをお願いいたします。

議第80号令和5年度玉名市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）について御説明いたします。

第1表歳入歳出予算補正、第7款償還金1,720万2,000円の増額をお願いするものです。

今回の補正は令和4年度事業精算として、支払基金交付金分を返還するものでございます。財源といたしまして、繰越金を充てることとしております。

以上で議第80号の説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明は終わりました。

これより質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 質疑及び委員間討議なしと認めます。

これより討論に入ります。

議第80号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 討論なしと認めます。

これより採決に入ります。

議第80号令和5年度玉名市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）については、全員一致をもって可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

ここで執行部の入替えのため、暫時休憩いたします。再開は1時25分からとします。

————○————

午後 1時16分 休憩

午後 1時25分 開議

————○————

○委員長（多田隈啓二君） それでは、休憩前に引き続き委員会を開きます。

次に、教育部所管の審査を行ないます。

議第78号令和5年度玉名市一般会計補正予算（第4号）を議題といたします。

執行部から10分以内の説明を求めます。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

補正予算資料の2ページ目をお願いいたします。

教育総務課の事業といたしまして、7事業ありますが、2事業と、9ページ目の第2表、繰越明許費と第3表、債務負担行為補正を御説明いたします。

まず、2ページ目の10款、事業ナンバー2、学校給食費、賄費等支援事業でございますが、2,286万4,000円を増額し、当初予算額の2億9,039万7,000円から1食当たりでございますが、13.1%分を反映した3億1,326万円にするものでございます。

6ページ目をよろしくをお願いいたします。

事業ナンバー39は、玉名中央学校給食センター事業で、賄材料費の高騰分1,224万9,000円を増額をお願いするものでございます。

次に、7ページ目の事業ナンバー44をお願いいたします。

学校給食管理事業で、学校給食費検討委員会を開催し、令和6年度以降において学校給食費単価を改定しないと、献立の多様性や質、栄養価を維持することが困難であるため、3つの学校給食センターと2つの自校式給食分を一括して協議を行なうこととし、10月に案のほうを提示いたしまして、11月に答申案を協議し、12月に教育委員会議にお諮りしたいというふうに考えているところでございます。

経費といたしまして、委員報酬5人の2回分、5万8,000円とお茶代の3,000円で、計6万1,000円をお願いするものでございます。

引き続き9ページ目をお願いいたします。

第2表、繰越明許費でございますが、事業名、岱明中学校武道場建設工事2億4,775万9,000円におきましては、現在進めている校舎棟改築工事を先行して完成させると、同敷地内に建設の武道場工事の際、工事調整や生徒及び学校関係者への工事管理上の安全対策等の難しさがあるも

のですから、武道場建設において当初予定を変更し、校舎等の工事と完成時期を合わせ、令和6年1月から令和6年11月までの11か月間にて工事を行なうため、年度をまたいで施行するものでございます。

校舎建設と武道場建設の完成時期を合わせることで、工事中の安全上の課題や同時に引っ越しができるなど、学校運営上もスムーズに新しい施設へ移行が可能となることから、繰越しをお願いするものでございます。

次に、中段の第3表、債務負担行為補正の追加分でございますが、事業名、岱明学校給食センター及び天水学校給食センター調理運搬等業務委託で、期間が令和6年から令和10年度までで、限度額3億5,202万5,000円、各年度額7,040万5,000円にて限度額設定を行なうものであります。

これは現在の業務委託期間が令和元年から令和5年度までの5か年であることから、次の5か年間に公募型プロポーザル方式にて、岱明・天水学校給食センター調理運搬等業務委託を発注するものでございます。

受託事業者決定までのスケジュールでございますが、一般公募を10月1日から行ない、書類審査を10月下旬に考え、その後にプレゼンを11月中旬に行ない、11月下旬までには業者決定を行ないたいというふうに考えているところでございます。

以上で、教育総務課の説明は終わります。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） コミュニティ推進課長の西川でございます。

コミュニティ推進課からは、2事業のうち1つの事業を説明いたします。

47番、生涯学習推進事業の54万7,000円の増額は、過疎地対策事業として天水町公民館で予定しております、小学生から高校生までを対象とした学校外でも外国語や異文化を学べる機会と環境を提供するグローバル人材育成事業を開講

するための職員の時間外勤務手当及び報償費でございます。

内容についてですが、職員手当、時間外勤務手当5万1,000円は、天水町公民館で開催を予定しております令和5年12月から令和6年2月までの水曜日の午後5時から午後6時までの1時間の英語講座、令和6年1月実施の英語検定3級合格を目指す講座、計10回分の開催に係る職員1名分の時間外勤務手当、及び令和5年12月から令和6年3月までの休日の昼間、時間は10時から正午までの2時間で開催を予定をいたしております外国人に接する交流イベント3回分に係る職員1名分の時間外勤務手当でございます。

次に、報償費、講座講師謝礼の49万6,000円につきましては、令和5年12月から令和6年2月に開催を予定しております10回分の英語講座。それと、12月から3月に予定しております外国人に接する交流イベント3回分。例えばクリスマスパーティーであったり、リトミックであったり、クッキー作りなどに係る英語講師2名分の謝礼でございます。

コミュニティ推進課からの説明は以上です。

○スポーツ振興課長（小山晃生君） スポーツ振興課長の小山でございます。

スポーツ振興課からは1つを御説明いたします。

予算書27ページ、説明書7ページをお願いいたします。

10款6項1目保健体育総務費で、今回305万6,000円の増額をお願いするものでございます。

48番の中学校部活動地域移行支援事業で、国、県から2つの実証事業の内示を受け、実証業務を総合型地域スポーツクラブいだてん玉名に再委託を行なうことに伴い、当初予算で計上しておりました7節報償費から11節役務費保険料までを減額し、運動部活動地域移行実証事業委託料127万2,000円、合同部活動推進実証業務委託料148万8,000円として、新たに計上するも

のでございます。

また、会計年度任用職員が使用しますパソコン1台分、各種説明会で使用しますプロジェクター及びスクリーンそれぞれ1台分を委託金の性質上、備品購入が対象にならないため、リース対応とし、借上料57万円を計上いたしております。

財源といたしましては、前後いたしますが、予算書12ページ、15款国庫支出金、3項委託金、5目教育費委託金で、合同部活動分として171万3,000円。16款県支出金、3項委託金、8目教育費委託金で、地域移行分として559万5,000円の歳入を予定しております。

また、16款2項県補助金、8目教育費県補助金で205万4,000円の減額は、当初予算の時点では実証事業が確定しておらず、県補助金で対応するため計上しておりましたが、実証事業の委託を受けたため、先ほど説明いたしました委託金に組み替えるものでございます。

以上で、一般会計補正予算の説明を終わります。

○委員長（多田隈啓二君） 以上で執行部の説明は終わりました。

これより質疑及び委員間討議に入ります。

質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（前田正治君） 前田です。

予算資料の2ページですね、物価高騰対策10款のナンバー2番、学校給食費賄等支援事業についてお尋ねします。

これは物価高騰相当額の1年分が2,286万4,000円ということで計上してあるんですけど、この数字の根拠というか。これはなぜこぎゃんだったとかなと。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

現在の物価高騰の推移を見ますと、小学校、中学校ともに、冒頭で申しましたとおり13.1%の物価上昇率でございまして、中を細分化して申しますと、米飯はマイナスの12.51%の減でございまして。パンのほうは16.04%の増でござい

ざいます。牛乳のほうが10.49%の増で、副食費も16.54%の増ということで、1食当たり平均いたしますと、13.1%の増額というふうになっているところでございます。

それと、実際、賄材料費で仕入れているところが公益財団法人の熊本県学校給食会のほうがほとんどでございますので、ある程度の今後の推移も見込めますので、このような結果というふうになっております。

以上でございます。

○委員（前田正治君） 前田です。

なら、1食当たりの13.1%増でこの二千二百何十万円の数字になったという、そういったことでよかったですね。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

そのとおりでございます。

○委員（前田正治君） 予算資料の9ページ、債務負担行為補正で岱明学校給食センター及び天水学校給食センター調理運搬業務が今度は令和6年から10年までということで出ています。

これは5年間の契約なんですけど、今あったような物価高騰などへの対策は、この契約上、何かうたわるとですかね。

○天水学校給食センター所長（安富弘信君） 天水学校給食センターの安富でございます。

まずですね、債務負担行為の金額を決める際に、業者のほうから見積りを数社取っております。その中で当然5年間ということで物価上昇を含んだところで見積もってくださいということで依頼をしております。

それと、契約書の中で「その他協議事項が生じた場合には別途協議する」という事項を入れておりますので、仮に厳しくなったときは、その条項を基に協議をしたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○委員（前田正治君） なるほど。前田です。

5年間の契約だけん、一応、5年間これで、業者も頑張ってせんといかんかなと思うわけですよ。ところが、そういった別途の項目というのを設けとんなら、急に、何と言うかな、不可抗力による今回みたいな物価高騰に対してはその都度協議をしていくということになっとるというわけですね。

はい、分かりました。

なら、併せてよかですか。

○委員長（多田隈啓二君） はい、どうぞ。

○委員（前田正治君） そういったことを踏まえとるから、カロリーとか栄養素とか量とか、その辺はもう基準を満たしているというふうに考えてよかですよ。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

前田委員がおっしゃられるとおりですね、基準は満たした上でですね、献立のほうを調整を図っております。

以上でございます。

○委員（前田正治君） 前田ですけど。

分かりました。

もう1つ、資料の6ページ、10款、30番、40番、41番、全部含めてなんですけど、今、給食センターへのエアコンの設置状況はどげんなってますか。

その都度ここに計上してあるように、設置がしてあって、壊れたら修繕ばするというようなことでずっと取り組まれとつとですかね。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

39番の玉名中央学校給食センターにおきましては、昨年度、空調等を全て入替えを行なっております。

岱明におきましては、2台故障したために、今回エアコン修繕も含めてですね、修繕料49万9,000円お願いしているところでございます。

ほかのセンター及び自校式給食等も故障した場合には、その都度お願いしているところでござい

ます。

以上でございます。

○委員（前田正治君） 前田です。

エアコン、夏の暖房というとは、給食センターじゃあんまり使わんかなと思うとですよ。ああ、夏じゃなかった。冬の暖房。それで夏のやっぱりエアコンがどうしても必要かなと。

そういう意味では、例えば4月頃に定期的な点検をするとか、そぎゃんとはされとつとですかね。もう故障したら対応するという感じなのですかね。どっちですか。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

エアコンの点検と掃除におきましてはですね、冬休み期間、春休み期間等を利用してですね、十分行なっているわけなんですけど、岱明の場合は8台中2台が今回故障したということで、修繕料をお願いしているところでございます。

以上でございます。

○委員（前田正治君） はい、分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） よろしいですか。

ほかに。

○委員（松本憲二君） 関連でよかですか。

○委員長（多田隈啓二君） はい、どうぞ。

○委員（松本憲二君） すいません、松本です。

7ページの44万円で、学校の給食費の検討委員会を立ち上げるということなんですけども、これはもちろんこの物価高騰対策もあって、給食費のちょっと見直しをせんといかんとだろうなというふうなちょっと捉え方をしているんですけども、結局、今、3つの給食センターがあって、自校式が2つあるじゃないですか。

その自校式は非常にいいとは思うんですね。私の子どもたちも横島小学校に行っていましたし、私も横島小学校で育って、自校式だったもんだけがですね。

しかしながら、給食費がだんだんと上がっていくというのは、親の負担にももちろんなるとは思

うんですね。今3つの給食センターと自校式が2つ。今の給食センターが築何年かちょっと分かりませんけれども、岱明にしても、天水にしても、中央にしてもですよ。

荒尾みたいに1つの給食センターにして、やっぱりその分、何と言うかな、1回の給食費の単価をやっぱり見直す。もし値上げをしても、人件費だったり、釜の大きさとかも大きくなりますし、電気代とかも、そこの1つの施設でしてしまうということの試算というのは、この検討委員会の中でもそういうところまで協議をされるわけですかね。

ほら、急々に給食センターば統合するんじゃないくて、今後、将来的にはやっぱり1つの大きい給食センターからもう配送をしたほうがいいのかどうかというところまで踏まえた中で検討されるのかというのをちょっとお伺いしたいんです。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

ナンバー44の学校給食管理事業におきまして、学校給食費の検討委員会経費のほうを上げさせていただいておりますけど、この経費におきましては、あくまでも令和6年度以降の分の学校給食費を単価を改定しないと、今までの献立の多様性、栄養価も料金改定を行なうことを前提として、3センターの学校運営協議会であったり、2校の学校運営協議会の委員様にお集まりいただいて、決定をする、承諾を得る経費のほうをお願いしているところでございます。

それと、松本委員がおっしゃられました今後におきましてですね、自校式給食の廃止を含めた検討、1センター方式にしたらいだろうかという御提案をいただいておりますけど、令和6年度予算にですね、基本構想業務委託経費を上げまして、1センターで本当に運営することが可能なのかも含めてですね、配送距離がどうなのかも含めて、その基本構想の中で検討を図っていきたいというふうに今、考えているところでございます。

以上でございます。

○委員（松本憲二君） すいません。松本です。

この債務負担行為で今度、天水と岱明の業者の5年間の委託契約をされますよね。

ここと今、中央給食センター。今の段階ですよ、今の段階では同じ業者さんなんですかね。

○教育総務課長（西原正信君） 教育総務課長の西原です。

はい、そのとおりでございまして、同一業者でございます。

○委員（松本憲二君） すいません。松本です。

今、全国的にほら、ちょっと学校給食で非常に問題が起こったじゃないですか。ああいうことがやっばないように、やっぱ対応をしていかんと。

うちの玉名市の場合は、給食費、材料が上がったけんということでずっと補正を組んで、その分はですね、市のほうから一般財源の中からずっと補填をしているんで、その辺は大丈夫なのかなというふうには感じておるんですけども、子どもたちがやっぱり一番食べ盛り。しかしながら、給食費が上がるのは、親の負担増につながっていくんで、やっぱり給食センターを1校にしたほうが量も十分だし、値段もそこまで上げんでいいのかなという検討はですね、もう今、先ほど課長がおっしゃったように、令和6年度でしっかり検討をしていただくようお願いをしておきたいと思います。

以上です。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議はありませんか。

○副市長（村上隆之君） 副市長の村上です。

ちょっと皆さん方の捉え方が不十分なところがあるかと思うしますので、説明の仕方の中で、給食費の検討委員の報酬がありまして、給食費の単価当たりを検討する場なんですけど、これは1食当たりの単価というものが、今、値段の高騰が上がって、大体これくらいになるんですよというふうなところを説明し、単価を決めていくというふ

うなところなんです。

実は令和3年度給食費はありまして、令和4年度も実質的には給食費は上がっているんです。ただ、保護者の負担としては、同一なんです。同一にしたわけです。そして、そこをオーバーした分に関しては、市が負担をしているというのが今の状況でございます。

それで、今年、この検討委員会を立ち上げてやるんですが、給食費を上げるがための検討委員会ではなくて、給食費の単価をあくまでもどれくらいになるんだというふうなところで、それから先の部分に関しては政策的な部分の考慮も入ってまいりますので、実態的には給食費を横ばい、保護者の負担は横ばいというふうな考え方でいきたいなというふうには思っております。

決して上げるというのが前もって来ているというわけではないということを御理解いただきたいと思います。

以上です。

○委員（前田正治君） ちょっと関連してですね、給食、施設のことについての話があったんですけど、今、単独とセンター方式と一緒にになって、玉名市全体を賄いよっとですけど、ずっと以前、中央給食センターを造ったときに、当時の教育長が、そういう文書もたしかあったと思うんですけど、単独校の見直しということにも言及してあったんですよ。

で、ずっとそのまま来とるけん、「わあ、よかったな」と思うととですけど、やっぱ今の賢明な教育長はですね、やっぱ単独校の継続というような、やっぱ昔に帰って見直しというようなことは、やっぱそれはいかがかなと思うけん、一言ちょっと言うときます。

続けてよかですか。

○委員長（多田隈啓二君） はい、どうぞ。

○委員（前田正治君） この夏、暑かけんですね、全国で熱中症で子どもたちがちょっと具合が悪くなったとか、もうほんのこて気の毒ばってん、亡

くなったというようなこともあったじゃないですか。体育や部活動におけるそうした暑さ指数、熱中症対策というようなことでの対応はどぎゃんふうにされとつか。実際にあんまり暑かけん、もう部活動も中止したというようなことが、実態としてあるのかどうかちょっとお尋ねします。

○教育総務課審議員（成瀬陽一君） 教育総務課指導主事の成瀬です。

学校のほうには校長会あたりを通じて、暑さ指数で学校の体育、もしくは部活動の活動を制限もしくは中止するよう伝えてあります。

以上です。

○委員（前田正治君） 前田です。

ですから、実際、中止したようなことがあったのかどうか。

○教育総務課審議員（成瀬陽一君） 教育総務課の成瀬です。

中止があったかどうかという連絡は受けておりませんが、一部報告で夏のプールの活動を中止したりとか、体育を中止したという話はお聞きしております。

○委員（前田正治君） 前田です。

じゃあ、熱中症対策についての指針というのが文部科学省から出とっですよね。校長先生たちも持っとなんて思うけん、そういったことにのっとして、きちんとされているということでよかですよね。

はい、じゃあ分かりました。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議はありませんか。

○委員（山下桂造君） 山下です。

ちょっと聞き漏らしたのかもしれないですけども、7ページの47番の生涯学習推進事業についてなんですけれども、天水のほうで行なうということですが、参加対象というのは玉名市内全域はどんなふうになっておりますか。教えてください。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） コミュニティ推進課長の西川でございます。

まず、対象者につきましてはですね、玉名市在住、全域の小学5年生以上から高校生ですね。

以上です。

○委員（山下桂造君） 山下です。

ならもう、募集がいつかかかるということになるんですね。

○コミュニティ推進課長（西川慶一郎君） コミュニティ推進課長の西川でございます。

予算がですね、承認いただければですね、広報たまなのほうでですね、募集をかける予定でございます。

以上です。

○委員（山下桂造君） はい、ありがとうございます。

○委員長（多田隈啓二君） ほかに質疑及び委員間討議はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） これにて質疑及び委員間討議を終結いたします。

以上で、議第78号令和5年度玉名市一般会計補正予算（第4号）に関する質疑及び委員間討議は全て終結いたしました。

これより討論に入ります。

議第78号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 討論なしと認めます。

これより採決に入ります。

議第78号令和5年度玉名市一般会計補正予算（第4号）については、全員一致をもって可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（多田隈啓二君） 異議なしと認め、さよう決定いたしました。

以上で今回の予算決算委員会に付託されている案件の審査は終了いたしました。

ここでお諮りいたします。

委員長報告の作成につきましては、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありま

せんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（多田隈啓二君） 御異議なしと認めます。よって、さよう決定いたしました。

以上で、今期予算決算委員会に付託されておりました案件の審査は全て終了いたしました。

これにて予算決算委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

-----○-----

午後 1時51分 閉会

玉名市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

予算決算委員会委員長

多田隈 啓 二

玉名市議会委員会記録
予算決算委員会

令和5年9月15日招集
令和5年9月19日招集
令和5年9月20日招集

発行人 予算決算委員長 多田 限 啓 二
編集人 玉名市議会事務局長 糸 永 安 利
作成 株式会社アクセス
電話(096)372-1010

玉名市議会事務局

〒865-8501 熊本県玉名市岩崎 163 番地
電話(0968)75-1155